

西ノ前遺跡 発掘調査報告書

財団法人
山形県埋蔵文化財センター



6-1994-129-01

1 9 9 4

1994
129
6

財団法人 山形県埋蔵文化財センター

にし の まえ
西ノ前遺跡
発掘調査報告書



094 - 199

平成6年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター



西ノ前遺跡出土土偶



西ノ前遺跡出土土偶 (1/2)



西ノ前遺跡出土土偶 (1/2)



空中写真 (南から)



S X261・F-2区 遺物出土状況 (西から)



S K101土層断面 (南から)



ST 9 住居跡群全景(南から)



ST 9 d (東から)

序

本書は、舟形町西ノ前遺跡の調査成果をまとめたものです。

西ノ前遺跡は山形県の北部に位置する最上郡舟形町にあります。舟形町は古く有名な清流小国川に代表される豊かな自然に恵まれた地域であり、また、最上郡と村山郡をつなぐ交通の要衝でもあります。

調査では小国川の河岸段丘上に営まれた縄文時代中期の集落跡と、不用になった生活用具を廃棄したと考えられる沢の跡が検出され、日本でも最大級とみられる土偶をはじめ多くの縄文土器、石器が出土しました。

埋蔵文化財は祖先が長い歴史の中で創造し育んできた貴重な遺産といえます。私たちは国民的財産の文化財を大切に保護し、さらに郷土の歴史の中で培われた文化を後世に引き継がねばなりません。一方、平和で豊かなくらしは私たちが等しく切望しているところです。近年、高速自動車道やバイパス、農業基盤整備事業など国県等の事業が増加していますが、これに伴い事業区域内で発掘調査を必要とする遺跡が増加の傾向にあります。

事業区内の遺跡の調査は、埋蔵文化財保護と開発事業実施のため、適切かつ迅速に行われることが今日求められています。こうした要請に適切に対処するとともに埋蔵文化財調査体制の充実を図ることが急務とされ、平成5年4月に財団法人山形県埋蔵文化財センターが設立されました。職員一同、県民と関係各位の要望に応え本県の埋蔵文化財保護のため一層の努力をいたす所存です。今後とも当センター発足の目的が遂行されるようご支援ご協力を賜わりたくお願い申し上げます。

本書が文化財保護活動の啓蒙普及、学術研究、教育活動などにおいて皆様のご理解の一助ともなれば幸いです。

最後になりましたが、調査においてご協力をいただいた地元の方々をはじめ関係各位に心から感謝申し上げます。

平成6年3月

財団法人 山形県埋蔵文化財センター
理事長 木場清耕

例 言

- 1 本書は一般国道13号尾花沢新庄道路改修事業に係る「西ノ前遺跡」の緊急発掘調査の報告書である。
- 2 発掘調査は平成4年度に山形県教育委員会が主体となり、山形県埋蔵文化財緊急調査団が担当した。資料整理は山形県教育庁文化課の調整を経て、建設省東北地方建設局山形工事事務所の委託により、平成5年4月に発足した財団法人山形県埋蔵文化財センターが実施した。
- 3 調査要項は下記のとおりである。

遺 跡 名 西ノ前遺跡 (BFGNM) 遺跡番号 昭和61年度登録
所 在 地 山形県最上郡舟形町舟形字西ノ前
調 査 期 間 発掘調査 平成4年5月21日～平成5年3月25日
現地調査 平成4年6月8日～平成4年10月6日 78日間
資料整理 平成5年4月1日～平成6年3月25日

発掘調査担当
調 査 主 体 山形県教育委員会
調 査 担 当 山形県埋蔵文化財緊急調査団
調 査 担 当 者 佐々木洋治 名和 達朗 黒坂 雅人

資料整理担当
業 務 主 体 財団法人山形県埋蔵文化財センター
業 務 担 当 佐々木洋治 佐藤 庄一 黒坂 雅人 氏家 信行
- 4 発掘調査及び本書を作成するにあたり、建設省東北地方建設局山形工事事務所、舟形町教育委員会、最上教育事務所等関係機関の協力を得た。また現地調査にあたり川崎利夫、長沢正機両氏よりご指導を賜った。ここに記して感謝申し上げます。
- 5 本書の作成・執筆は黒坂雅人が担当した。また第二章3は北海道大学教授吉崎昌一氏より玉稿を賜った。ここに記して感謝申し上げます。編集は安部実、伊藤邦弘が担当し、全体については佐々木洋治が監修した。
- 6 遺構平面図及び遺物実測図のうちの縄文土器、土偶、打製石器については、株式会社シン技術コンサルに実測業務を委託した。
- 7 出土遺物、調査記録類については、財団法人山形県埋蔵文化財センターが一括保管している。

凡 例

- 1 本書で使用した遺構・遺物の分類記号は下記のとおりである。

ST……………竪穴住居跡 SK……………土壇・陥穴 SD……………溝跡
SX……………性格不明遺構 SP……………ピット群 EL……………炉跡
EK……………住居跡内土壇 EP……………住居跡内柱穴 P……………土器
RP……………一括・登録土器 RQ……………登録石器 S……………鏝
- 2 遺構番号は、現地調査段階での番号をそのまま報告書での番号として踏襲した。
- 3 報告書執筆の基準は下記のとおりである。
 - (1) 調査区概要図・遺構配置図・遺構実測図中の方は磁北を示している。
 - (2) グリッドの南北軸は、N-4'-Wである。
 - (3) 遺構実測図は1/40・1/50・1/60・1/100・1/200で採録し、各挿図毎にスケールを付した。
 - (4) 第3図遺構配置図中の網点は、竪穴住居跡の位置を示している。同図中の数字は主な遺構番号を示し、分類記号は割愛した。また、遺構実測図第5図～第11図の網点は焼土を示す。
 - (5) 土器実測図中の網点は赤色顔料の塗布が明確な部分を示している。
 - (6) 土器・土製品の拓影・実測図は1/2, 1/3, 1/4の縮尺とし、各々にスケールを付した。
 - (7) 石器・石製品の实測図は、剥片石器、石製品が1/2, 磨製石器、礫石器が1/3とし各々にスケールを付した。
 - (8) 土器・土製品、石器・石製品は挿図中し番号とし、図版に付した番号と対応する。また本文中の記述にもこの通し番号を使用した。石器属性表中には参考のため、登録番号を併記した。
 - (9) 土器・土製品の拓影・実測図中には挿図番号に続いて出土地点及び登録番号を併記した。また石器・石製品の实測図中には属性表のないものについてのみ出土地点を併記している。
- 00 遺物図版の縮尺は1/2, 1/3, 1/4とし各々左下()中に記載したが図版39は任意の縮尺とし左下()中に横最大幅を記載した。

目次

I 調査に至る経過	1
II 遺跡の立地と環境	
1 地理的環境	3
2 歴史的環境	3
3 山形県西ノ前遺跡種子分析報告	4
III 調査の経過	6
IV 遺跡の概観	9
V 遺構と遺物	
1 竪穴住居跡	10
2 土 壌	18
3 S X 261	26
4 縄文土器	30
5 土製品	75
6 石 器	90
7 中・近世の遺構と遺物	141
VI 調査のまとめ	142
報告書抄録	144

挿 図

第1図 遺跡位置図	2	第16図 土壌(5)	23
第2図 調査区概要図	6	第17図 土壌(6)	24
第3図 遺構配置図	7	第18図 土壌(7)	25
第4図 土層柱状図	9	第19図 S X 261遺物分布図	27
第5図 S T 1	11	第20図 S X 261トレンチ土層断面	29
第6図 S T 260	12	第21図 縄文土器(1)	33
第7図 S T 9 d	13	第22図 縄文土器(2)	34
第8図 S T 9 e	14	第23図 縄文土器(3)	35
第9図 S T 9 g	15	第24図 縄文土器(4)	36
第10図 S T 34	16	第25図 縄文土器(5)	37
第11図 S T 96	17	第26図 縄文土器(6)	38
第12図 土壌(1)	19	第27図 縄文土器(7)	39
第13図 土壌(2)	20	第28図 縄文土器(8)	40
第14図 土壌(3)	21	第29図 縄文土器(9)	41
第15図 土壌(4)	22	第30図 縄文土器(10)	42

第31図 縄文土器(1)	43	第67図 土偶(5)	80
第32図 縄文土器(2)	44	第68図 土偶(6)	81
第33図 縄文土器(3)	45	第69図 土偶(7)	82
第34図 縄文土器(4)	46	第70図 土偶(8)	83
第35図 縄文土器(5)	47	第71図 土偶(9)	84
第36図 縄文土器(6)	48	第72図 土偶(10)	85
第37図 縄文土器(7)	49	第73図 土偶(1)	86
第38図 縄文土器(8)	50	第74図 土偶(2)	87
第39図 縄文土器(9)	51	第75図 土製品(1)	88
第40図 縄文土器(10)	52	第76図 土製品(2)	89
第41図 縄文土器(1)	53	第77図 石匙模式図	96
第42図 縄文土器(2)	54	第78図 石筥模式図	98
第43図 縄文土器(3)	55	第79図 石器実測図 石鏃他	107
第44図 縄文土器(4)	56	第80図 石器実測図 石鏃・石匙	108
第45図 縄文土器(5)	57	第81図 石器実測図 石匙	109
第46図 縄文土器(6)	58	第82図 石器実測図 石筥(1)	110
第47図 縄文土器(7)	59	第83図 石器実測図 石筥(2)	111
第48図 縄文土器(8)	60	第84図 石器実測図 石筥(3)	112
第49図 縄文土器(9)	61	第85図 石器実測図 石筥(4)	113
第50図 縄文土器(10)	62	第86図 石器実測図 石筥(5)	114
第51図 縄文土器(1)	63	第87図 石器実測図 石筥(6)	115
第52図 縄文土器(2)	64	第88図 石器実測図 搔器・削器	116
第53図 縄文土器(3)	65	第89図 石器実測図 削器他	117
第54図 縄文土器(4)	66	第90図 石器実測図 打製石斧(1)	118
第55図 縄文土器(5)	67	第91図 石器実測図 打製石斧(2)	119
第56図 縄文土器(6)	68	第92図 石器実測図 打製石斧(3)	120
第57図 縄文土器(7)	69	第93図 石器実測図 打製石斧他	121
第58図 縄文土器(8)	70	第94図 石器実測図 円盤状礫石器他	122
第59図 縄文土器(9)	71	第95図 石器実測図 磨製石斧(1)	123
第60図 縄文土器(10)	72	第96図 石器実測図 磨製石斧(2)	124
第61図 縄文土器(1)	73	第97図 石器実測図 磨製石斧(3)	125
第62図 縄文土器(2)	74	第98図 石器実測図 磨石(1)	126
第63図 土偶(1)	76	第99図 石器実測図 磨石(2)	127
第64図 土偶(2)	77	第100図 石器実測図 磨石(3)	128
第65図 土偶(3)	78	第101図 石器実測図 磨石(4)	129
第66図 土偶(4)	79	第102図 石器実測図 磨石(5)	130

第100図 石器実測図 凹石(1)……………131	第109図 石器実測図 石皿(3)……………137
第101図 石器実測図 凹石(2)……………132	第110図 石器実測図 石製品(1)……………138
第102図 石器実測図 凹石(3)……………133	第111図 石器実測図 石製品(2)……………139
第103図 石器実測図 凹石(4)……………134	第112図 石器実測図 石製品(3)……………140
第104図 石器実測図 石皿(1)……………135	第113図 S D 262 ………………141
第105図 石器実測図 石皿(2)……………136	

表

表1 石鏃属性表……………97	表8 磨製石斧属性表……………101
表2 石匙属性表……………97	表9 磨石属性表(1)……………102
表3 石筥属性表(1)……………98	表10 磨石属性表(2)……………103
表4 石筥属性表(2)……………99	表11 磨石属性表(3)……………104
表5 播器・削器属性表……………99	表12 磨石属性表(4)……………105
表6 打製石斧属性表……………100	表13 凹石属性表(1)……………105
表7 偏平礫石器・敲石属性表……………100	表14 凹石属性表(2)……………106

図 版

巻頭図版1 西ノ前遺跡出土土偶
巻頭図版2 同上
巻頭図版3 同上
巻頭図版4 空中写真
巻頭図版5 S X 261・F-2区遺物出土状況 S K 101土層断面
巻頭図版6 S T 9住居跡群全景 S T 9 d
図版1 遺跡近景 調査前全景
図版2 前期調査区トレンチ調査状況 後期調査区トレンチ調査状況
図版3 S X 261・C-5区遺物出土状況 S X 261・C-6区遺物出土状況
図版4 S X 261・F-2区遺物出土状況 S X 261・R P 275出土状況
図版5 S X 261・R P 181, 182出土状況 S X 261・R P 193出土状況
図版6 S X 261・E区トレンチ土層断面
図版7 S X 261全景
図版8 S T 1 S T 260
図版9 S K 107 S K 107土層断面 S K 101 S K 116土層断面 S K 8土層断面 S K 65土層断面 S K 240作業状況 I-24区石棒出土状況

図版10 S K 52遺物出土状況 S K 169遺物出土状況
図版11 S T 9住居跡群全景 S T 9 e
図版12 S T 9 g S T 9 g E L 15・16
図版13 S T 34
図版14 S T 96
図版15 S D 262 S D 262土層断面
図版16 S D 32 調査区全景
図版17 縄文土器 1
図版18 縄文土器 2
図版19 縄文土器 3
図版20 縄文土器 4
図版21 縄文土器 5
図版22 縄文土器 6
図版23 縄文土器 7
図版24 縄文土器 8
図版25 縄文土器 9
図版26 縄文土器 10
図版27 縄文土器 11
図版28 縄文土器 12
図版29 縄文土器 13
図版30 縄文土器 14
図版31 土偶 1
図版32 土偶 2
図版33 土偶 3
図版34 土偶 4
図版35 土製品
図版36 石鏃・尖頭器・石錐
図版37 石匙
図版38 石筥・播器
図版39 石筥
図版40 打製石斧
図版41 磨製石斧 1
図版42 磨製石斧 2
図版43 磨石・凹石・石鏃
図版44 石皿
図版45 石製品・小形磨製石斧

I 調査に至る経過

西ノ前遺跡は昭和61年10月に山形県教育委員会が主体となっておこなった遺跡詳細分布調査によって発見、登録された遺跡である。この調査は、国道13号線舟形バイパス(当時)の着工が具体化したことにより、事業主体である建設省からの依頼を受けて実施したものであった。その際に調査対象とされた舟形地区には、新たに発見された西ノ前遺跡、仲ノ原遺跡と、既知の遺跡である権跡の3箇所の遺跡の存在が明らかとなった(山形県教育委員会1987)。

その後平成元年9月に山形県教育委員会がおこなった「各種事業計画聴取」において、舟形バイパスは「一般国道13号尾花沢新庄道路改築工事」に事業名が変更され、高規格道路として事業規模も拡大されることが明示された。それに伴い正式なルートが策定され、西ノ前遺跡が路線敷にはいる可能性が生じた。山形県教育委員会では建設省東北地方建設局山形工事事務所との間で現状保存を前提とした協議を重ね、用地買収後に遺跡のより具体的な内容を把握するための試掘調査を実施することで合意した。

試掘調査は平成3年8月5日に試掘箇所を確定するための表面踏査をおこなった後、同年8月20日から8月23日の日程で実施された。計画路線内で遺跡がかかると思われる区域について、1m四方の試掘坑を59箇所を設定し、地山面まで掘り下げ、断面柱状図、検出遺構略測図、写真撮影、遺物の収納等記録作業をおこない、遺構と遺物の有無を確認した。舌状段丘基部以南は地山が泥炭質となり遺物が出土せず、小国川にむかって舌状に張り出す段丘を中心に28箇所で遺構、遺物が検出された。この区域では表土下20~40cmに礫を含む黒褐色または暗褐色土が堆積し、遺物包含層と認識された。また土塊、ピット等のほか、炭化物や焼土ブロックを含む土色変化が7箇所で見出されている。特に段丘西側の一段低位となる面では、多量の縄文土器を包含する土層が厚く堆積し、路線内に土器、石器等の廃棄場所の存在する可能性が指摘された。

この調査により、遺跡の範囲は昭和61年度時点で見出されたものより30mほど南側に広がることが確認された。遺跡の性格は東西85m、南北125m、面積10,500m²の規模をもつ縄文時代中期の集落跡であり、集落全体の西半分にあたる約4,450m²が路線内にかかることが判明した。

山形県教育委員会ではこの試掘調査の結果をもとに建設省側と再度調整をおこない、本遺跡の範囲外に路線を変更することが不可能であるとすれば記録保存のための発掘調査をおこなうことが必要であることを平成3年9月5日付で建設省に通知した。

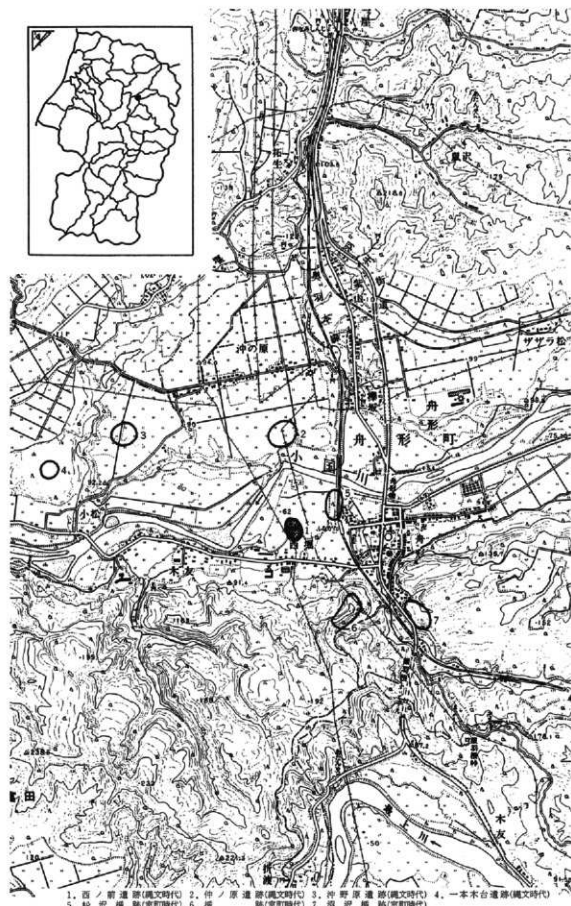
発掘調査に至るまでのその後の経過は以下の通りである。

平成4年1月14日付で教育長あてに発掘調査及び調査経費見積の依頼があった。

平成4年4月1日付で工事事務所長あてに回答をおこなう。

平成4年4月28日付で知事あてで委託契約についての協議がなされる。

平成4年5月21日付で委託契約締結。



第1図 遺跡位置図 (S = 1 : 25,000)

II 遺跡の立地と環境

1 地理的環境

西ノ前遺跡は山形県の北部、最上郡舟形町舟形字西ノ前に所在する。JR奥羽本線舟形駅の西約300m、町立舟形中学校の北東約200mの比較的町の中心地に近いところに位置している。舟形町は最上郡の南端、北村山郡と境を接するところにあり、町の中央を流れる小国川沿いに点々と集落の並ぶ農村地帯である。小国川は蛇行を繰り返しながら町を東から西へ横断し、西部の堀内地区で最上川に合流する。川の両岸には河岸段丘が発達し、丘陵が迫る谷状の地形の底に、狭いながらも耕作や居住に適した平地を形成している。この川は現在でも鮎釣りで有名な清流として知られており、周囲の丘陵地帯とあいまって、縄文時代の人々に豊かな生活の糧を提供していたものと考えられる。

遺跡はこの小国川左岸に舌状に張り出した標高72mの河岸段丘上に立地する。地目は水田、畑地、荒地となっている。遺跡の南には猿羽根山へつながる低い丘陵地帯が広がり北村山郡との境界をなすが、山間部に近いとはいえ比較的日照に恵まれた場所に占地している。段丘端部から小国川までは現在約150mの距離があるが、治水のなされなかった時代には川は頻繁に流れを変えたものと思われる。調査が進むにつれて、遺跡がの段丘周辺部が集落断絶後により侵食を受けていることがわかってきた。段丘直下の沖積地までは比高差約9mの急な段丘崖が形成されている。

2 歴史的環境

最上郡域で発見されている遺跡は、河岸段丘上の縄文時代の集落跡と丘陵地帯の旧石器時代の遺跡、旧街道に隣接した中世の居館あるいは榊跡が大半を占める。これまでに知られている弥生時代から鎌倉時代にかけての遺跡は非常に数少ないのが現状である。舟形町においてもこの状況は同様である。しかし、古代の水駅である「遊覧駅(さるはねのえき)」が町内堀内付近に比定されるなど、交通の要衝としてはやくから開けた地域であったと言えることができる。第1図は西ノ前遺跡と周辺遺跡の位置関係を示したものである。小国川両岸に発達した河岸段丘上に分布する縄文時代遺跡と、旧羽州街道沿いに北村山郡への出口を固めるように分布する榊跡の配置が目まされよう。以下に西ノ前遺跡付近の縄文時代遺跡の概要を述べる。

仲ノ原遺跡 山形県教育委員会が実施した昭和61年の舟形バイパス建設工事に係る遺跡詳細分布調査において、西ノ前遺跡とともに発見、登録された遺跡である。小国川をはさんで西ノ前遺跡の対岸、標高99mの河岸段丘上に立地する。縄文土器、剥片が段丘縁辺部の畑に散布しているのが確認されたが、詳細な時期は不明である。

沖野原遺跡 小国川右岸の標高93mの河岸段丘上に立地する。昭和45年頃の開田に際して石礫などが出土した。かなり削平を受けているようであり詳細は不明である。

一本木台遺跡 小国川支流をはさんで沖野原遺跡の対岸段丘上に位置する。現状は荒地、杉林となっている。造林の際に石礫、縄文土器片(大木8a式)などが採集されている。

3 山形県西ノ前遺跡種子分析報告

西ノ前遺跡において縄文時代中期大木8a期住居中の(E L-15・16)グリッドから採取された土壌17ℓを分析した結果をお知らせします。

(1) サンプル土壌 E L-16 12ℓ

このサンプルからは微細な炭化木片が検出されています。樹種は確定不可能です。

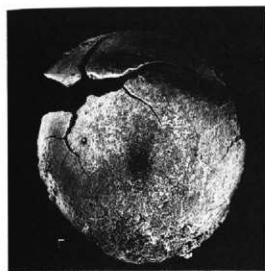
(2) サンプル土壌 E L-15 5ℓ

このサンプルからはシソ属(*Perilla* L.)の種子が3粒検出されました。付図の1 aは果皮上層部分の剝離した標本で、表面に通常認められるネット状の構造は脱落しています。1 bは1 aの部分を750倍に拡大したものです。図左側下半部に果皮下の短冊状の細胞構造が観察されます。2 aは果皮の剝離した標本で、その部分を拡大観察しますと、シソ属に特有のワラジ状構造が認められます。この構造が確認された事で、これらの種子がシソ属である事が明らかになりましたが、これだけの資料だけでは、この標本がシソなのかエゴマであるかを判定する根拠になりませんので、属レベルの同定結果となりました。

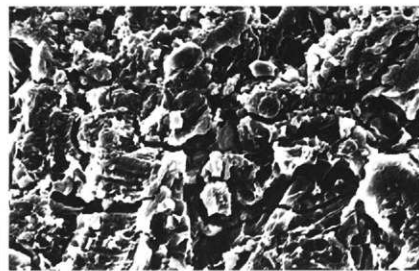
調査に関する若干のコメント：

縄文時代中期前半の時期は、イネ科の植物種子やマメなどが出土する傾向がありますので、こまかな炭化物片が含まれる部分については、より詳細な注意を払って下さい。その場合、とくに層準に気をつけて土壌を採取される事を望みます。

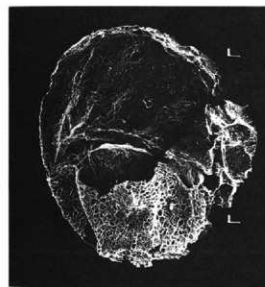
北海道大学 文学部 基礎文化論講座
北海道大学 埋蔵文化財調査室
吉崎 昌一



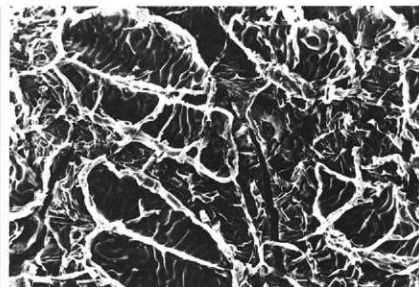
1 a シソ属 ×35



1 b 1 aの拡大 ×750



2 a シソ属



2 b 2 aの拡大 ×750

×35のスケール 「」の間隔1.0mm

III 調査の経過

調査は事業地区内約4,450m²を対象として実施された。工法の関係上、仮設道路をはさんで南側を先行して調査し、その後北側の調査に入るかたちをとった。調査時には便宜上前者を前期調査区、後者を後期調査区として作業を進めた(第2図)。現地調査は平成4年6月8日から10月6日まで延べ78日間実施した。以下に現地調査の経過を略記する。

6月8日 現場事務所に器材を搬入。午後2時から現地において県教委、町教委、建設省の関係者、作業員出席のもと敷入式をおこなう。

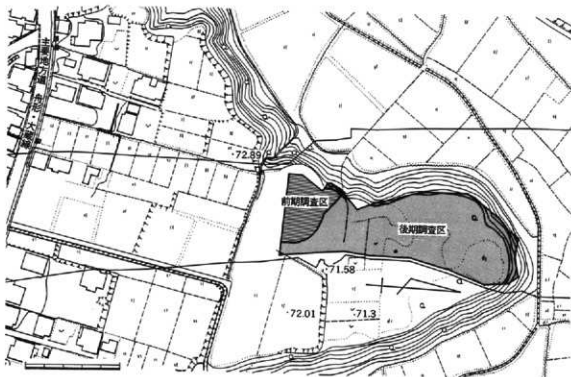
6月9日～30日 調査区内の環境整備後、調査区の設定、グリッド軸線を定めるための基準杭の設定および手掘りによるトレンチの掘り下げをおこなう。15日から重機による表土の掘り下げを開始、これと並行して調査区の面整理作業と前期調査区ST1他の精査および記録作業、SX261の掘り下げ作業を実施した。

7月1日～8月7日 前期調査区ではSX261の掘り下げ、後期調査区では面整理作業と遺構検出作業を実施。8月7日午後に建設省関係者立ち会いのもと前期調査区の現地引き渡しをおこなった。

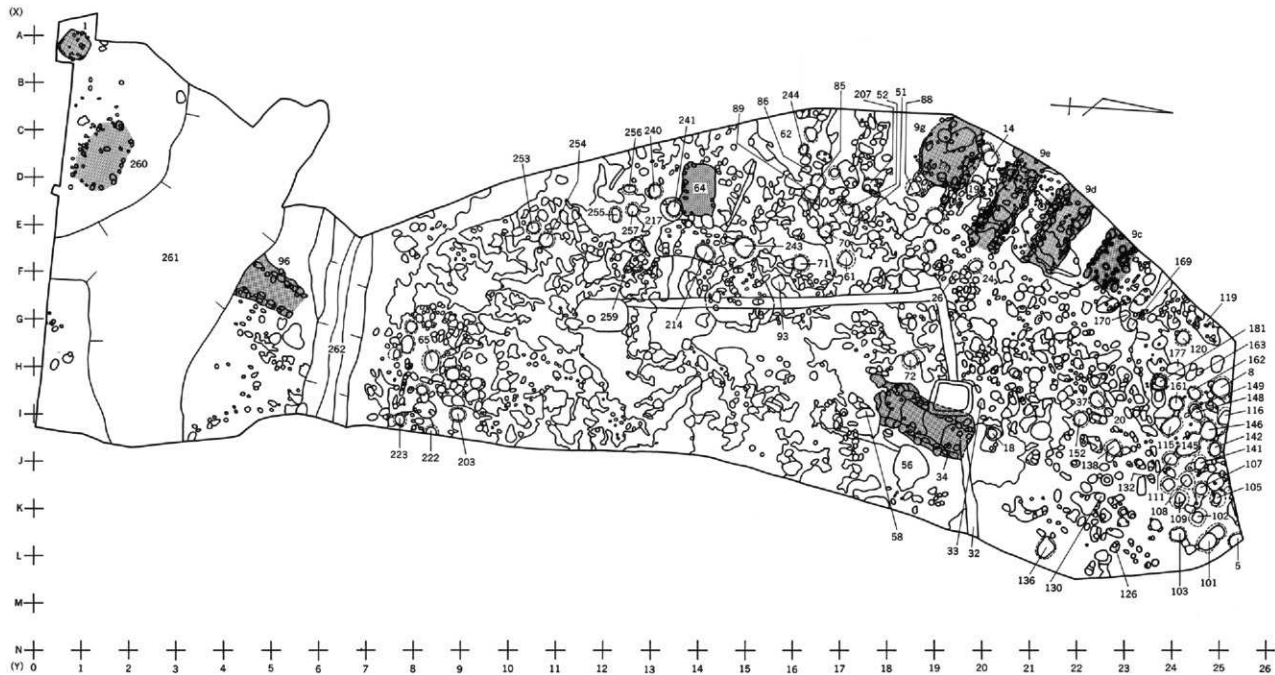
8月17日～9月4日 後期調査区の遺構掘り下げ作業と記録作業を実施。

9月7日～10月5日 仮設道路の付け替えが9日まで実施される。10日から仮設道路下の部分について精査開始。SX261の東方への広がりやST96を検出した。後期調査区では遺構の掘り下げと記録作業を継続する。その間9月25日に調査説明会を開催。

10月6日 現地調査終了、器材撤収。



第2図 調査区概要図



ST : 1 · 9 c · 9 d · 9 e · 9 f · 34 · 64 · 96 · 266
 SK : 5 · 8 · 14 · 18 · 19 · 20 · 21 · 26 · 33 · 37 · 51 · 52 · 58 · 61 · 65 · 70 · 71 · 72 · 85 · 86 · 88 · 89 · 93
 101 · 102 · 103 · 105 · 107 · 108 · 109 · 111 · 115 · 116 · 120 · 126 · 130 · 132 · 136 · 138 · 141 · 142 · 145 · 146 · 148 · 149 · 152 · 161
 162 · 163 · 169 · 170 · 177 · 181 · 203 · 207 · 214 · 217 · 222 · 223 · 240 · 241 · 243 · 244 · 253 · 254 · 255 · 256 · 257 · 259
 SD : 35 · 262
 SX : 56 · 62 · 119 · 261

0 1 : 400 20m

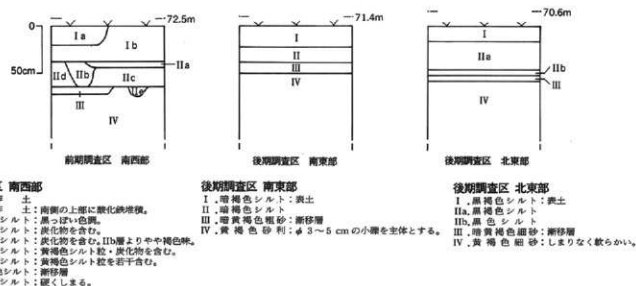
第3図 遺構配置図

IV 遺跡の概観

基本層序 (第4図) I層の表土とII層シルト層については、層厚や色調に異同があるものの調査区全体にわたって確認された。縄文時代の生活面はII層中にあるものと考えられるが、生活面での遺構検出は困難である。遺構確認面であるIII層暗黄褐色シルト層(新移層)は後期調査区には安定してみられるが、前期調査区では部分的に消滅しているところがある。IV層地山は3つの異なったパターンが観察された。S X 261の南では風化層が多く混じる黄褐色シルト層であり硬くしまっている。その北では砂利層としまりのない黄褐色細砂が交互に帯状に分布する。

遺構の分布 (第3図) S X 261の南では開田時の削平が一部IV層までおよんでおり、2棟の住居跡の他は若干の土壇とピットが検出されたのみである。しかし住居跡の配置から遺跡範囲は調査区外段丘西側に広がる可能性がある。S X 261の北は舌状段丘部分を中心に遺構が密に分布する。段丘崖の侵食は集落の一部にまでおよんでいるが、概ねその構造を把握することができた。竪穴住居跡は検出標数が少ないものの縁辺部に配置される傾向が看取された。土壇は全域にわたって検出されたが、フラスコ状土壇は北縁部への集積が顕著である。各遺構の所属時期は出土遺物から大木7 b式から大木8 b式期の範囲でとらえられ、その主体は大木8 a式期にあると考えられる。また中・近世の所産と考えられる堀跡、溝跡等が検出されているが、出土遺物はごく僅少である。

遺物の分布 今回の調査で出土した遺物は、縄文時代中期の土器、土製品、石器、石製品、銅片等を中心に整理箱にして約900箱を数える。このうち700箱以上がS X 261から得られたものである。集落部分の遺物はII層中では希薄であり、各遺構の堆積土中から出土したものが大半を占める。



第4図 土層柱状図

V 遺構と遺物

1 竪穴住居跡

ST 1 (第5図) A-1・2区で検出された、一辺が約3mの不整形プランの小形の竪穴住居跡である。北西辺に攪乱をうけるが床面、壁はしっかりしており、南東および北東辺には周溝と壁柱穴が巡る。主柱穴は判然としない。床面中央に地床炉をもつ。出土遺物は大木8 a 式期を主体とする。

ST 260 (第6図) B~D-1・2区から検出された。削平がIV層にまでおよんでいるため穴だけが検出されたが、長軸8m、短軸5m程の楕円形プランの竪穴住居跡であったと考えられる。所属時期は概ね大木8 a 式期と考えられる。

ST 9 住居跡群 (第3図) 調査区北西辺、C~F-19~24区において東西12m、南北29mの範囲で土色変化が観察され、精査の過程で複数の竪穴住居跡の集合であることがわかった。その中で最終的にプランが確認されたのは以下に述べる4棟である。各住居跡は長軸が集落の中心部に向かってそれぞれが2~3mの間隔で並び、堆積土内からの出土遺物も大木8 a 式を主体に大きな時期差が認められないことから同時存在の可能性が高い。

ST 9 c (第3図) E・F-22・23区検出。長軸6m以上、短軸4mの長方形プランと推定される。壁および床面は判然としない。内部施設は未検出。

ST 9 d (第7図) D・E-21~23区検出。ST 9 cの南西約2.6mに位置する。長軸9m以上、短軸4.2m前後の長方形プランとなる。壁、床面は不明瞭である。柱穴の重複が著しく同じ場所で建て替えが頻繁におこなわれていたと推察される。

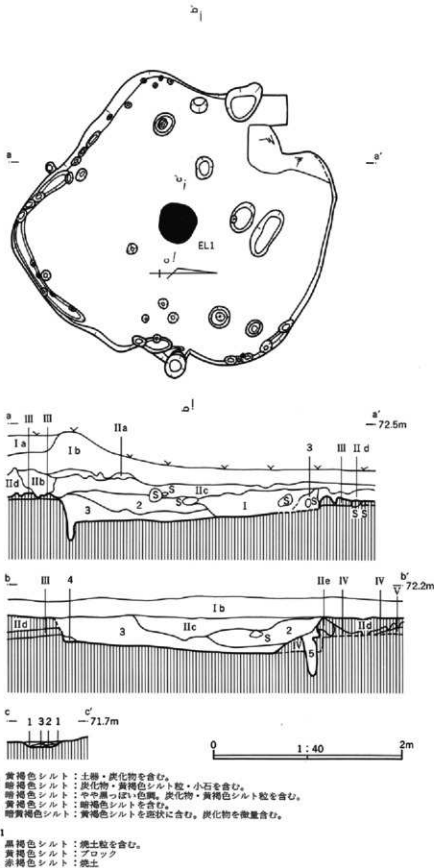
ST 9 e (第8図) C~E-20~22区検出。ST 9 cの南西約2mに位置する。長軸11m、短軸4.5mの長方形プランとなる。柱穴は長辺の両側縁にST 9 dと同様に著しく重複しながら並ぶ。内部施設は地床炉が3基と石罌戸が1基検出された。

ST 9 g (第9図) B~D-19・20区検出。長軸7.5m、短軸6.2mの楕円形プランの竪穴住居跡である。壁の立ち上がりは南西辺を除いて明瞭である。主柱穴は南側ではEP 39, 48, 50が確認されたが東半では重複が多く確定できなかった。内部施設は石罌戸が3基検出されている。西半が風倒木痕によって攪乱を受けている。

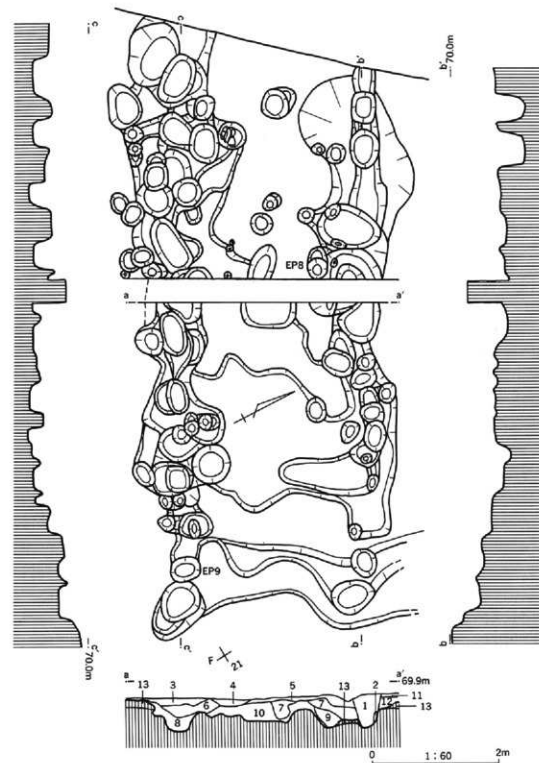
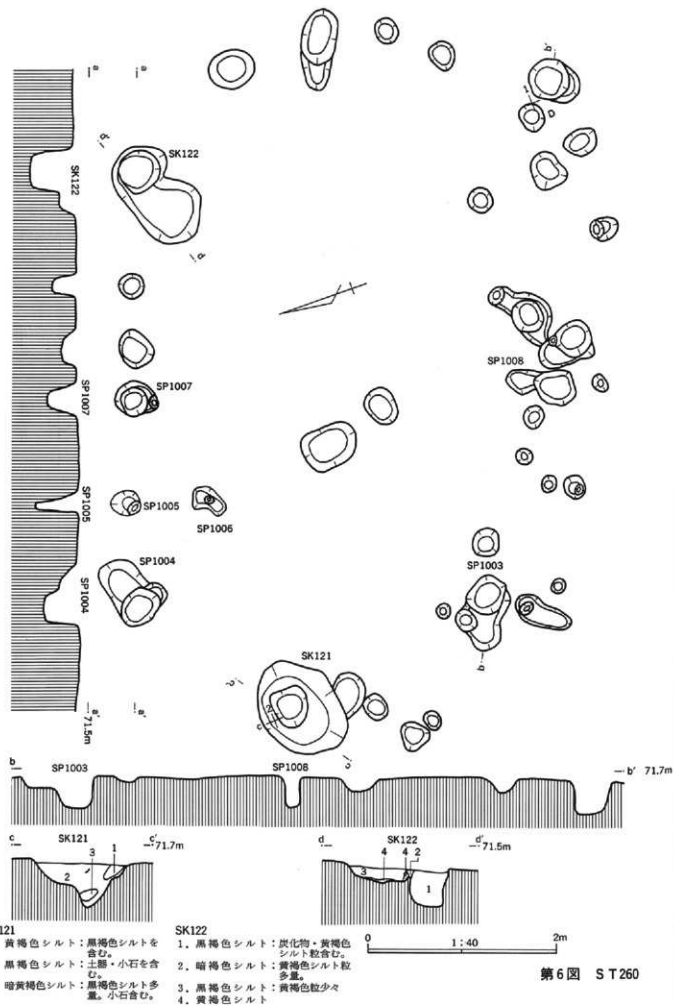
ST 34 (第10図) H・I-18~20区検出。長軸11m、短軸4.8mの長方形プランとなる。壁の立ち上がりは明瞭である。両長辺に柱穴が並ぶが重複が著しい。内部施設は未検出。柱穴および堆積土内の出土遺物から、大木8 b 式期の住居跡と考えられる。

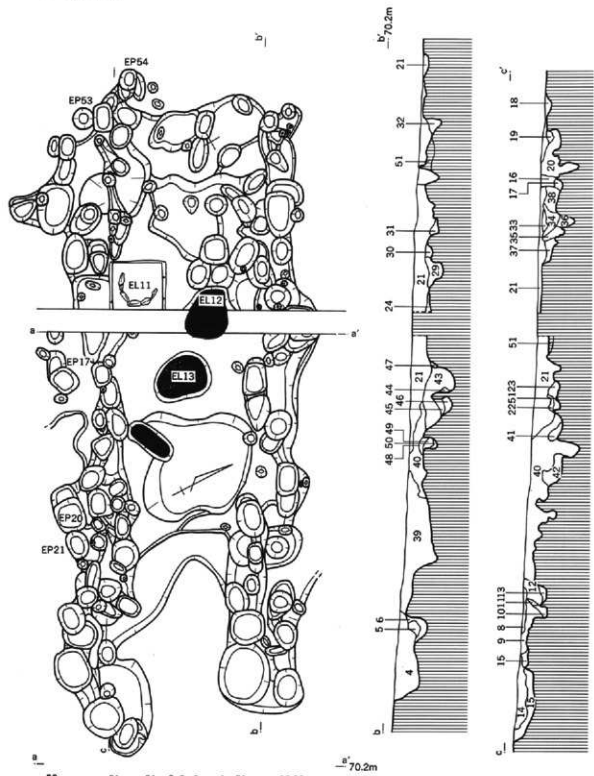
ST 64 (第3図) C・D-14・15区検出。長軸5.6m、短軸3.6mの長方形プランとなる。柱穴は壁に沿って11基が検出されたがいずれも小規模である。壁の立ち上がりは明瞭である。堆積土は黒色シルトの単一層である。出土遺物は皆無であった。

ST 96 (第11図) E・F-5・6区検出。長軸7.6m、短軸4.8mの長方形プランの住居跡である。長軸方向は集落の中心に向く。内部施設は地床炉が2基検出されている。出土遺物は大木8 a 式期が主体となる。



第5図 ST 1

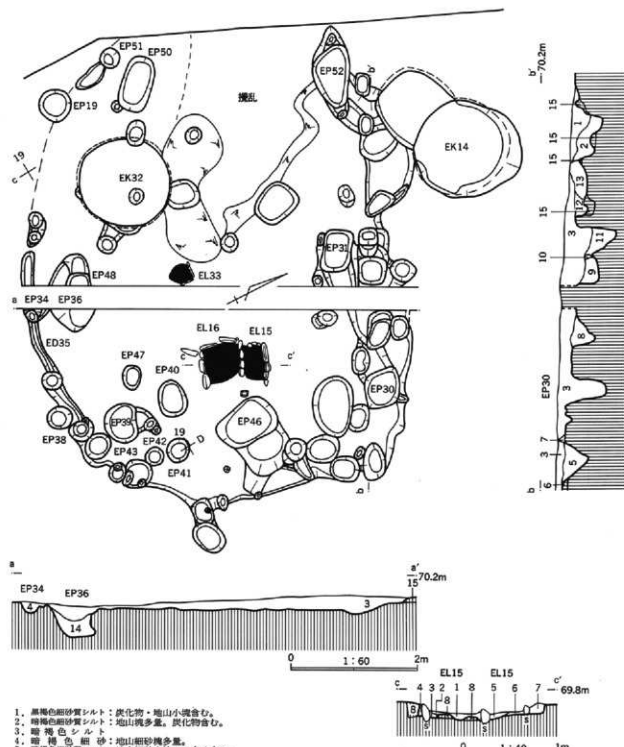




1. 黒褐色シルト
2. 赤褐色シルト
3. 赤褐色シルト
4. 黒褐色シルト
5. 黒褐色シルト
6. 黒褐色シルト
7. 黒褐色シルト
8. 黒褐色シルト
9. 黒褐色シルト
10. 黒褐色シルト
11. 黒褐色シルト
12. 黒褐色シルト
13. 黒褐色シルト
14. 黒褐色シルト
15. 黒褐色シルト
16. 黒褐色シルト
17. 黒褐色シルト
18. 黒褐色シルト
19. 暗褐色細砂質シルト
20. 暗褐色細砂質シルト
21. 黒褐色シルト
22. 黒褐色シルト
23. 黒褐色シルト
24. 黒褐色シルト
25. 黒褐色シルト
26. 黒褐色シルト
27. 暗褐色細砂質シルト
28. 暗褐色細砂質シルト
29. 暗褐色細砂質シルト
30. 暗褐色細砂質シルト
31. 暗褐色細砂質シルト
32. 暗褐色細砂質シルト
33. 暗褐色細砂質シルト
34. 暗褐色細砂質シルト
35. 暗褐色細砂質シルト
36. 暗褐色細砂質シルト
37. 暗褐色細砂質シルト
38. 暗褐色細砂質シルト
39. 暗褐色細砂質シルト
40. 暗褐色細砂質シルト
41. 暗褐色細砂質シルト
42. 暗褐色細砂質シルト
43. 暗褐色細砂質シルト
44. 暗褐色細砂質シルト
45. 暗褐色細砂質シルト
46. 暗褐色細砂質シルト
47. 暗褐色細砂質シルト
48. 暗褐色細砂質シルト
49. 暗褐色細砂質シルト
50. 暗褐色細砂質シルト
51. 暗褐色細砂質シルト
52. 暗褐色細砂質シルト
53. 暗褐色細砂質シルト

0 1:60 2m

第8図 ST9e

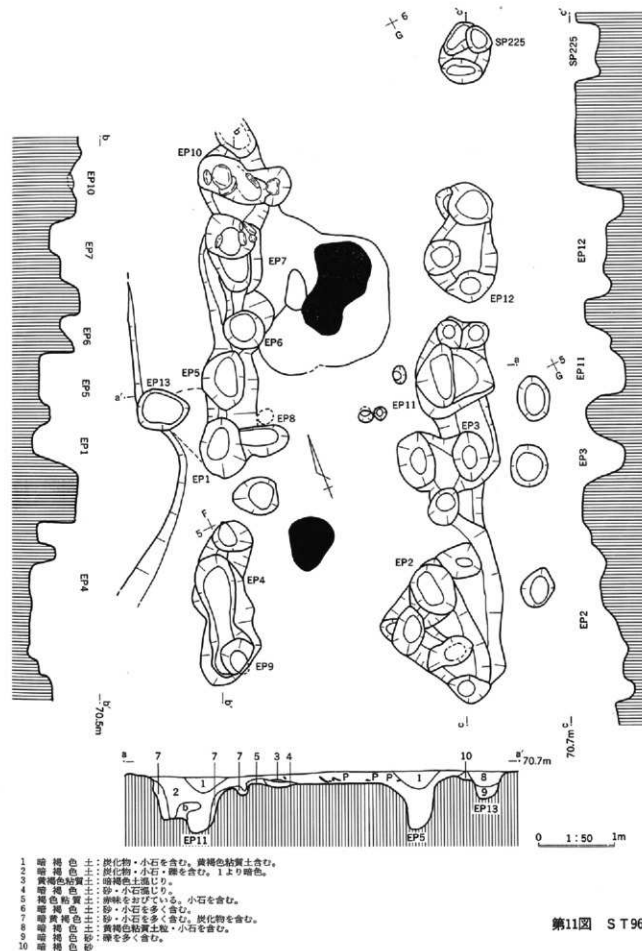
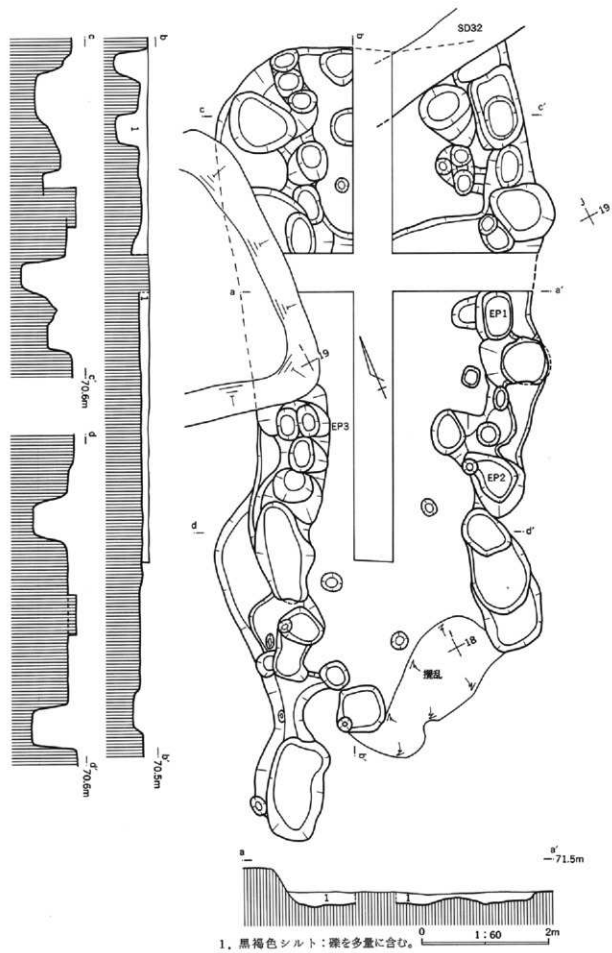


1. 黒褐色細砂質シルト
2. 暗褐色細砂質シルト
3. 暗褐色シルト
4. 暗褐色細砂質シルト
5. 暗褐色細砂質シルト
6. 暗褐色細砂質シルト
7. 暗褐色シルト
8. 暗褐色細砂質シルト
9. 暗褐色細砂質シルト
10. 暗褐色細砂質シルト
11. 暗褐色細砂質シルト
12. 暗褐色細砂質シルト
13. 暗褐色細砂質シルト
14. 暗褐色細砂質シルト
15. 暗褐色細砂質シルト

0 1:40 1m

1. 暗褐色シルト
2. 暗褐色シルト
3. 暗褐色シルト
4. 暗褐色細砂質シルト
5. 暗褐色シルト
6. 暗褐色シルト
7. 暗褐色細砂質シルト
8. 暗褐色細砂質シルト

第9図 ST9f



2 土 壤

土壌は集落のほぼ全域にわたって検出され、その分布密度はかなり高いといえる。特に今回の調査では60基以上のプラスチック状土壌が検出されており、これは県内でもまとまった数の検出例といえる。以下ではこのプラスチック状土壌について概観する。なおその他の土壌についてもまとまった遺物が得られたものや、基壇と考えられる小判形の土壌の存在など重要な問題を含むものが多い。それら個別の土壌の詳細については後日公表の機会を得たいと考える。

分布状況 (第3図)

プラスチック状土壌の分布は集落全体に広がっているが、周辺部に近いほど密になる傾向が看取される。これらは地山の状態が細砂層、砂利層の違いにかかわらず構築されている。なかでも調査区の北端部Y-23ライン以北では特に集中が著しく、この区域だけで総数の約3分の1が検出された。この集中区域の大半が比較的掘削の楽な細砂層を基盤としていることが密な分布を生んだ要因のひとつと考えられる。

構造・規模 (第12図～第18図)

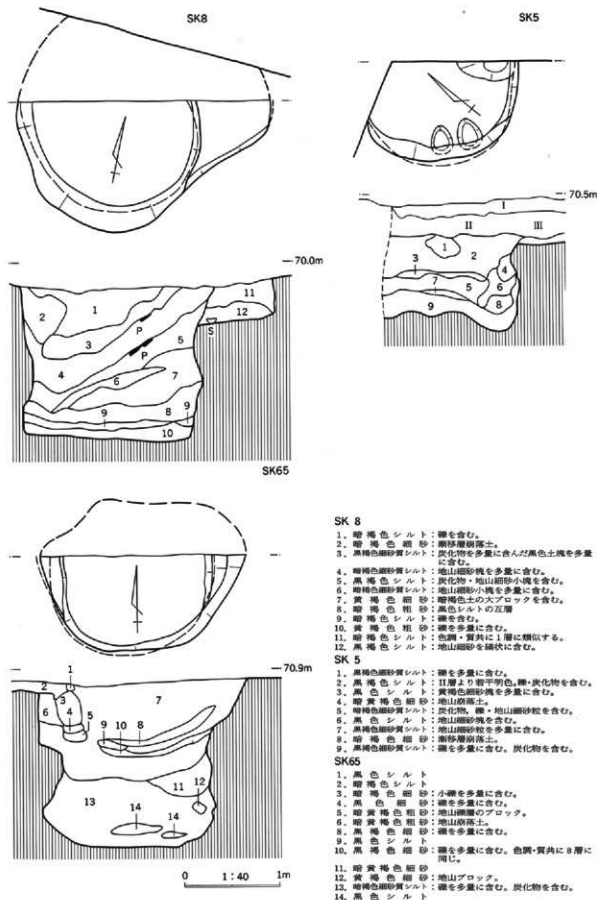
底面は砂利層あるいは細砂層下部の粗砂層中に構築されており、水はけの良い構造となっている。周囲の壁体は非常に崩れやすく、機能していた当時の形態をそのままとめているものは皆無である。規模は変化に富むが口径1～1.5m、底径1.4～1.6m、確認面からの深さ1.5～1.8m程度のものが多い。

埋没過程

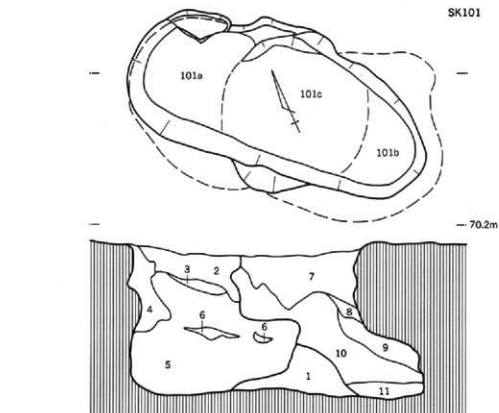
プラスチック状土壌の堆積土は、砂利、炭化物、遺物などを含んだ黒色土や地山の崩落土がレンズ状、紡状あるいは塊状をなしているのがほとんどである。このことは土壌の埋没が自然堆積によってなされたことを示すものである。人為的に埋め戻したことが明確にわかるものはないが、SK108 (第14図) 8層、SK116 (第16図) 4層などには2次加熱を受けた多量の縄文土器や人頭大の河原石が多量に出土するなど、堆積土の一部に人為によって生活排土を投棄した可能性を示唆する例がある。また土壌の埋没に要する時間については吹灌遺跡での論考では自然埋没の場合数年の範囲内と予測されている。本遺跡から検出された土壌も深さ1.5mを超える大形のもので多くて14層、平均で7、8層の層序が確認される程度で、それぞれの層厚も厚く、したがって完全に埋没するまでにはそれほど時間がかかっていないものと推察される。SK107 (第14図) は埋没過程の途中で石置戸が構築された特異な例である。

遺物の出土状況

ほとんどの土壌には縄文土器、石器が含まれている。それらの出土状況は土器の場合には堆積土中に複数の個体の破片が混在する。また床面出土でほぼ完全な形で復元しているものでも一部の小形品を除けば必ず欠失部分があることから、土壌の中で使用している状態のままで遺棄されたとは考えられず、土壌が機能を失った後に不用品としてそこに廃棄されたものとみることが出来る。



第12図 土壌(1)



SK101

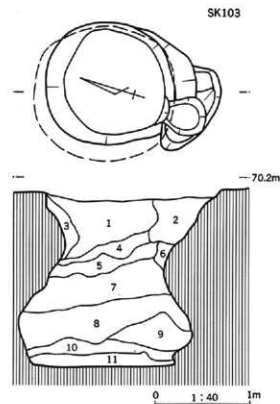
1. 黄白色細砂：地山崩落土。101C 埋積土。
2. 暗褐色シルト：101a 埋積土。
3. 黄褐色細砂：101a 埋積土。
4. 暗黄褐色シルト：地山崩落砂・細砂の崩落土。101a 埋積土。
5. 黄褐色シルト：101a 埋積土。
6. 黄褐色細砂/黄砂：101a 埋積土。
7. 黒褐色シルト：礫を含む。101b 埋積土。
8. 暗褐色シルト：地山崩落砂を多量に含む。101b 埋積土。
9. 暗褐色細砂/黄シルト：地山崩落砂を多量に含む。101D 埋積土。
10. 暗褐色細砂/黄シルト：地山崩落砂を多量に含む。101D 埋積土。
11. 暗褐色細砂：炭化物・小礫を含む。100b 埋積土。

SK103

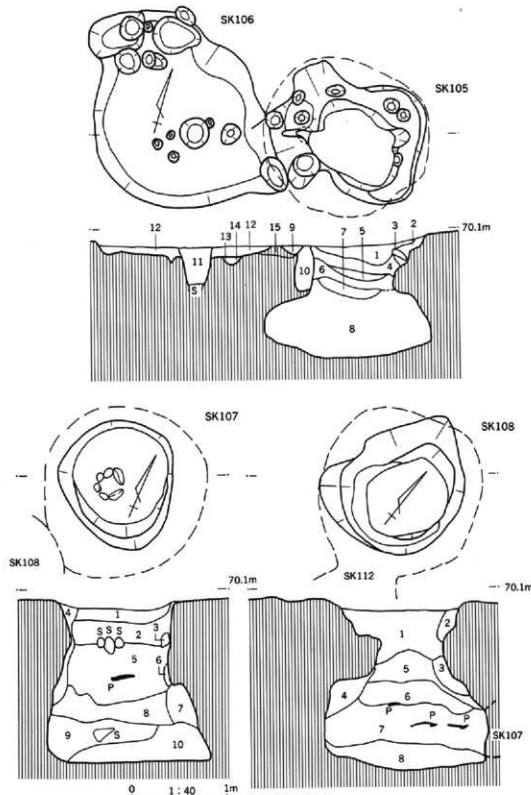
1. 暗褐色細砂/黄シルト：炭化物を多量に含む。
2. 暗黄褐色細砂：地山崩落砂を含む。炭化物を若干含む。
3. 暗褐色細砂/黄シルト：炭化物を若干含む。
4. 黄褐色シルト：炭化物を含む。
5. 暗褐色細砂/黄シルト：地山崩落砂を含む。炭化物を若干含む。
6. 暗褐色細砂：地山崩落土。
7. 暗褐色シルト：礫・炭化物・地山崩落小礫を含む。
8. 暗褐色細砂/黄シルト：礫を多量に含む。炭化物・地山崩落小礫を含む。
9. 暗褐色シルト/黄細砂：地山崩落砂を含む。
10. 暗褐色シルト：地山崩落砂。炭化物を含む。
11. 暗褐色シルト：腐じある。

SK105・SK106

1. 暗褐色シルト：黄色シルト塊を含む。105埋積土。
2. 暗褐色細砂：105埋積土。
3. 暗褐色シルト：礫による埋積。
4. 暗褐色シルト：礫より暗色。黄褐色細砂を連続に含む。105埋積土。
5. 暗褐色シルト：105埋積土。
6. 暗褐色シルト：105埋積土。
7. 暗褐色細砂：礫を多量に含む。105埋積土。
8. 黄褐色シルト：黄褐色シルト埋積土。
9. 暗褐色細砂/黄シルト：黄褐色細砂を多量に含む。炭化物を含む。
10. 暗褐色細砂/黄シルト：黄褐色細砂を多量に含む。105埋積土。
11. 暗褐色細砂/黄シルト：黄褐色細砂・炭化物を含む。
12. 暗褐色細砂/黄シルト：黄褐色細砂を多量に含む。105埋積土。
13. 黄褐色細砂：暗褐色シルト塊を多量に含む。
14. 暗褐色シルト：礫を含む。
15. 暗黄褐色細砂/黄シルト：暗褐色土との混土。



第13図 土壌(2)



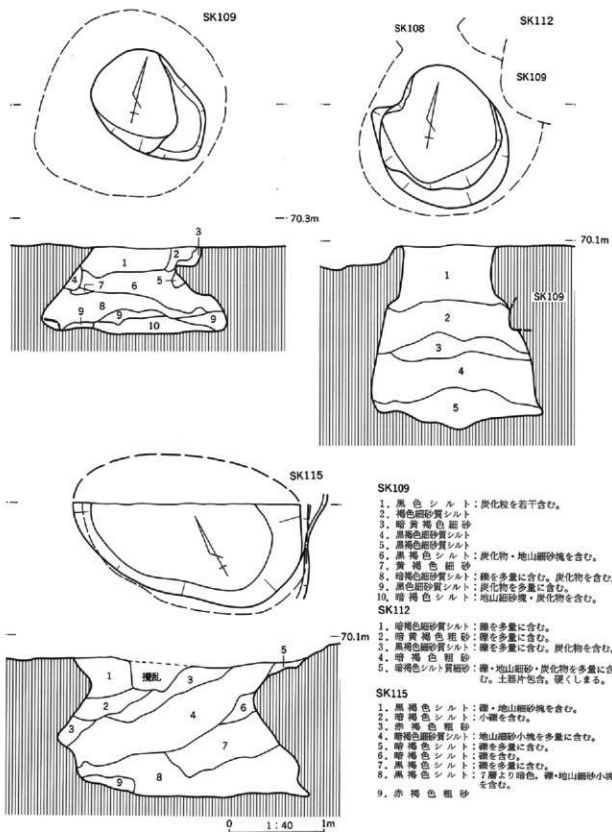
SK107

1. 暗褐色土：炭化物を含む。黄褐色シルト粒・小石を含む。
2. 暗褐色土：黄褐色シルト粒を多量に含む。炭化物を含む。
3. 黄褐色シルト：暗褐色土を含む。
4. 暗褐色細砂/黄シルト：地山崩落砂を多量に含む。
5. 暗褐色シルト：炭化物・礫・地山崩落小礫を含む。
6. 暗褐色細砂/黄シルト：地山崩落砂を多量に含む。
7. 暗褐色シルト：3層より暗色。礫を多量に含む。
8. 暗褐色シルト：地山崩落砂を多量に含む。炭化物を含む。
9. 暗褐色細砂/黄シルト：礫を含む。
10. 暗褐色細砂：礫・地山崩落砂を含む。

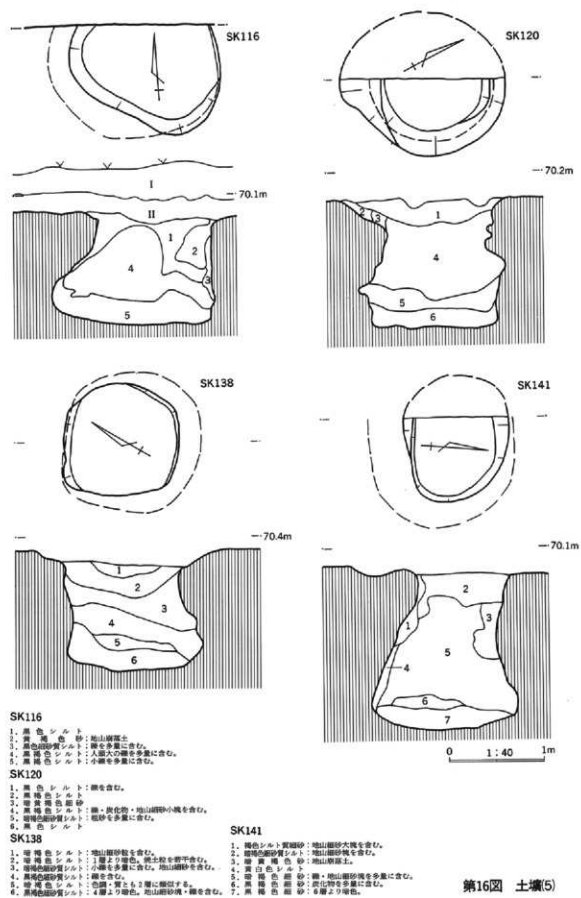
SK108

1. 暗褐色細砂/黄シルト：炭化物・地山崩落砂を含む。
2. 暗黄褐色細砂：暗褐色土を含む。
3. 暗黄褐色細砂：地山崩落砂を含む。
4. 暗黄褐色細砂：地山崩落砂・炭化物を含む。
5. 暗黄褐色細砂：地山崩落砂・炭化物を含む。
6. 暗褐色シルト/黄細砂：礫・礫を若干含む。
7. 暗褐色シルト/黄細砂：礫・土塊を多量に含む。
8. 黒色シルト：炭化物・土塊を多量に含む。

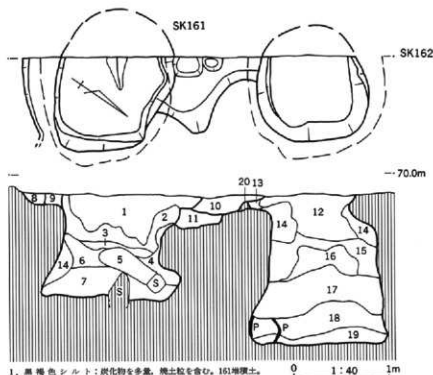
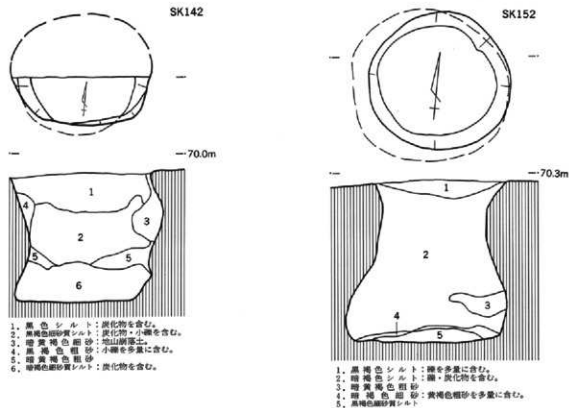
第14図 土壌(3)



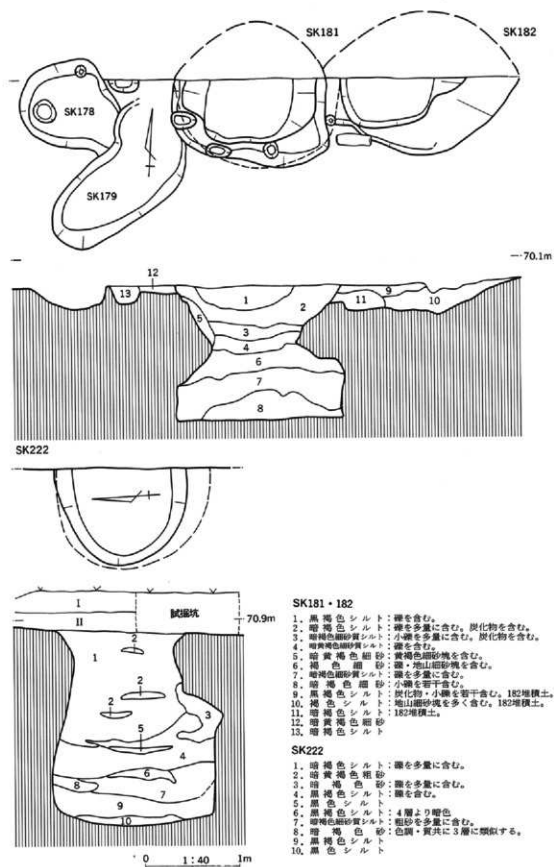
第15図 土壇(4)



第16図 土壇(5)



第17図 土壌6)



第18図 土壌7)

3 S X 261

規模・平面形 (第19図)

調査区南端に近いB～I-2～6区内で検出された自然地形と考えられる沢状の落ち込みである。東西方向に長さ36mにわたって集落を分断する。東は調査区外へ伸び、西は段丘端部から崖下へ落ちる。幅は調査区東端で7.5mであるが、E・F-2付近で南からの支流が合流し、幅が広がり西端付近では約14mに達する。落ち込みのラインは南縁では緩やかであり北縁でやや急となる。

堆積土 (第20図)

堆積土の状況を把握するため、E-2～5区内に幅1mのトレンチを設定して基盤層までの掘り下げをおこなった。第20図はトレンチ西壁の土層断面である。層序は18層に分けられた。上層から下層まで礫を含む粘性の強い黒色系のシルトが主体的に堆積する。各層の堆積の状況は縁辺から中央部に向かって弧状に落ち込んで互層をなす典型的な水性堆積の様相を呈する。13層の砂利層が無遺物層となるほかは、量の差はあるものの各層に遺物の包含が認められる。なかでも2, 8, 9, 11の各層および最下層の18層からは多量の遺物が出土している。基盤層は粘土質シルトおよび北縁では砂利層となり、中央付近は粘土質シルトに下位の礫層が露出する。土壌のグライ化は18層以下で観察され、現在でも基盤層付近で湧水している。検出面からの深さは中央部で2m、現地表面からは約2.5mの深さとなる。

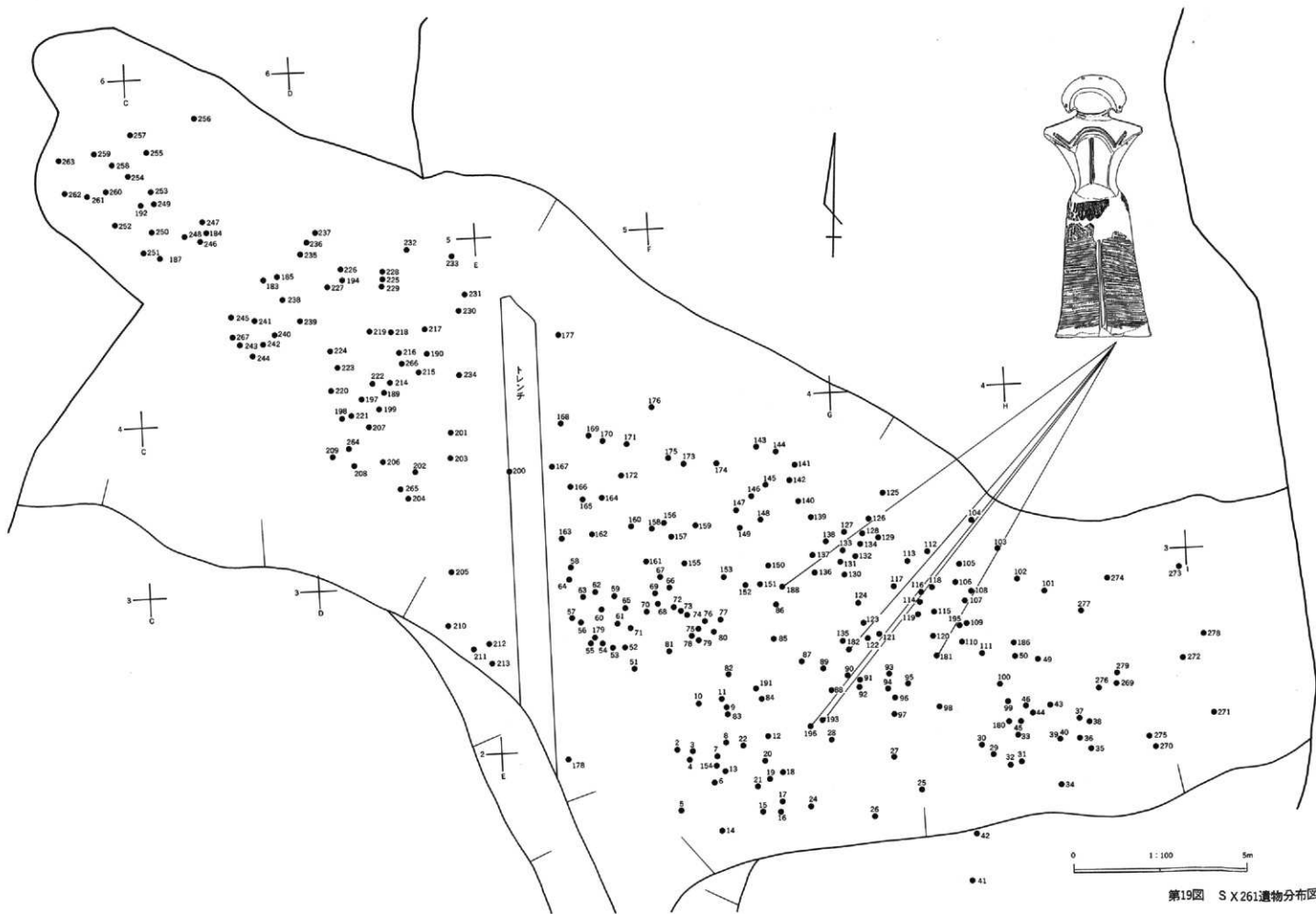
各層序の広がり、土色変化に乏しいこと、同じ土層であっても水性堆積のために地点を隔てると色調や厚層の変化が著しいことから面的に把握することができなかった。したがって今回出土遺物を層位的に取り上げることができたのはE区のトレンチの西側1mの範囲に限定された。

遺物の出土状況

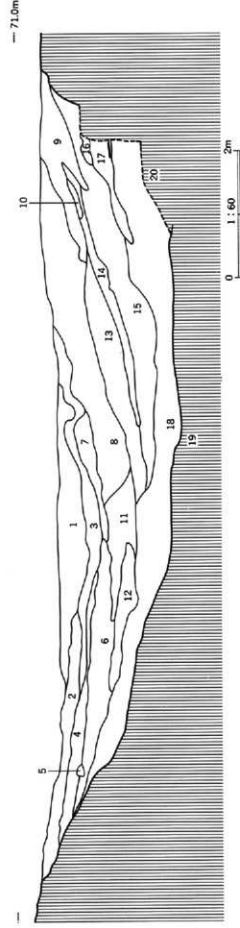
S X 261からは整理箱にして約750箱の縄文土器、石器が出土した。これは今回の調査で得られた遺物総数の約83%にあたる。特に縄文土器の出土数量が圧倒的に多い。また土製品、石器、石製品についても、大半の器種が集落域からの出土点数を上回る。遺物の垂直分布については前述のとおりであるが、これらの平面的な分布と出土状況には以下のような特徴がある。

第19図はS X 261から得られた登録遺物の平面分布を示したものである。実際には未登録のものがはるかに多いが、分布の傾向は把握可能である。遺物は遺構全体にわたって出土しているものの、南から合流する支流には包含されていない。また遺構の中央付近を中心に密な分布がみられるが、X-Hライン以東は若干希薄になる傾向がある。

縄文土器の出土状況は、完形の状態で出土したものはほとんどないが、各個体があり散らばらずに復元が比較的楽な状態で出土したものや、大形の破片が目立った。これはこの遺構が生活上不用となったものの廃棄場所として利用されていたことを物語っており、利用しはじめてから廃絶されるまで急激な水の流れがなかったことを示している。



第19図 SX261遺物分布図



横20図 S-X261トレンチ土層断面

1. 暗褐色細砂質シルト：小砂粒を多数に含む。土質硬。
2. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
3. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
4. 黒色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
5. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
6. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
7. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
8. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
9. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
10. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
11. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
12. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
13. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
14. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
15. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
16. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
17. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
18. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
19. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。
20. 暗褐色シルト：暗褐色シルトに暗褐色細砂を少量含む。

4 縄文土器 (第21図～第74図)

今回の調査で出土した縄文土器は、整理箱にして約820箱を数える。その内訳は集落内の竪穴住居跡、土壌、ピットなどから出土したものが約120箱、S X261から出土したものが約700箱となっている。これらの所属時期は縄文時代中期前葉から中葉のものが主体となっている。縄文時代後期の土器が若干出土しているが、小破片であり遺構内でのまとまりをもちたない。

住居跡内あるいは土壌内の縄文土器の出土状況は使用されたままの状態で遺棄されたものではなく、住居や土壌が機能を失った後、不用品としてそこに廃棄されたことを物語るものであった。したがって同一の遺構内から出土した資料はある程度の一括性が認められるもの、それを生活様式にかかわる器種のセット関係として捉えることができない。S X261出土の土器については、第3項で記したように遺物包含層が約2mにわたって堆積するものの各層を面的に把握することができなかった。またその出土状況は、継続的に落ち込みのほぼ全域で廃棄が繰り返されたと考えられるものであり、近い位置関係にある個体間についても同時性を立証することは困難である。

以下に集落およびS X261から出土した縄文土器を概観する。

第1群土器

大木7 a式から大木7 b式期の範疇で把握されるものを一括した。本遺跡の出土遺物のなかではもっとも古式の一群である。

S X261から若干数の出土がある。169は頸部で屈曲し短い口縁部となる器形をもつ。4単位の波状口縁となり口唇部の刻目と結節沈線が施される。また口縁部内面にも沈線が施される。このほか、149・159・180についても各器面にみられる交互刻突および沈線のありかたから、大木7 a式もしくは7 b式の初期の段階として認識される。

第II群土器

大木7 b式期に比定される一群である。S X261からまとまった数量が出土している。

深鉢の器形は、大形で胴膨らみとなり口縁部が大ぶりな波状口縁となるもの(91・101・132)、同じく平縁となるもの(28・80・99・176)、いわゆるキャリパー形の器形となるもの(16・110)、これらより小形のもので頸部で屈曲するもの(41・77・107・111・118・137)、円筒形あるいは単純に外傾する器形となるもの(40・51・86・87)、同様の器形で折返口縁を特徴とするもの(27・29・88・140・162・178・185)がある。口縁部にのみ文様帯を形成するものには、沈線を主体とするもの(16・80・99・132・133)、隆線を主体とするもの⑧、縄文原体側面圧痕文を主体的に施するもの(29・40・41・51・86・87・101・111・118・176・185)があり、それらに交互刻突⑩、連続刺突⑪、隆線(176・185)、貼付(40・41・185)などの要素が付加される。口縁部および胴部に施されるものは、口縁部縄文原体側面圧痕による連弧文とY字形に垂下する隆線文(110・137)、半截竹管沈線文と隆線文⑬を構成要素とする。また口縁部が無文となり胴部に文様帯をもつ例(107・179)がある。107は隆線による文様構成、179は隆線と沈線の主文様構成要素に円形の貼付、交互刻突がともなう。

器面の地文は縄文の整然とした縦施文が多くみられる。多くは結節(16・28・41・88・101・107・118・179)、羽状縄文(51・91)をとまなう。なお胴部が無文となるもの④もある。これらのうち86は器形、口縁部の縄文原体側面圧痕文の施文状況から古い様相をもつものと考えられ、133は波頂部のS字状の隆線の描出からやや新しい施文要素を持ち合わせているものと理解される。また縄文原体の短い側面圧痕の縦施文(29・40・51)も同様に新しい要素と考えられる。

浅鉢は口縁部が内側に「く」字形に屈曲する器形をもつものが多い。そのほかいわゆる船底形となる小形のもの⑬、口縁の幅が広く直立するもの(122)がある。文様は隆線による楕円形の区画内に縄文原体側面圧痕文を施文するもの(79・100・168)、頸部に刺突による区画をもつもの(92・182)、胴部にも縄文原体側面圧痕文あるいは沈線により文様構成されるもの(82・129・138・146・161・167・173)、胴部上半に1乗の隆帯が廻り、その上と口縁部に縄文原体側面圧痕文、弧状の隆線文を施文するもの⑭がある。また121は「ハ」字状の短沈線による横位の区画文が施文されており、あるいは古い様相を残すものとも考えられる。

第III群土器

大木系の土器群にはみられない特徴をもった一群である。

図示したのは184の1点であるが、S X261から数個体分が出土した。口縁部の蓮華文、半截竹管沈線および細沈線による胴部の文様構成から、北陸の新崎式に比定されるものである。

第IV群土器

大木8 a式の範疇で捉えられるものを一括した。集落域では大半の遺構から得られており、S X261でも大量に出土している。

深鉢の器形は以下のように類別できる。

- 若干胴膨らみとなり波状となる口縁部が内湾ぎみに外傾する大形のもの(33・78)。
- 上記と同じ器形で平縁となるもの(22・58・72・119・127)。
- 胴膨らみのキャリパー形の器形となるもの。(19・32・106)。
- 胴膨らみで頸部で屈曲する器形となるもの(2・3・5・7・12・38・43・48・75・85・93・95・113・127・128・136)。
- 底部から直線的に外傾するバケツ形の器形となるもの(18・56・104・123・147)。
- 胴部が円筒形に近い形で頸部から開口縁部が内湾する弱いキャリパー形を呈するもの(1・42・45・47・52・59・69・71・73・130・142・156・165・166・175・177)。
- 底部から直上ぎみに立ち上がり、胴部で外反する器形となるもの。口唇部が「く」字形に内傾する(62・63・65・70・98・114・117・131・143・145・153)。
- 胴部中央付近に最大径をもつ樽形の器形となるもの(6・10・11・13・23・163)。

本群の施文においては隆線(無調整粘土紐貼付)あるいは沈線による口縁部クラック文、波状文、渦巻文、S字状の貼付文、渦状の裝飾、頸部の平行沈線や波状文による区画、胴

部のクランク文、渦巻文、韓の描出等による意匠文と縦位の区画文のほか、縦位に短く施文される縄文原体側面丘状文などが代表的モチーフとなる。

a はやや胴膨らみで大ぶりの波状口縁となる器形と33の隆線上への押捺文や78の弧状渦巻文の沈線などの文様で第II群土器の影響を強く残す。横長の楕円形の沈線文(40)、大ぶりの波状・弧状の隆線と沈線(45・71・73)、三角形沈線文(56・63・65)、連弧状沈線文(58・119)、隆線と沈線による長方形区画文(93・127)、折返口縁(104・123)など、器形、口縁部や胴部の文様構成要素のなかに前段階の特徴を反映しているものが他の器形中にも散見される。また19は頸部に波状の隆線による区画を残すものの胴部の文様帯は隆沈線で描出され、次の段階で盛行するモチーフである渦文から垂下する平行隆沈線が施文されている。本群でもっとも新しい特徴をもつものと考えられる。

浅鉢は胴部が内湾ぎみにひらく単純な器形となり狭い口縁部あるいは口唇部に文様が施文される。地文は縄文が施文されるものと無文となるものがある。大形で口唇部に渦巻状・波状の隆線主体の文様構成(9・124・157・174)。波状口縁となり、渦文とそれらの間をつなぐ沈線文を施文するもの(21・148)、楕円形の隆線によって文様構成されるもの(8・126)、口縁部に隆沈線と楕円形の貼付文が施文されるもの例がある。また小形のものには口縁部波状、胴部渦巻+垂下の隆線(154)、縄文原体側面丘状文+貼付(116)、隆線+刻目陶がある。さらに小形のもの(105・170・183)等があるが、いずれも文様帯区画は明瞭である。第V群土器

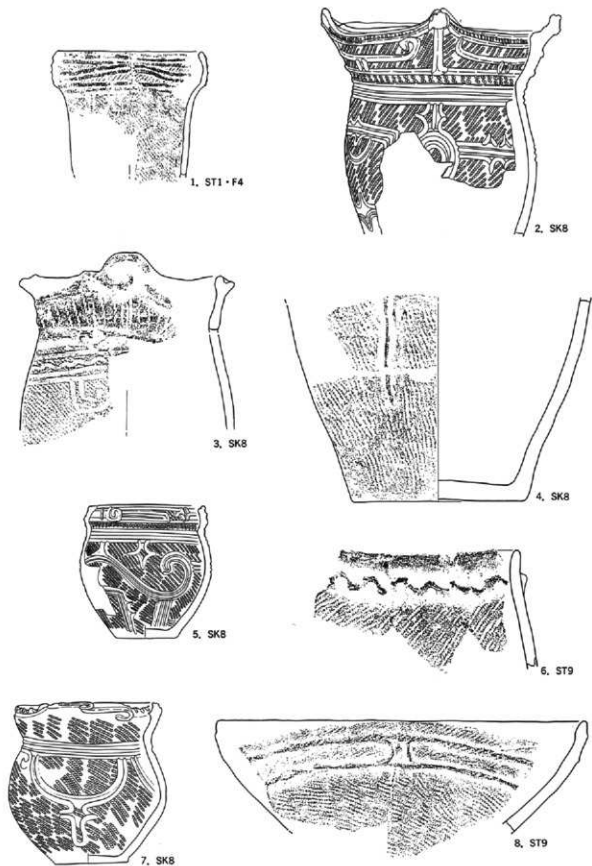
大木a b式の内容をもつものを一括する。集落内からより多く出土している。

深鉢の器形は、底部から直上して立ち上がり頸部付近から大きく外反するもの(4)。同じく円筒形に近い胴部から頸部で外反し口縁部が内湾するキャリパー形となるもの(26・30・57)。胴膨らみで頸部で開いて口縁部が内湾するキャリパー形となるもの(171)。胴膨らみで頸部でしまり口縁部が内湾ぎみに外傾する器形となるもの(63)。胴部に最大径をもつ樽形の器形となるもの(134)。以上のほかに本群の胴部資料と考えられるもの(39・54・55)がある。文様は沈線あるいは隆沈線による渦巻意匠文を主体とし、文様帯は頸部の無文帯によってより明確に二分される。

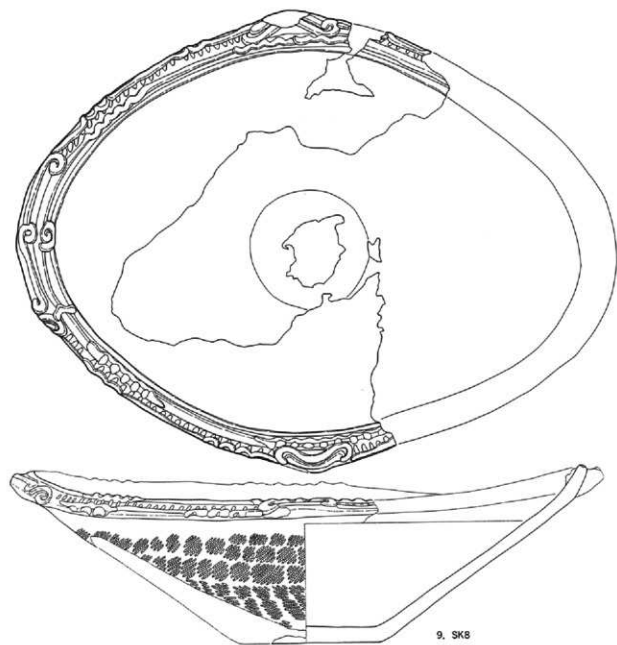
浅鉢は口縁部が内湾する小形のもの(24・26)との共伴で出土している(図)。

このほかI～V群にともなう台付きの鉢がややまとまって出土した(14・50・139・144・152・164)。

本項では紙面の都合上、集落およびS X261から出土した縄文土器について従来の型式学的研究の成果をもとに、事実報告を中心として時期別に概括的な検討を試みた。本来西ノ前遺跡のような性格をもった縄文土器群を系統的に理解するためには、器種、器形、施文などの諸属性について、分類作業をおした詳細な分析による検証が必要であるが、整理に要した時間の制約から十分な資料化がなされていないため、今後それらの補足を食めてさらに考察を深めていく必要があると考えている。



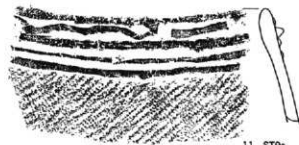
第21図 縄文土器(1)



9, SKB



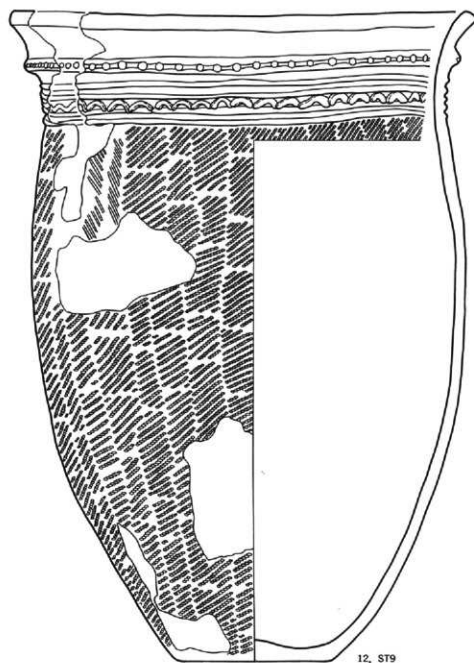
10, ST9



11, ST9a

0 1:3 10cm

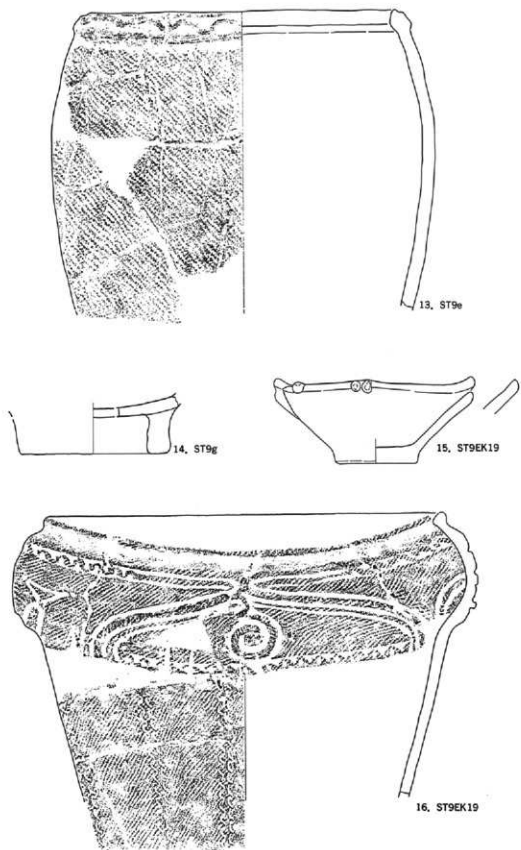
第22図 縄文土器(2)



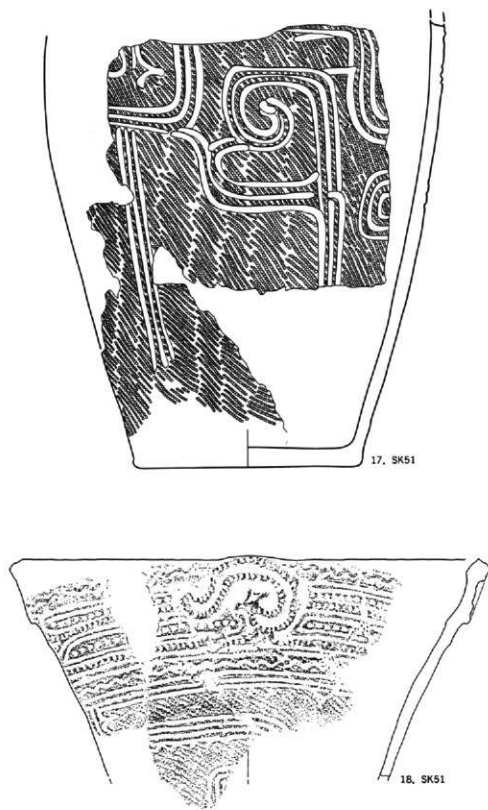
12, ST9

0 1:3 10cm

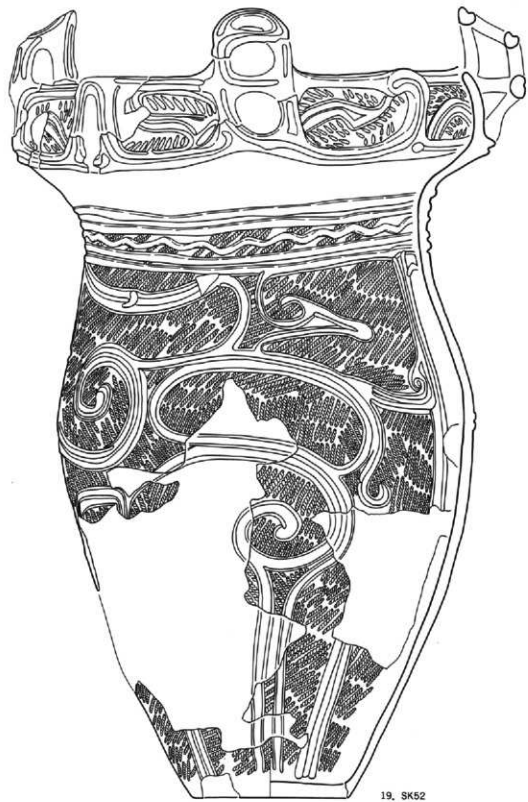
第23図 縄文土器(3)



第24図 縄文土器(4)



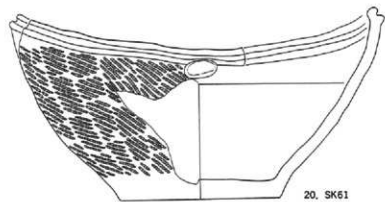
第25図 縄文土器(5)



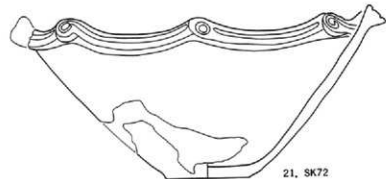
19. SK52

0 1:4 10cm

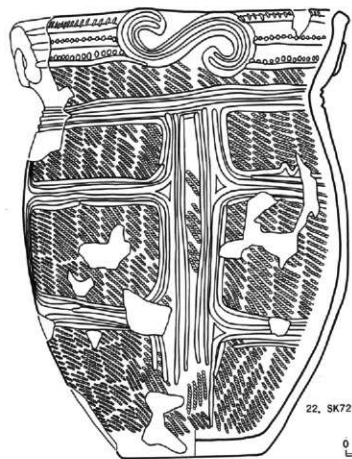
第26図 縄文土器(6)



20. SK61



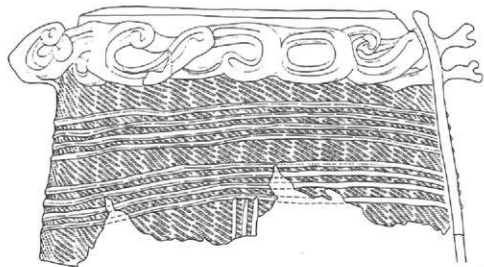
21. SK72



22. SK72

0 1:3 10cm

第27図 縄文土器(7)



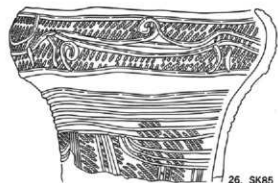
23, SK70



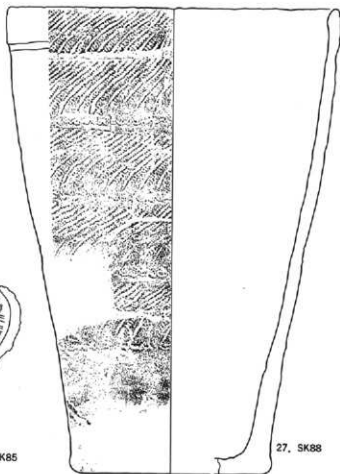
24, SK85



25, SK85



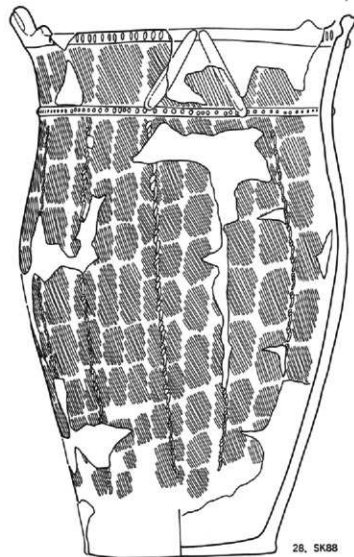
26, SK85



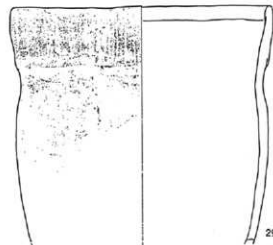
27, SK88

0 1:3 10cm

第28図 縄文土器(8)



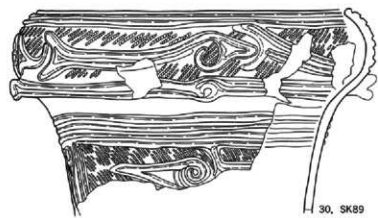
28, SK88



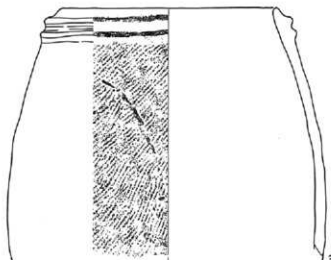
29, SK88

0 1:3 10cm

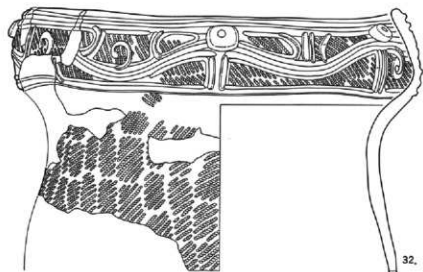
第29図 縄文土器(9)



30, SK89



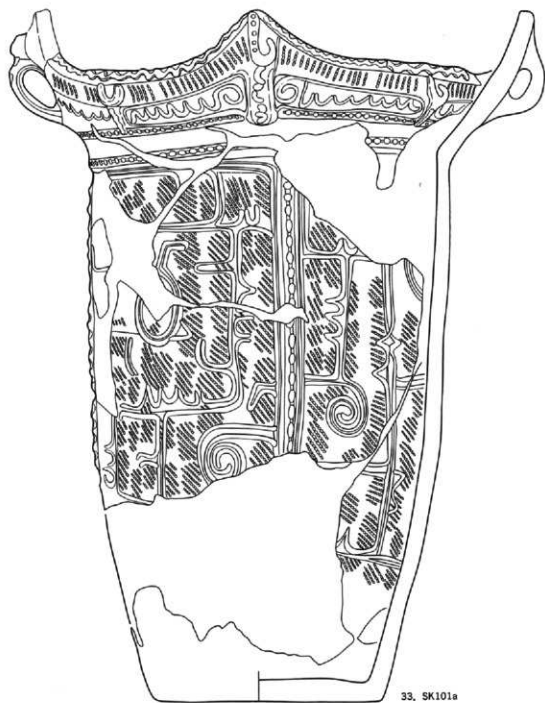
31, SK89



32, ST96EP5

0 1:3 10cm

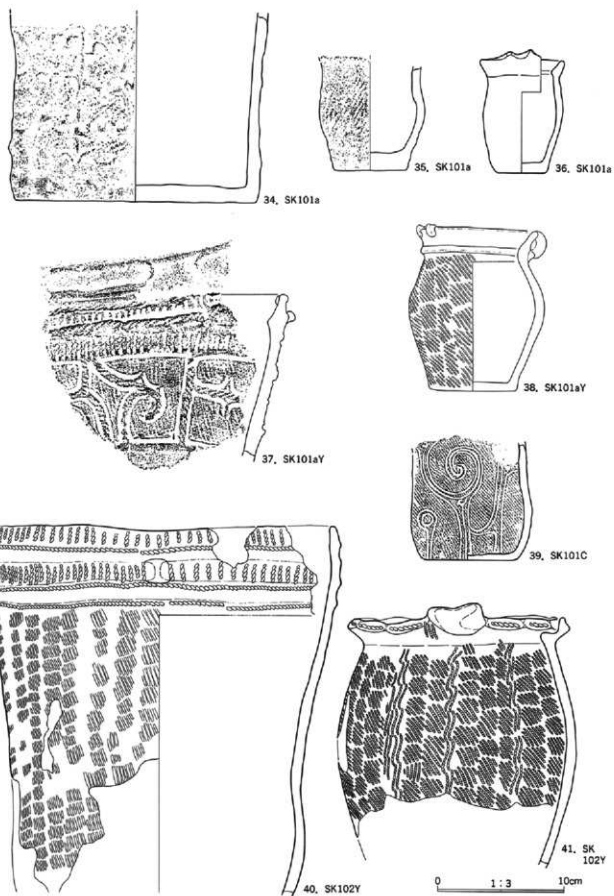
第30図 縄文土器⑩



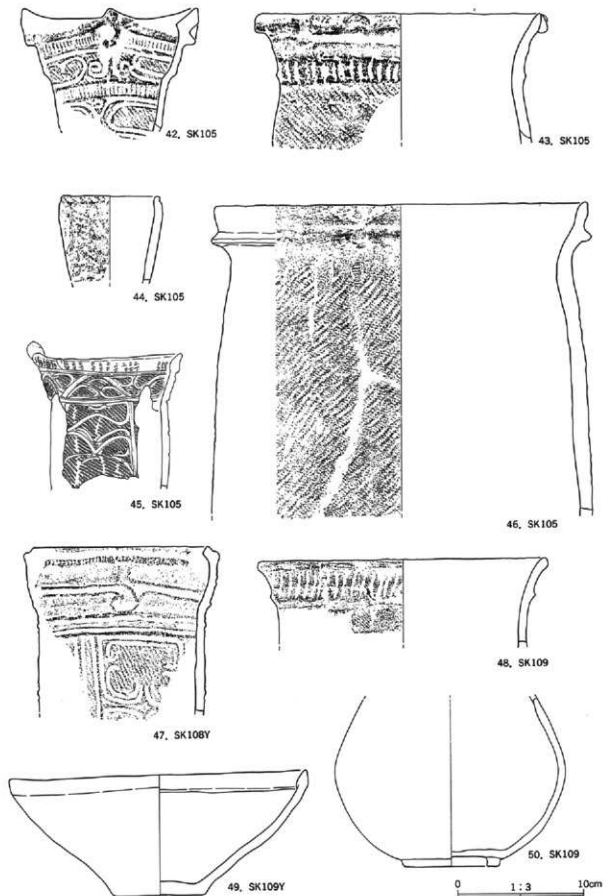
33, SK101a

0 1:3 10cm

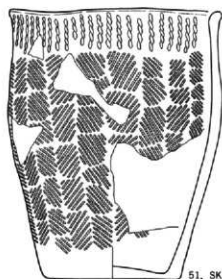
第31図 縄文土器⑪



第32図 縄文土器⑫



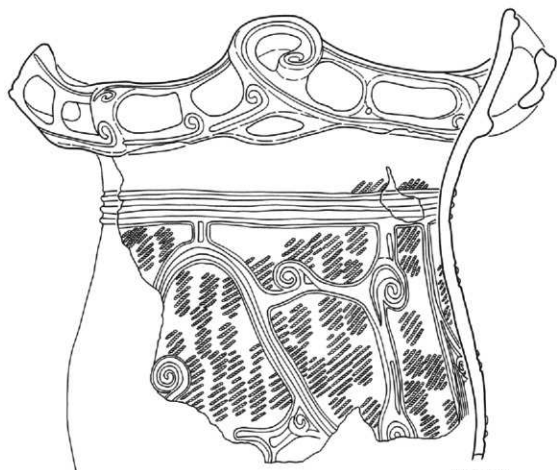
第33図 縄文土器⑬



51. SK109Y



52. SK115



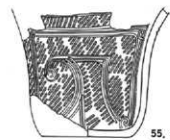
53. SK141

0 1:3 10cm

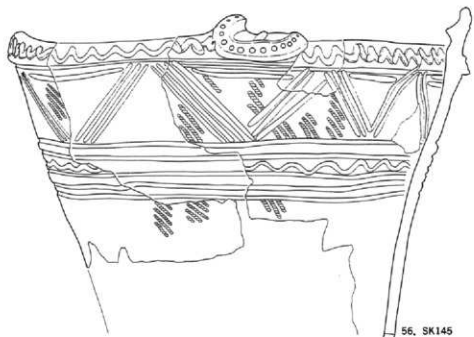
第34図 縄文土器④



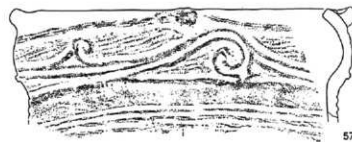
54. SK136



55. SK146



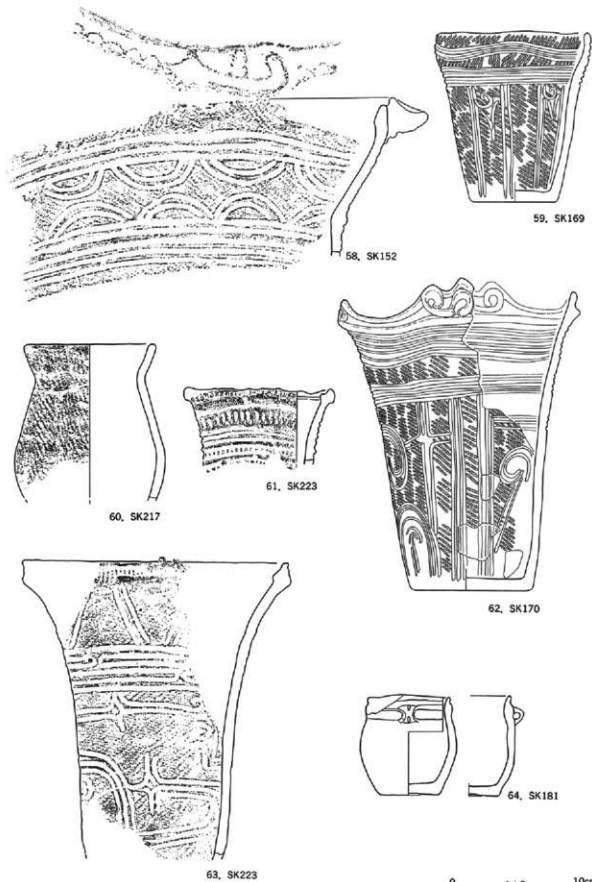
56. SK145



57. SK148

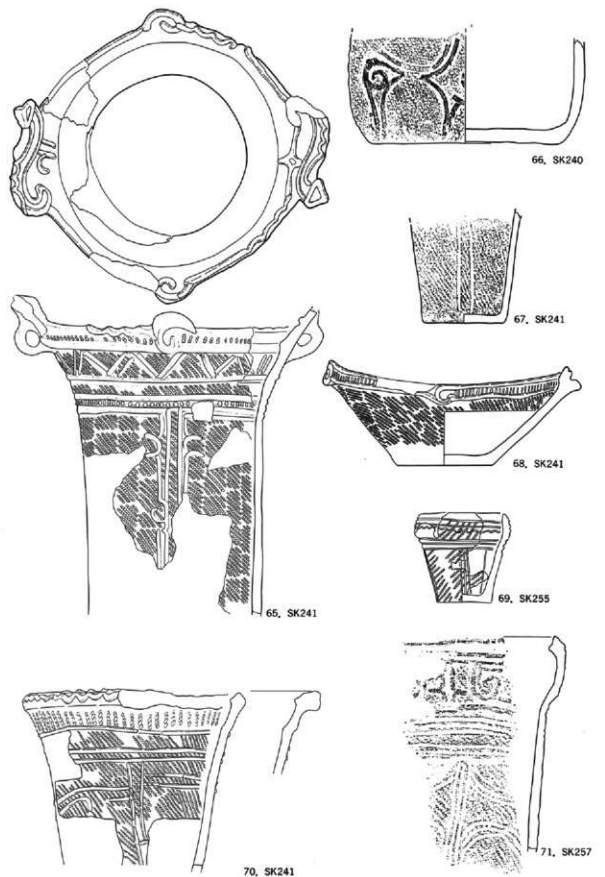
0 1:3 10cm

第35図 縄文土器⑤



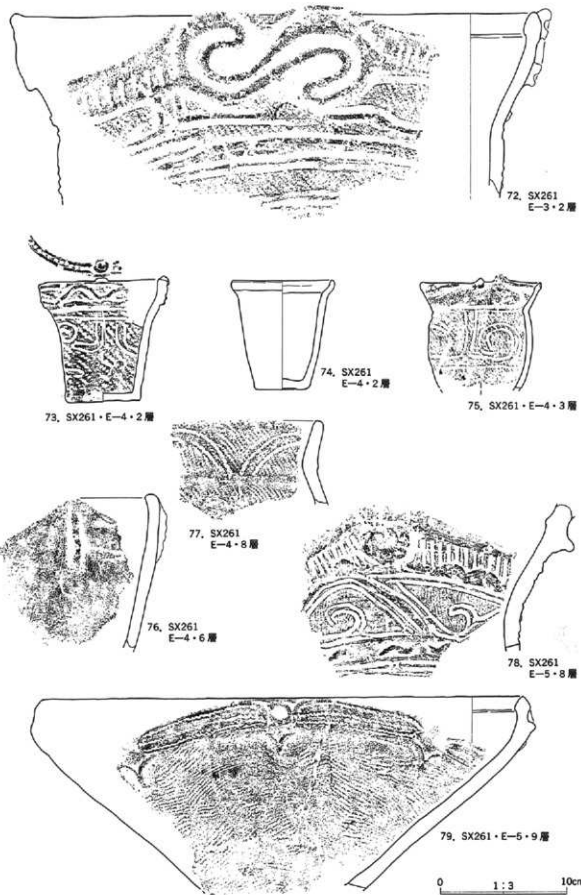
0 1:3 10cm

第36図 縄文土器⑩

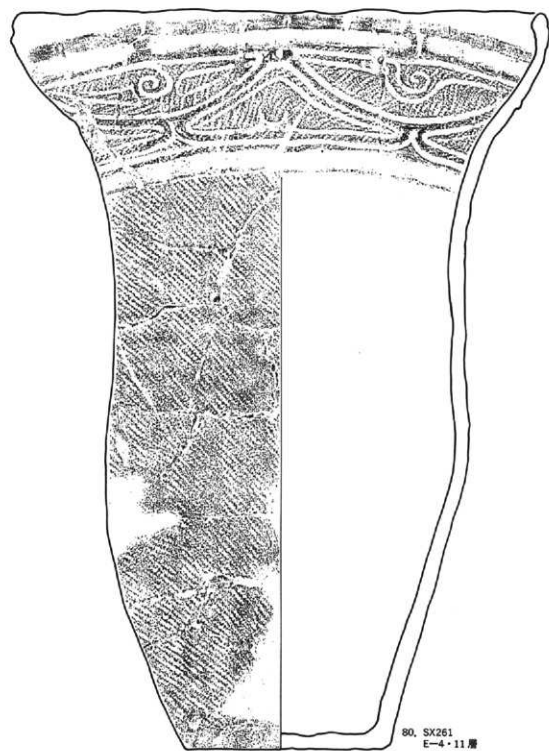


0 1:3 10cm

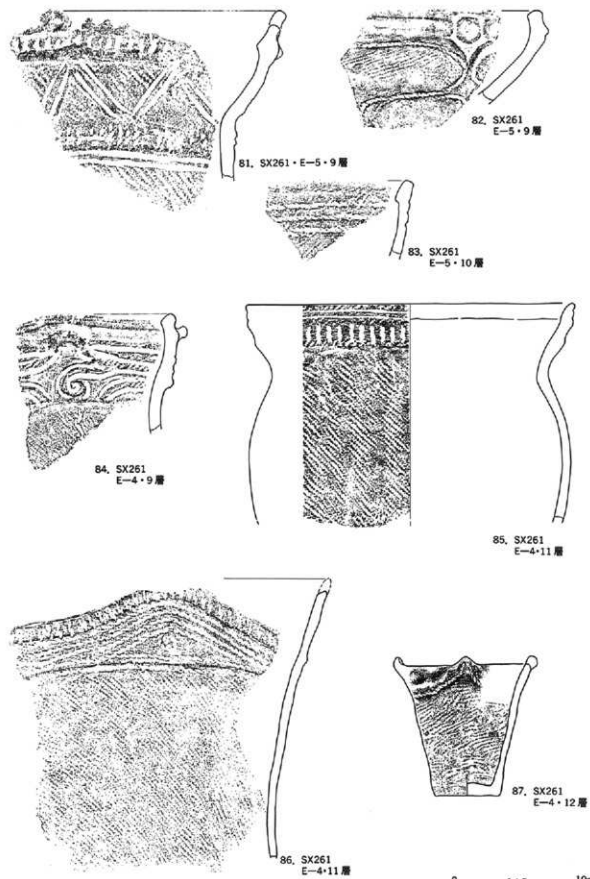
第37図 縄文土器⑪



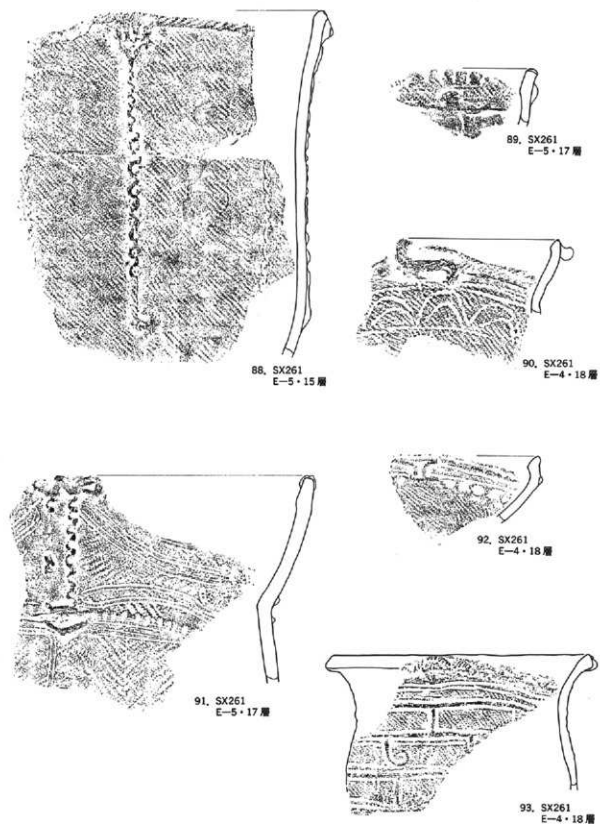
第38図 縄文土器(10)



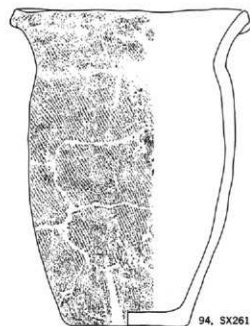
第39図 縄文土器(11)



第40図 縄文土器②



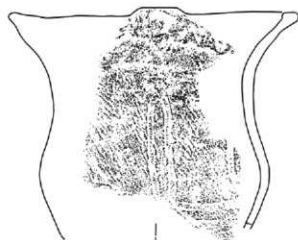
第41図 縄文土器②



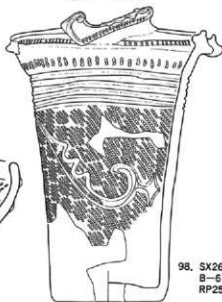
94. SX261・B-6
RP252



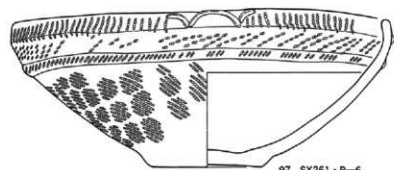
95. SX261・B-6
RP259



96. SX261・C・D-6
RP236



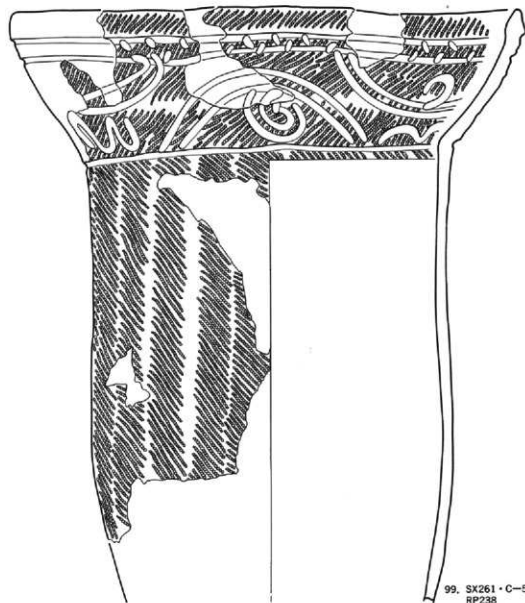
98. SX261
B-6
RP258



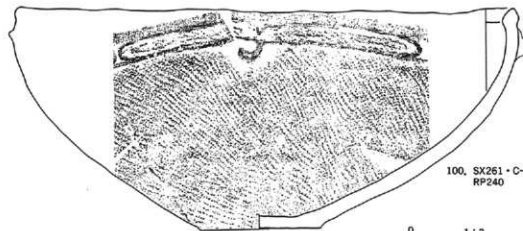
97. SX261・B-6
RP254

0 1:3 10cm

第42図 縄文土器(7)



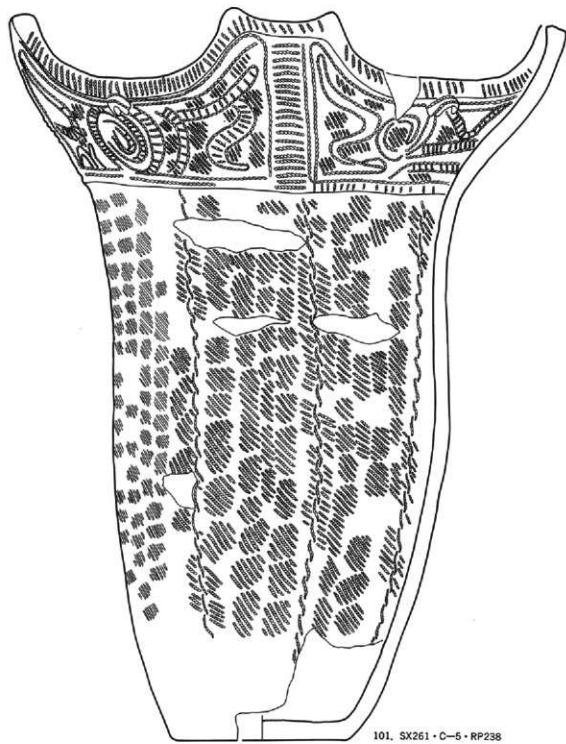
99. SX261・C-5
RP238



100. SX261・C-5
RP240

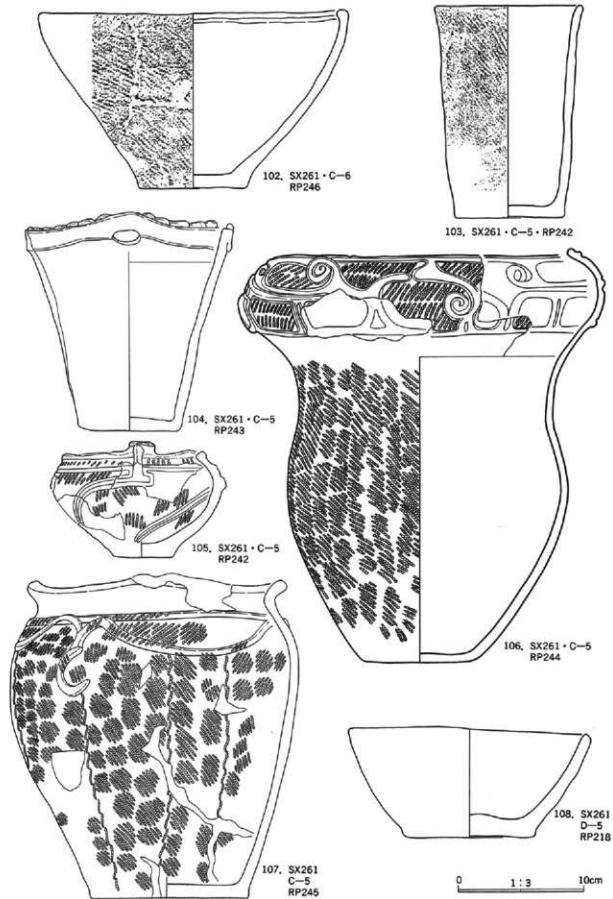
0 1:3 10cm

第43図 縄文土器(2)



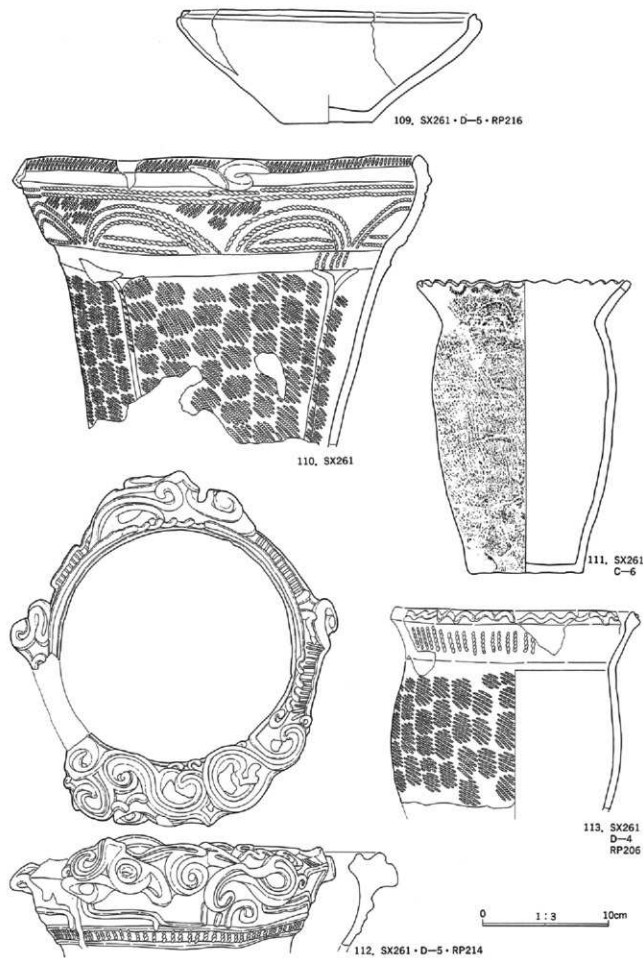
0 1:3 10cm

第44図 縄文土器(24)

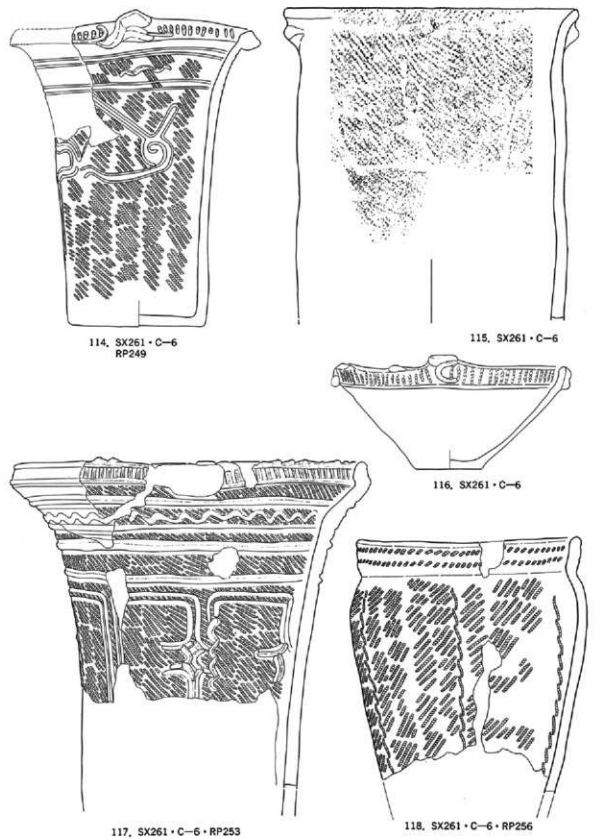


0 1:3 10cm

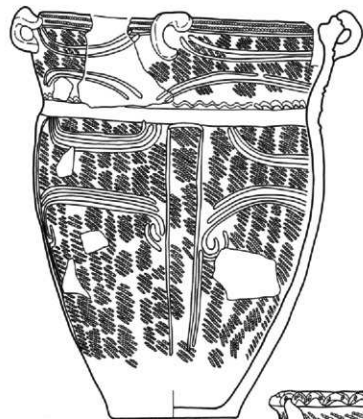
第45図 縄文土器(25)



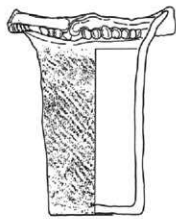
第46図 縄文土器(2)



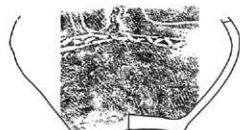
第47図 縄文土器(7)



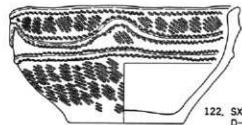
119, SX261・D-5
RP221



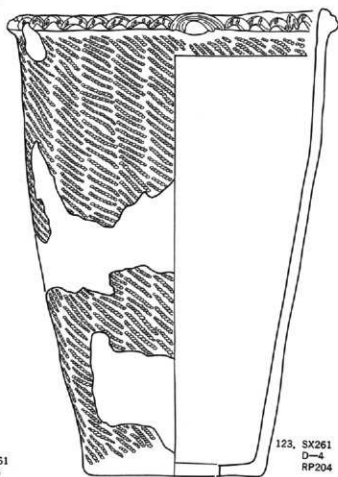
120, SX261・D-5
RP223



121, SX261・D-5・RP228



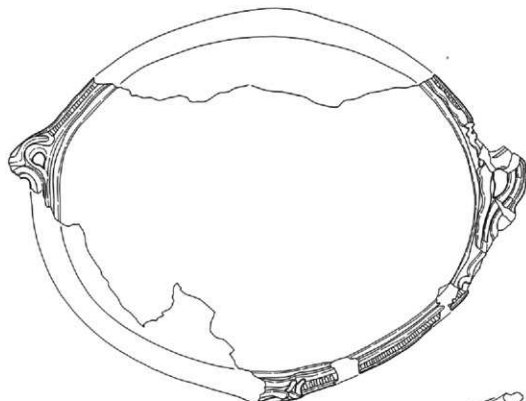
122, SX261
D-5



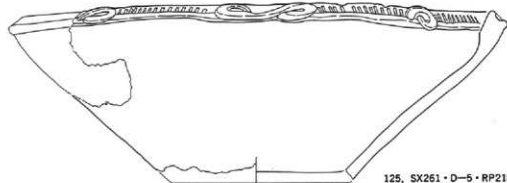
123, SX261
D-4
RP204

0 1:3 10cm

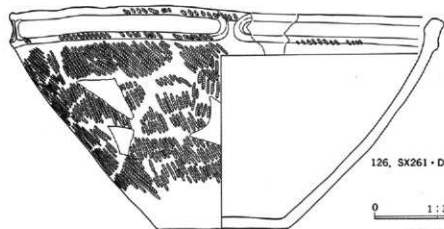
第48図 縄文土器②



124, SX261・D-5・RP215



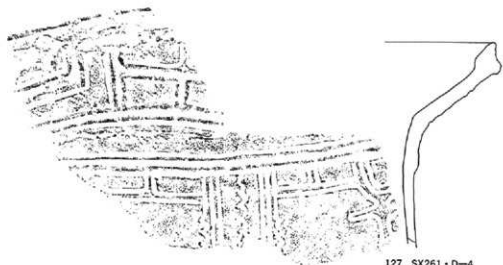
125, SX261・D-5・RP218



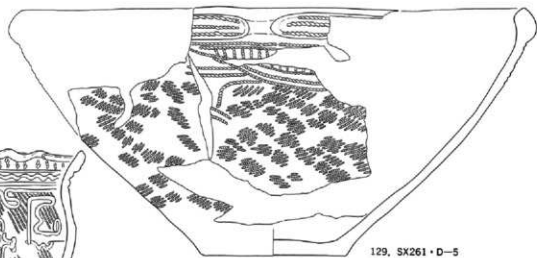
126, SX261・D-5・RP231

0 1:3 10cm

第49図 縄文土器②



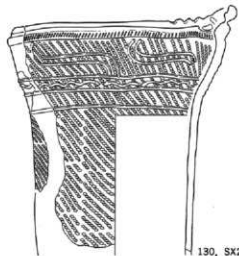
127, SX261・D-4



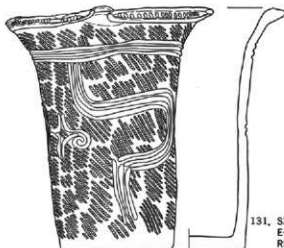
129, SX261・D-5



128, SX261・E-4・RP166



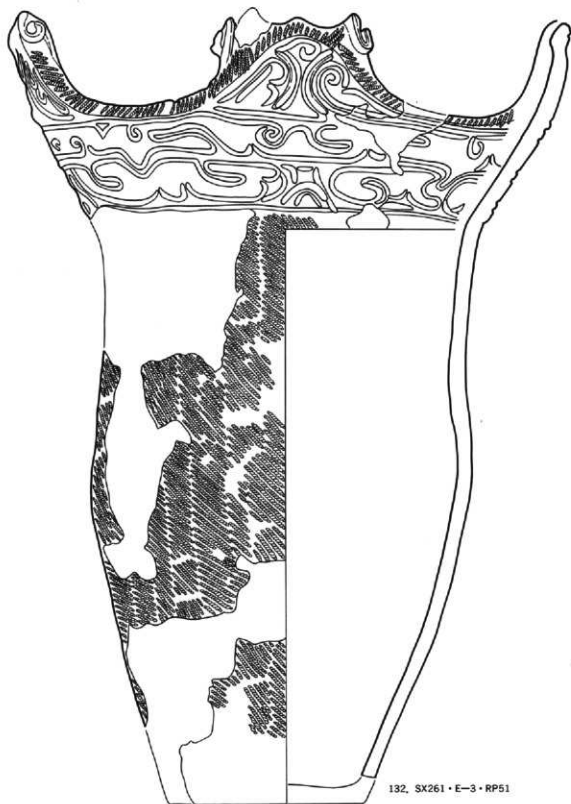
130, SX261・E-3・4・RP67



131, SX261
E-3
RP55

0 1:3 10cm

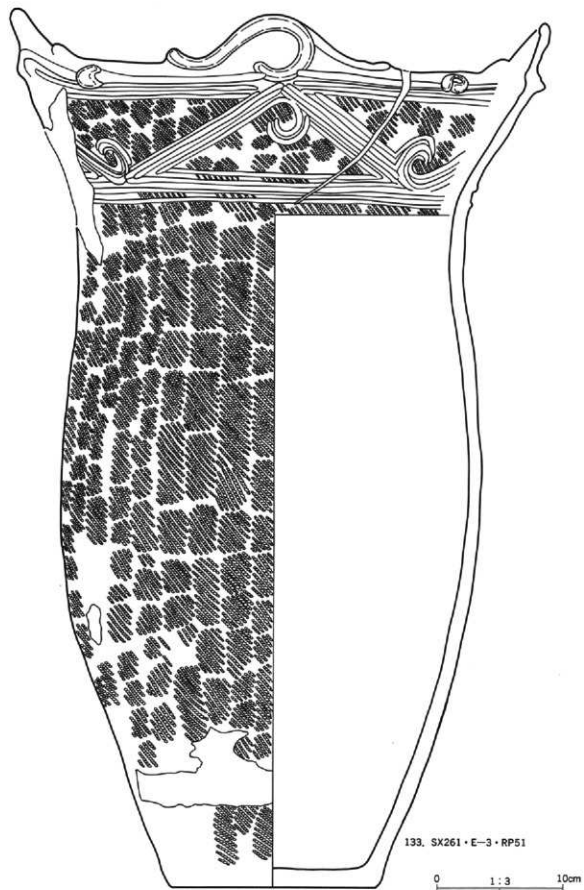
第50図 縄文土器30



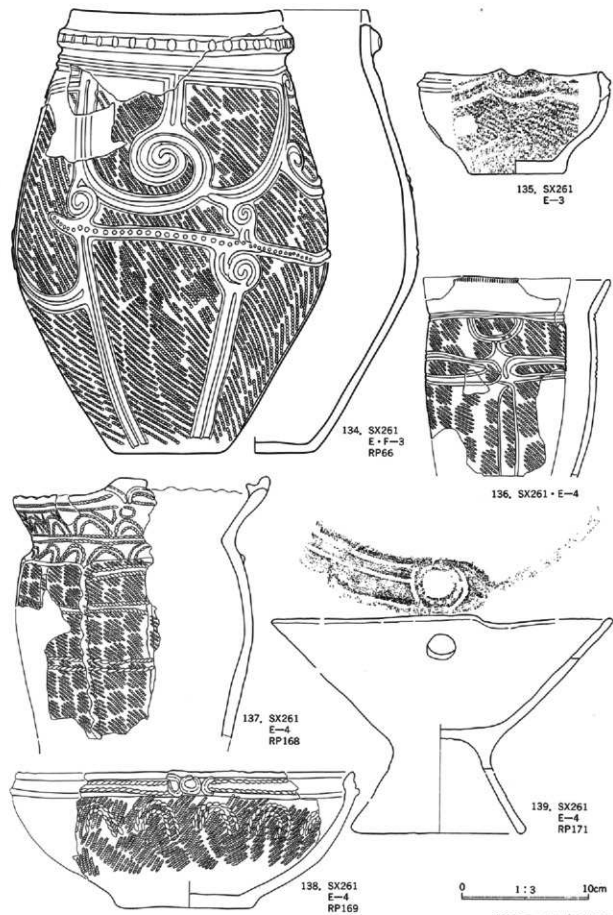
132, SX261・E-3・RP51

0 1:3 10cm

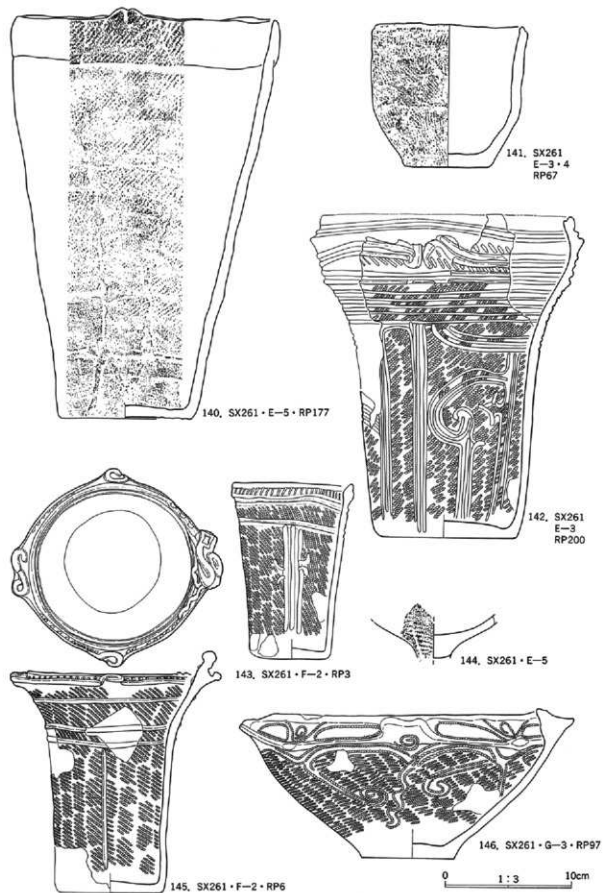
第51図 縄文土器(1)



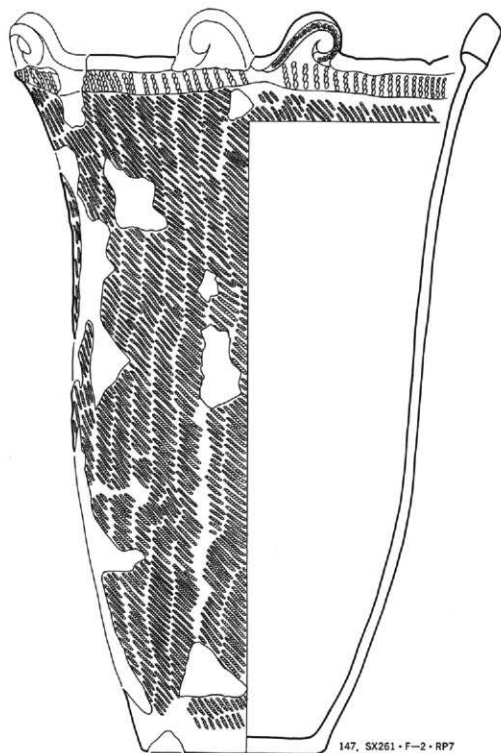
第52図 縄文土器③



第53図 縄文土器③

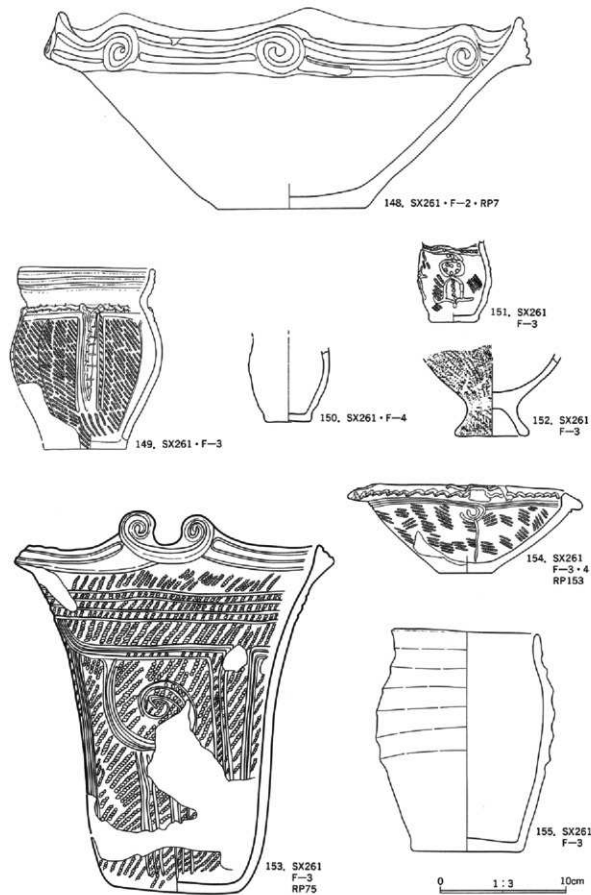


第54図 縄文土器34

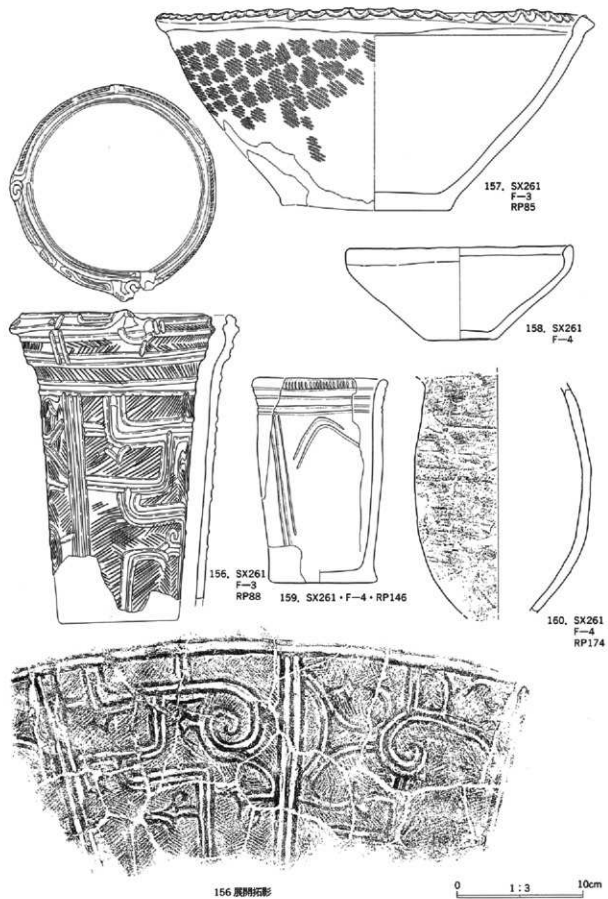


0 1:3 10cm

第55図 縄文土器39

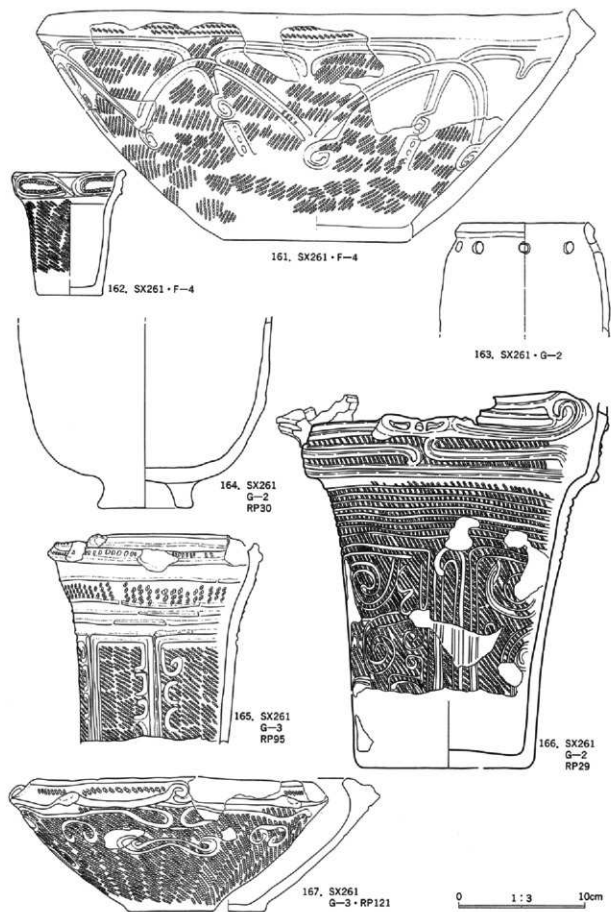


第56図 縄文土器③

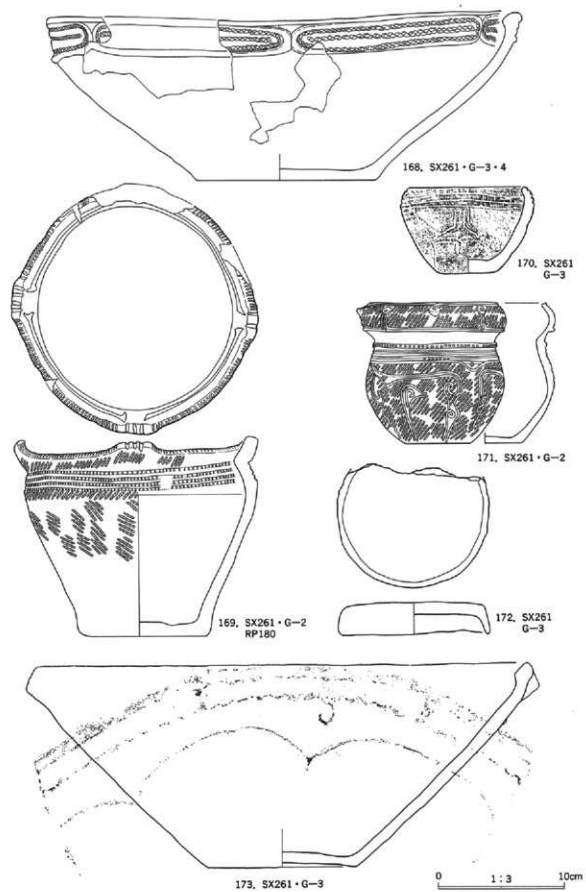


156 鹿跡彫

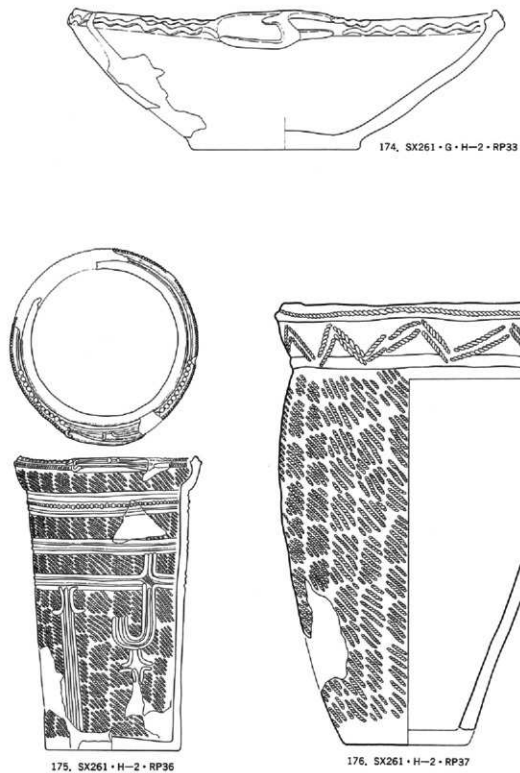
第57図 縄文土器④



第58図 縄文土器⑩

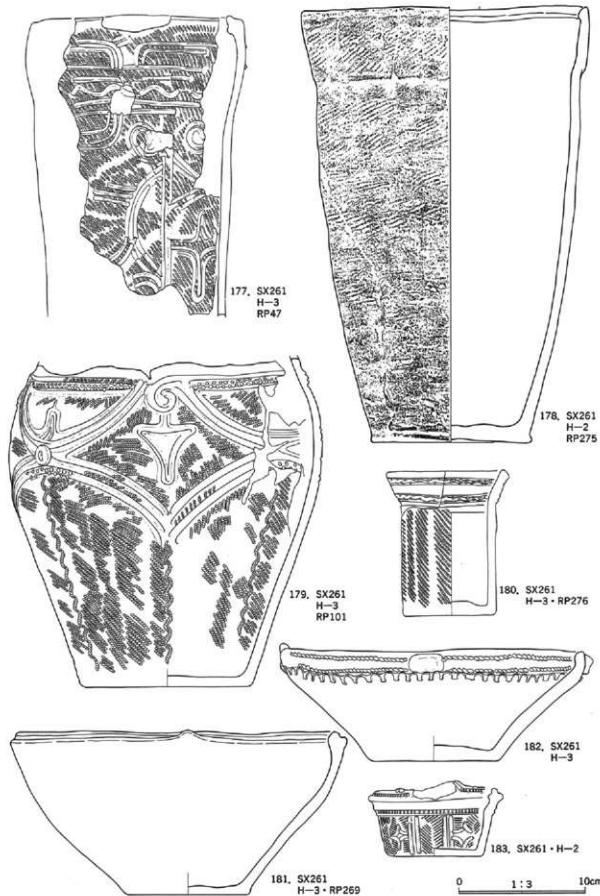


第59図 縄文土器⑨



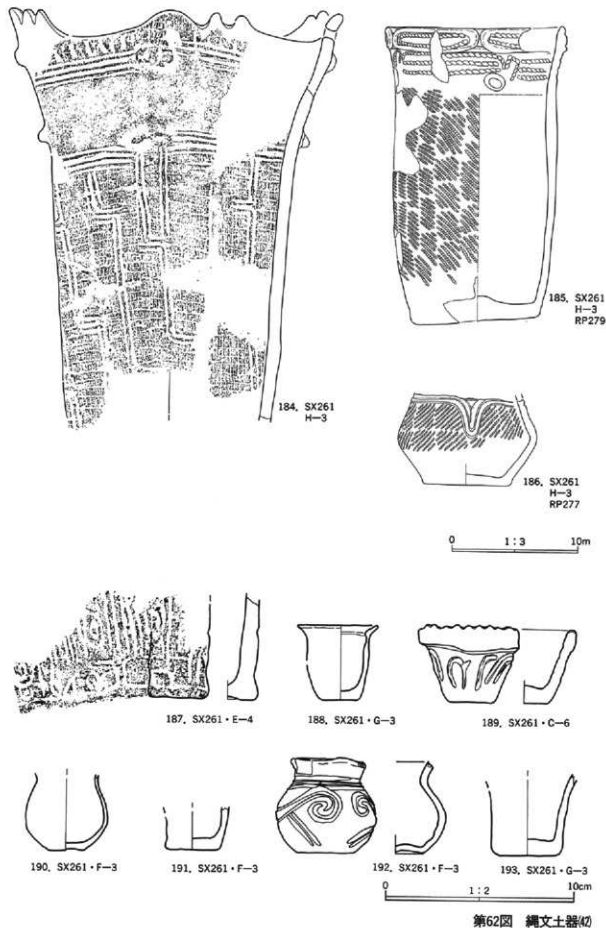
0 1:3 10cm

第60図 縄文土器④



0 1:3 10cm

第61図 縄文土器④



5 土偶・土製品

ミニチュア土器 (第62図187~193)

図示した7点のほか底部資料が若干出土している。いずれもSX261から得られたものである。完形でも器高5cm前後でありその分量からも実用品とは考えられない。器表面に施文されているもの(187・189・192)と無文であるが器面が薄く丁寧に仕上げられているもの(188・190)、やや粗雑なつくりとなるもの(191・193)がある。製作は必ずしも手づくによるものではなく189は明瞭な輪積み痕を残している。

土 偶 (第63図~第74図)

土偶は図示しなかったものも含めて46点が出土している。すべてが破損した状態で出土し、そのうち完形に復元できたものは第65図~第68図14の大形品1点のみである。これについてもその出土状況はSX261F・G-3区内において各部がばらばらの状態であった(第19図)。破片資料の内訳は頭部6点、頭部~胸部1点、胸部10点、腰・腹部10点、腰部~脚部5点、脚部11点、頭部のみ欠損2点となる。これらは集落域から出土したのもも含め、すべてが破損後あるいは機能を失った後に廃棄されたと考えられる。

今回出土した土偶はその形態の特徴から以下の4類型に分けられる。

I類：基本形は14に代表されるもので、今回出土の大半はこの類型に属する。面相を表現しない頭部、省略された両腕部とW字形の胸部、後ろに張り出す腰部、2本の脚などを共通の形態的特徴とする。また上腹部の正中線、背筋を表現した凹線、脚部に横方向の集合沈線が施文される。これらはさらに高さ30cmを超える大形のa(14・15・39)、高さ15~30cmとなる中形のb(1~4他)、高さ15cm未満となる小形のc(10・16・22・44)に細分できる。

II類：脚部が1本に省略されたもの(9・34)。

III類：脚全体が省略され板状となるもの(28・38・43)。

IV類：面相の表現されたもの(5・42)。上記3類型のいずれかの頭部資料と思われるが、詳細は不明である。

耳栓 (第75図1~9)

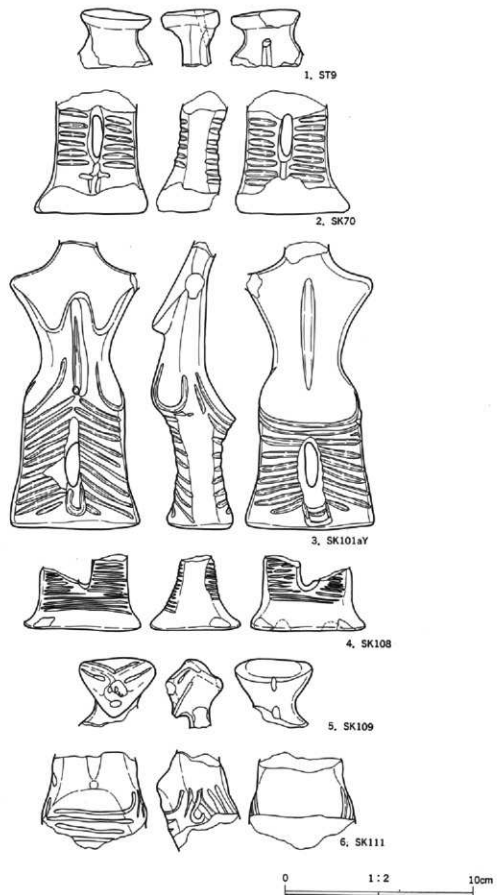
図示した9点のほか、破片資料が1点出土している。

管状土製品 (第75図11~14・第76図)

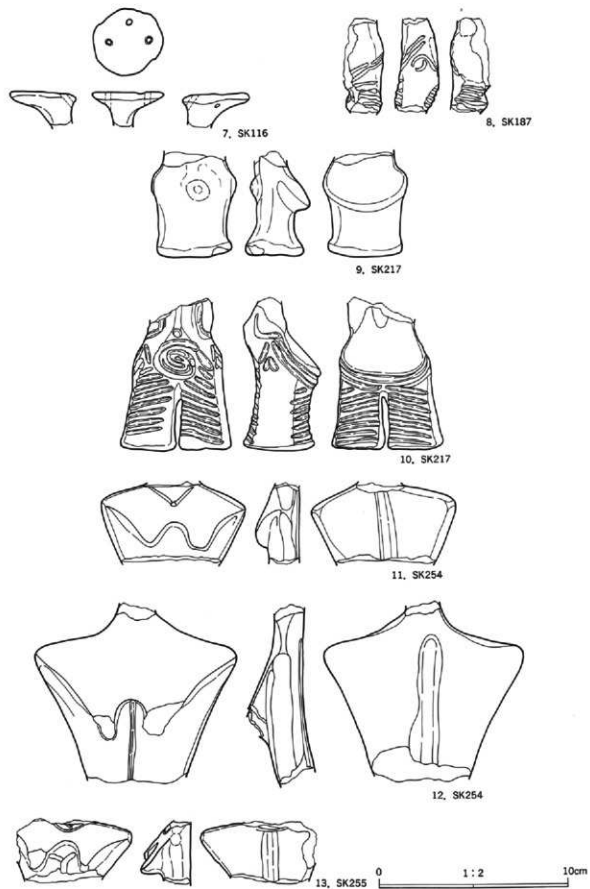
図示した7点のほか破片資料が数点出土している。管状の植物の茎の束に粘土を巻きつけて製作したものである。先端部が潜望鏡形に折り曲げられたものが2点ある。

その他の土製品

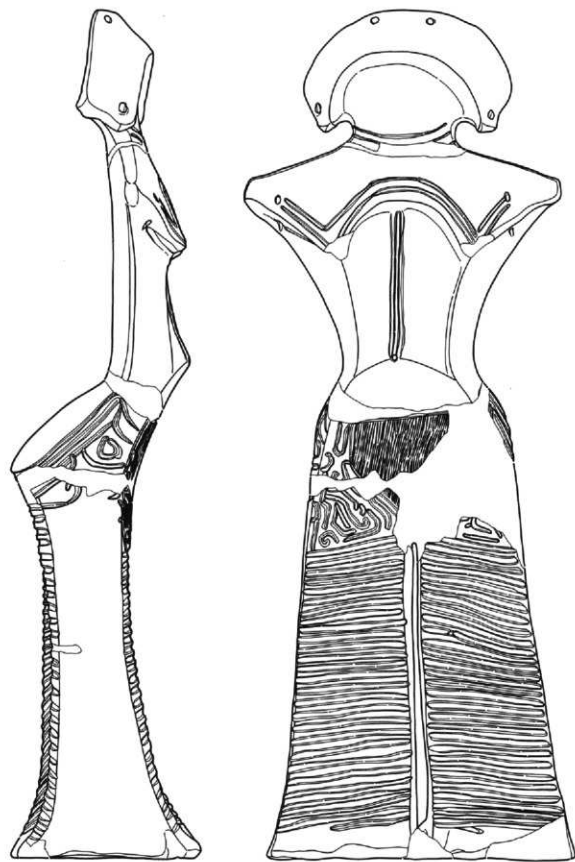
スプーン状土製品(第75図10)、スタンプ状土製品(第75図15)が各1点出土した。



第63図 土俵(1)

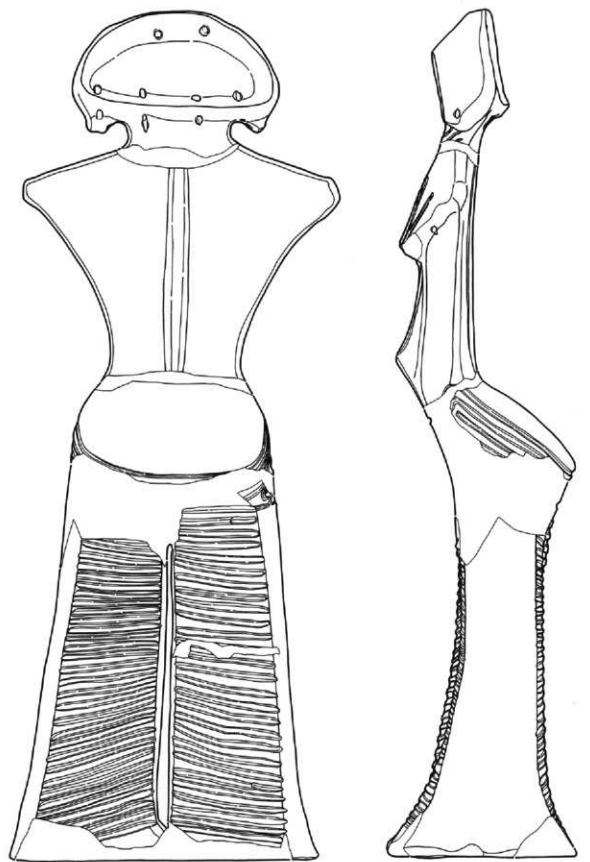


第64図 土俵(2)



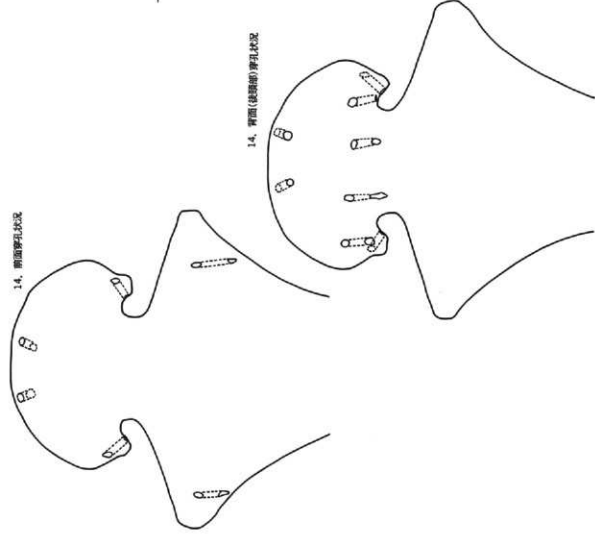
14. SX261・F・G-3 RP181・182・188・193・196

第65図 土偶(3)

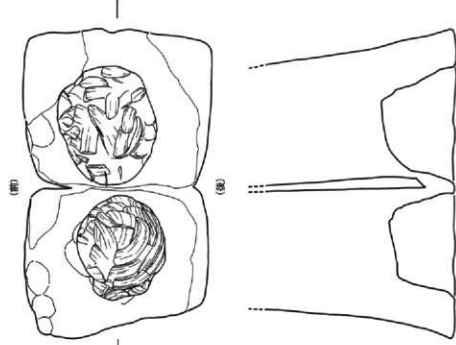


第66図 土偶(4)

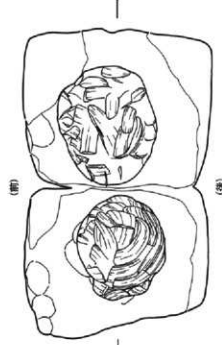
14. 側面穿孔状況



14. 背面(後腹面)穿孔状況

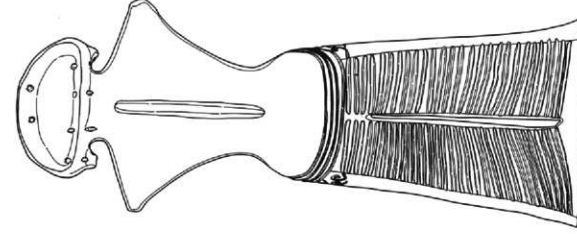
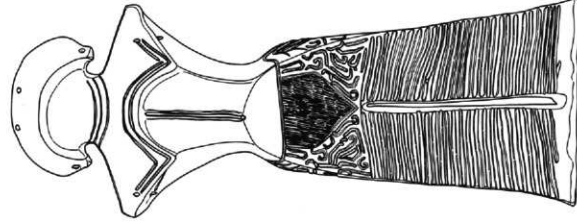


14. 側面入孔状況



0 1:2 10cm

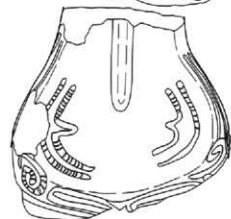
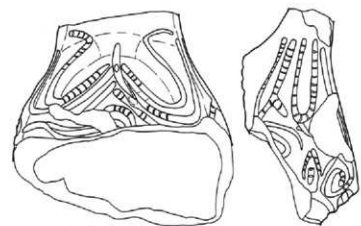
第67図 土厚(5)



0 1:3 10cm

14. 器底穿孔図

第68図 土厚(6)



15, SX261・C-6



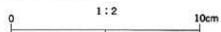
16, SX261・D-5・RP194



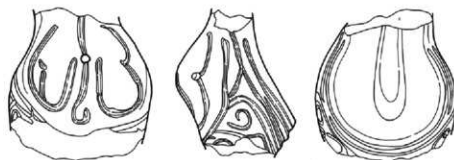
17, SX261・D-5・RP197



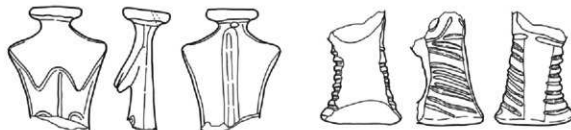
18, SX261・D-5・RP198



第69図 土俵7)



19, SX261・C-5・RP187



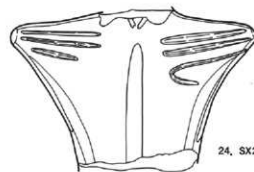
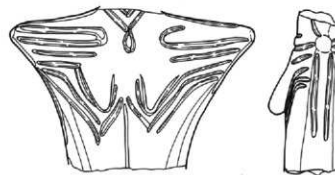
20, SX261・C-5・RP183

21, SX261・C-5・RP185

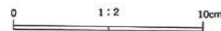


22, SX261・C-5・RP184

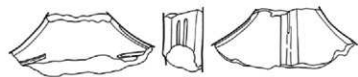
23, SX261・C-5・RP267



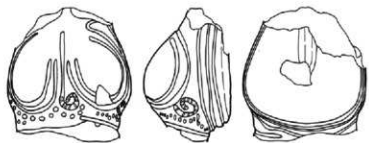
24, SX261・C-6



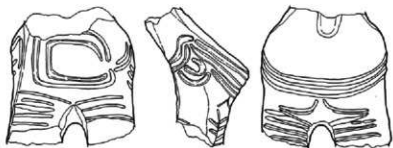
第70図 土俵8)



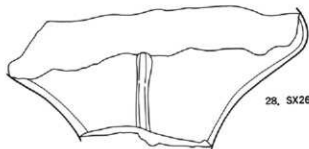
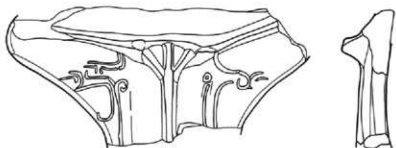
25. SX261・D-4・RP199



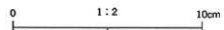
26. SX261・D-5・RP264



27. SX261・D-4・RP265



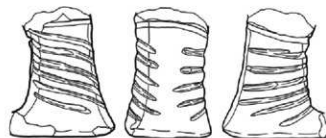
28. SX261・D-4



第71図 土偶(9)



29. SX261・D-5



30. SX261・D-5・RP255



31. SX261・D-5・8層



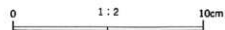
32. SX261・E-3・RP56



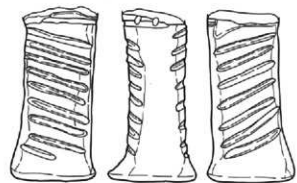
34. SX261・F-4



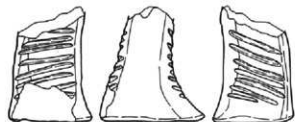
33. SX261・E-4



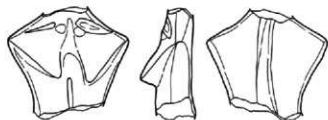
第72図 土偶(10)



35. SX261・G-3・RP186



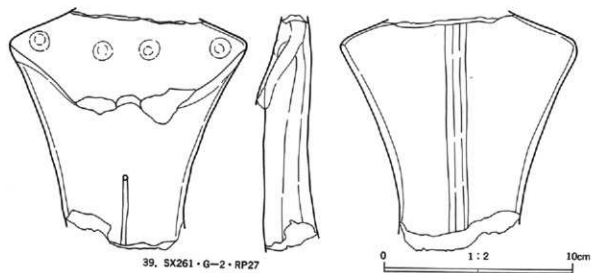
36. SX261・G-3



37. SX261・RP195

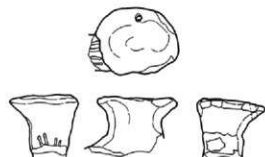


38. SX261・G-4

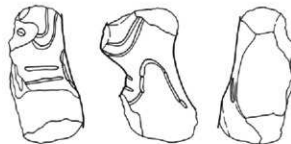


39. SX261・G-2・RP27

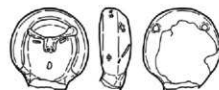
第73図 土偶(1)



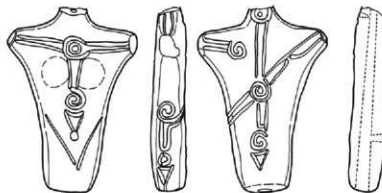
40. SX261



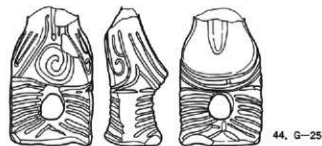
41. SX261・H-3



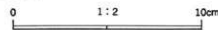
42. II層



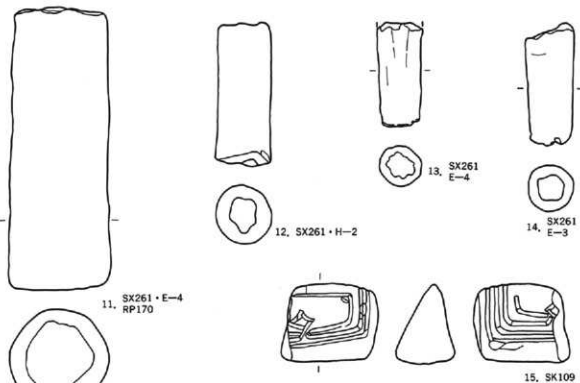
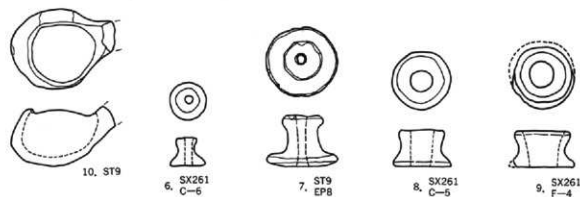
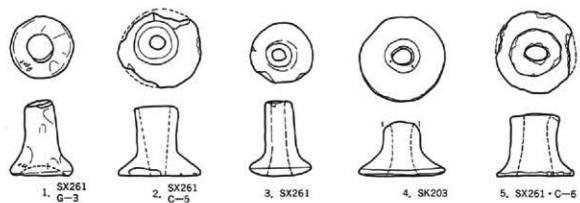
43. II層



44. G-25

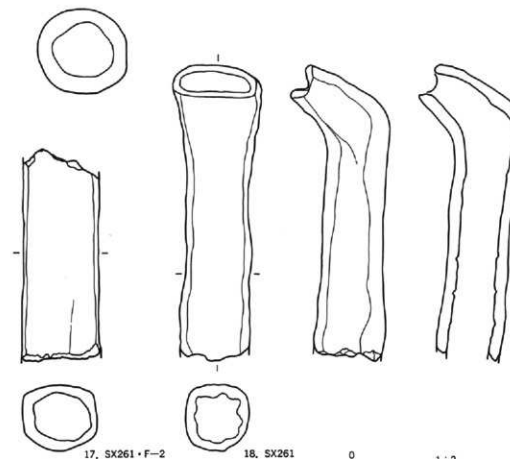
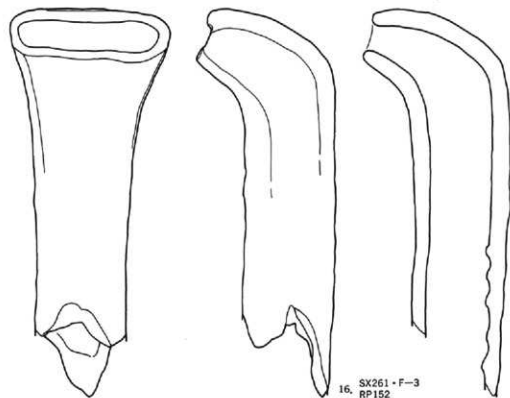


第74図 土偶(2)



0 1:2 10cm

第75図 土製品(1)



0 1:2 10cm

第76図 土製品(2)

6 石器

今回の調査では2,550点の石器が出土した。その内訳は、剥片素材の打製石器が275点、礫素材の打製石器が69点、その生産にともなう剥片が1,379点、石核4点、磨製石器88点、礫石器735点となっている。総数に占める tool の割合は45%で、さらにその中の63%が礫石器である。打製石器に比較して剥片、石核の数が少ないことから、その主たる生産場所は調査区外にあると考えられる。また礫石器の比率が高いことは遺跡自体の性格を知るうえで重要な示唆を与えるものであろう。本遺跡出土の縄文土器は大木7 a 式から大木8 b 式のものがほぼ連続して得られている。出土した石器の大半は、これらの土器が使用された縄文時代中期初頭から中葉にかけて製作、使用、廃棄されたものと考えられる。以下に各種毎に分類を中心にその概要を述べる。

石 鏃 (第79図1～5)

出土数は僅かに5点であり極端に少ない。石材はすべて頁岩である。形態は基部に抉入のある石鏃が3点(1～3)、有茎の石鏃が1点(4)のほか、折損により基部の形状が不明なもの1点ある(5)。なお、1、3には着柄部両面にアスファルトの付着が認められた。

尖頭器 (第79図6～8)

両面加工もしくは片面加工により尖った先端部を作出した石器を尖頭器とした。今回得られたのは石楯状の形態となるもので完形品(6)、未製品(7)、基部破片(8)の3点のみの出土である。石材はいずれも頁岩である。

異形石器 (第79図9～11)

つまみ部を作出し、左右非対称となる9、同じくつまみ部をもち左右対称形となる10、三日月形となる11の3点が出土した。いずれも両面に丹念な2次調整が認められる。石材は9が透明な石英、10、11は頁岩製である。

石 鏟 (第79図12～24・第80図25・26)

素材となった剥片の縁辺に調整加工を施して、その一端あるいは相対する両端に尖った先端部を作出した石器を石鏟とした。23点の出土がある。石材は玉髄質が1点の他は頁岩製である。以下のように分類できる。

- I 類：長い尖頭部をもつもの(12・13)。尖頭部と基部との境界にノッチが入りその区別は明瞭である。3点が出土している。
- II 類：細長い棒状の形態となり、基部と尖頭部との境界が不明瞭なもの(14～18)。すべて両面加工となる。全部で6点が出土した。
- III 類：素材となる剥片のかたちを大きく変えることなく刃部を作出したものの。素材のあたりに制約されるため、多様な形態をとる。さらに細分できる。

- a：一端に刃部をもつもの(19～25)。11点が出土した。いずれも縦長剥片の末端を刃部としている。尖頭部の断面形は三角形を呈するものが多い。
- b：二端に刃部を作出するもの(26)。2点が出土。

IV 類：I～III 類以外の特殊な形態となるもの。両面加工の削器の刃部を折り取ってその長軸先端に刃部を作出しており、その部分に磨減がみとめられる。図化しなかったが1点の出土がある。

石 匙 (第80図27～第81図53)

相対する二つのノッチを入れることによって作出されたつまみをもつ石器を石匙とした。全部で31点が出土している。石材はメノウ、鉄石英、玉髄質が1点ずつあるほかは頁岩製である。なお29・33はノッチの入った部分にアスファルトが付着する。これらはつまみと刃部との位置関係によって以下のように分類される。

I 類：つまみを上方に置いたときに側縁が刃部となる縦形のもので、次のように細分できる。

a：左右が対称形となるもの。先端部の形態によってさらに細分される。

1. 両側縁のみの加工ではあるが、尖頭器のような先端部をもつもの(27)。
2. 完全な両面加工となり、錐棒の先端部となるもの(28)。
3. 先端部が幅広となり、ここにも加工があつて刃部となるもの(29～34)。
4. 先端部が幅広となるが、折損により加工の認められないもの(35～39)。

b：左右が非対称なもの。

1. 左側縁が「く」字状に曲がって肩を張り右側縁が直線状となるもの(40～41)。
2. 左側縁が凹弧を描き、右側縁が直線状となるもの(42)。
3. 左側縁が直線状となり、右側縁が凸弧を描くもの(43)。
4. 左側縁が凸弧状、右側縁が直線状となるもの(44)。3、4とも図示したのもも含めて各々2点ずつの出土がある。
5. 両側縁が凸弧状となるもの(45・46)。
6. 側縁に折面をもつもの(47・48)。
7. 長軸縁が「く」字状に屈曲しているもの。図示し得なかったが、1点出土している。

II 類：つまみを上方に置いたとき、その下端の縁辺が刃部となる横形のもの(49～52)。

III 類：I・IIの中間的形態となるもの(53)。2点が出土した。

石 篋 (第82図54～第87図115)

素材となった剥片の、背面と主要剥離面の両面に加工され、その長軸の末端が刃部になると考えられる一群、また、背面側だけの片面加工であっても、刃部と考えられる末端の

刃角が小さく、搔器とはなり得ないものもここで扱った。この定義に合致する石器は100点ある。石材は玉髓質が3点、流紋岩が1点ある他はすべて頁岩製である。これらは平面的なかたち、刃部の形態、加工部位の相違により以下のように分類される。

I類：撥形で刃部が片刃状となるもの。

- a：両面加工であり素材の両面ほぼ全体が調整加工で覆われるもの。
 - 1：刃部が丸みをおびるもの(54・55)。2点が出土した。
 - 2：刃部が直線状となるもの(56~58)4点が出土した。
- b：周辺部のみ加工が施され、刃部の両面に素材面を残し、刃部が両面加工となるもの。59は全周にわたる両面加工、60は刃部と基部が両面加工となり打面側に刃部を作出している。以上2点の出土である。刃部はいずれも直線状となる。
- c：刃部の一面または両面に素材面を残し、刃部の加工が背面側のみ施されているもの(61~64)。4点出土。61~63は貝殻状剥片を素材とし、主要剥離面側にバルブを取り去るための調整がはいる。刃部はいずれも直線状となる。
- d：刃部の両面に素材面を残し、刃部の加工が主要剥離面側のみに施されているもの(65)。2点が出土した。刃部は直線状となる。
- e：刃部の両面に素材面を残し、刃部が未加工となるもの(66・67)。3点の出土があり、いずれも縦長の剥片を素材として側縁のみ調整加工が施され、打面を残す。刃部は丸みをおびる。

II類：撥形で刃部が両刃状となるもの。

- a：両面加工となり、調整が素材のほぼ全体におよぶもの(68・69)。2点が出土した。刃部は丸みをおびる。
- b：刃部の一面または両面に素材面を残すもの。
 - 1：刃部が丸みをおびるもの(70・71)。3点が出土した。
 - 2：刃部が直線状となるもの(72~74)。3点が出土した。

III類：短冊形で刃部が片刃状となるもの。

- a：両面加工となり、調整が素材のほぼ中央部にまでおよぶもの。
 - 1：刃部が丸みをおびるもの(75~86)。13点の出土がある。
 - 2：刃部が直線状となるもの(87~89)。3点の出土がある。
- b：素材の背面はほぼ全面が調整加工で覆われるが、主要剥離面側は側縁だけに周辺加工が施されるもの。
 - 1：刃部が丸みをおびるもの(90)。
 - 2：刃部が直線状となるもの(91・92)。
- c：両面に素材面を大きく残すもの(93~96)。刃部はすべて直線状となる。7点が出土した。

IV類：短冊形で刃部が両刃状となるもの。

a：両面加工となるもの。

- 1：刃部が丸みをおびるもの(97~103)。7点が出土した。
- 2：刃部が直線状となるもの(104~107)。5点が出土した。

b：両面に素材面を残すもの(108-109)。刃部は丸みをおびる。3点が出土した。

V類：平面形が撥形にも短冊形にもならないもの(110~112)。かたちは多様であるがいずれも長軸先端を刃部と認めることができる。7点が出土した。

VI類：製作段階の途中もしくは製作中の折損により廃棄されたと思われる一群である。未製品、失敗品と考えられる(113~115)。8点が出土した。

VII類：刃部が折損しているもの。I類~IV類の基部資料と考えられる。図化しなかったが19点が出土した。

搔器(第88図116~123)

急角度の調整加工によって刃部を作出した石器を搔器とした。この定義にあてはまる石器は11点出している。刃部の作出に際しては種状剥離が多用される。素材は縦長剥片を用いたものがほとんどである。いずれの個体でも長軸端には必ず刃部を作出している。石材は黒曜石が1点ある他は頁岩である。刃部の位置と数により以下のように分類される。

I類：縦長剥片が素材として用いられ、その3縁辺が刃部となり得るもの(116~121)。

長軸端の刃部には主要剥離面側にも浅い調整の認められるものが多い。7点が出土した。

II類：縦長剥片が素材として用いられ、その左側縁と末端が刃部となり得るもの。図示しなかったが1点が出土した。

III類：縦長剥片が素材として用いられ、その右側縁と末端が刃部となり得るもの。1点が出土した(122)。

IV類：素材の長軸先端部に刃部を作出したしたもの(123)。2点が出土した。

削器(第88図124~第89図129)

剥片の縁辺に連続的に調整加工を施して刃部を作出した石器を削器とした。全部で27点の出土がある。石材はすべて頁岩製である。不定形であり、素材の選択により以下のように分類できる。

I類：縦長剥片を素材とするもの(124~128)。16点が出土した。

II類：横長剥片を素材とするもの(129)。11点が出土した。

加工痕ある剥片(第89図130)

剥片に2次加工を施しながらも、刃部を形成するような連続した加工とはなっていないものである。全部で72点が出土した。130はその中の1点である。

石核 (第89図131・132)

石核は4点が出土した。いずれも多方向からの剝離面で構成される。

打製石斧 (第90図133～第93図158)

偏平な礫を素材として加工を施し、その長軸の一端に刃部を作出した石器を打製石斧とした。この定義にあてはまる石斧は40点出している。素材には凝灰岩質、安山岩質の石材が多量される。加工部位により以下のように分類される。

I類：粗い剝離が両面のほぼ全域に施されたもの(133)。2点が出土した。

II類：刃部および両縁辺部に加工を施し、素材面を大きく残すもの。さらに細分できる。

a：側縁部の加工が剝離によるもの(134～137・141～144・147・150・151・153～155)。16点が出土した。

b：側縁部の加工が剝離と敲打によるもの(138～140・145・146・148・149・152・156・157)。16点が出土した。

III類：刃部となる長軸の一端に簡単な加工を施したのみで、側縁部にはまったく調整の加えられないもの(158)。6点の出土がある。

偏平礫石器 (第93図159・160)

偏平な楕円形の礫を素材としてその片側縁または両側縁に粗い調整加工を施し刃部としたものを偏平礫石器とした。刃はいずれも両面加工となる。石材は凝灰岩質、安山岩質が用いられる。17点の出土があり、加工部位により以下のように分類される。

I類：両側縁に刃部をもつもの(159)。7点が出土した。

II類：片側縁に刃部をもつもの(160)。10点が出土した。

敲石

棒状あるいは楕円形の礫の端部に敲打痕をもつ石器である。ハンマーとして使用されたものと考えられる。自然礫を利用したものが6点、偏平礫石器から転用されたものが1点、磨製石斧の未製品を利用したものが3点、折れた磨製石斧から転用されたものが8点出している(173・179)。

円形礫石器 (第94図161～163)

偏平な礫を素材としてその縁辺部全周にわたり急角度の調整加工を施し刃部を作出した石器である。すべて片面加工となる。凝灰岩質の石材を用いているが調整が比較的丁寧であり、礫素材の円形撻器と考えられる。161の裏面には捺痕が観察されるほか、162・163の裏面も光沢が認められる。3点が出土した。

石錘 (第94図164～166)

偏平な円礫の相対する両端に打欠きをおこなって、挟り込みを入れた石器を石錘とした。全部で3点の出土がある。いずれも礫の長軸側の上下、下端に挟り込みを入れている。

磨製石斧 (第95図167～第97図191)

磨製石斧は破片資料を含めて全部で83点の出土がある。このうち完形品または全体の大きさを把握できる資料は17点と少なく、出土点数に比較して破損率が高いといえる。破損のしかたは刃部の刃こぼれは別として、着柄の状態によるものであるところが中央から刃部に近いところで折れたものが目立つ。破損した資料については敲石、凹石などの機能をもった石器への転用がはかられた例が多く認められる。このほか刃部を破損したものに對して再生加工を施し、その行程途中で廃棄されたと考えられるものが3点ある。石材は緑泥片岩、安山岩質のものが多用される。製作技術の側面から以下のように分類できる。

I類：両側縁を面取りするいわゆる定角式磨製石斧である(167～176)。21点が出土しており、その内訳は完形・略完形資料が4点(167～169・171)、破損品では刃部資料が6点のうち1点が敲石に転用(173)、1点が折損後に表裏面および右側面を利用して凹石に転用(176)、基部資料が11点のうち敲石に転用されたものが2点、刃部再生を試みられたものが1点ある。完形・略完形資料はすべてが全長12cm未満、重量200g以下の小形品である。

II類：横断面が楕円形になる乳棒状石斧である(177～180)。I類に比較して、全長が同じであれば身が厚くなる傾向がある。19点が出土した。完形は178の1点のみである。その他は刃部資料が8点で敲石転用が1点、基部資料が7点で敲石転用が179を含め2点、中間部資料が3点で敲石転用が1点、刃部再生を試みたものが1点となっている。

III類：I類とII類の中間的な形態をもつもの(181～187)。31点が出土した。完形が6点のうち1点は刃部再生途中(185)、刃部資料が8点、基部資料が13点で敲石に転用したものが1点、中間部資料が4点ある。

IV類：研磨の工程が簡略化されて、表裏面全体に敲打痕、剝離面を明瞭に残しているものである(188)。製作途中で廃棄した未製品と考えられるものや、打製石斧の刃部を研磨している局部磨製石斧的なものをも一括した。刃部の作出は本体に比較して特に入念ということはないが、破損資料の中には使用中に折れたと思われるものが明らかに含まれる。形態は棒状なものや偏平なものなど変化に富む。9点が出土した。そのうち完形が188を含む4点、刃部資料が4点、基部資料が1点である。

V類：細長く偏平な礫の一端を打ち欠いたのち、その部分を研磨して刃部を作出したものの(189～191)。表、裏面および側縁部は自然面を残し、加工は末端部分に限られる。図示した3点が出土している。

表9 磨石属性表(1)

No.	出土区	大きさ(mm)			重量(g)	分類	附録	No.	出土区	大きさ(mm)			重量(g)	分類	附録
		長さ	幅	厚						長さ	幅	厚			
1	SX261-G-3	179	93	38	1,633		192	71	SX261-G-2	169	85	55	1,197	1	
2	SX261-G-3	136	82	34	1,331		130	72	SX261-G-2	143	78	41	850	1	
3	ST19	122	93	71	1,679		194	75	SX261-G-2	182	76	41	850	1	
4	ST19	176	64	44	683		123	76	SX261-G-2	123	76	42	548	1	
5	SX261-E-4-3Ⅱ	150	73	57	1,208		156	75	SX261-G-2	183	95	63	1,510	1	
6	SX261-E-4-3Ⅱ	161	76	44	963		167	76	SX261-G-2	182	96	78	1,325	1	
7	ST19	184	90	48	982		198	77	SX261-H-2	146	81	52	877	1	
8	SX261-G-3	141	78	41	602		159	78	SX261-G-3	196	71	44	921	1	
9	ST19	154	74	57	1,860		166	80	SX261-G-3	180	81	54	1,111	1	
10	SK264	141	71	43	670		201	80	SX261-G-3	149	76	43	713	1	
11	SX261-G-3	157	96	66	767		202	83	SX261-G-3	169	94	36	771	1	
12	SX261-D-5	130	73	46	843		203	82	ST9	166	84	40	763	1	
13	SX261-F-3	143	81	46	813		204	83	Ⅱ-II	169	84	55	827	1	
14	SX261-G-2	166	79	48	802		205	84	SX261-F-4	65	77	41	270	1	
15	SX267	155	62	39	386		206	85	SP247	133	85	56	833	1	
16	ST134	194	74	60	870		207	88	ST9	149	84	52	788	1	
17	ST19	189	99	34	828		208	87	SX261-D-4	153	82	41	705	1	
18	SX261-E-5-3Ⅱ	155	78	56	988		209	88	SX261-D-4	152	63	54	752	1	
19	SX261-E-5-3Ⅱ	169	78	63	831		209	89	SX261-E-4	149	84	52	788	1	
20	SX261-D-6	171	86	45	944		90	SP247	155	60	61	1,104	1		
21	ST19	212	80	38	1,027		91	SK24	180	72	46	902	1		
22	SX62	163	79	46	746		92	SX261-G-3	168	92	55	1,338	1		
23	SX261-D-5	184	75	51	996		93	SK101	198	86	49	997	1		
24	SX261-F-3	173	83	57	1,161		94	ST9	155	88	48	938	1		
25	SX261-D-5	146	84	49	773		95	SX261-E-3	197	89	61	1,041	1		
26	SX261-E-3	146	78	29	743		96	ST9	168	63	53	769	1		
27	SX261-E-4	144	85	44	730		97	SX62	193	82	44	1,053	1		
28	SX62	142	77	44	662		98	SX62	182	84	69	959	1		
29	SX261-F-3	155	89	44	727		99	SK08	151	90	52	749	1		
30	SX62	142	80	74	1,081		100	ST9	189	86	47	1,115	1		
31	SX261-F-3	107	70	55	417		101	SK101C-Y	104	63	45	477	1		
32	SX261-E-4	200	85	63	1,419		102	ST9	199	76	61	1,072	1		
33	SX261-E-4-8Ⅱ	76	70	41	351		103	ST9EP90	166	67	95	822	1		
34	SX261-C-D-5	204	64	46	902		104	ST9	173	74	40	690	1		
35	ST9	99	60	57	453		105	SX62	172	72	34	394	1		
36	ST19	172	78	66	947		106	SX62	178	76	53	1,031	1		
37	SX261	134	70	42	546		107	SX62	166	74	60	1,020	1		
38	SX261	154	80	57	780		108	SP43	173	70	55	903	1		
39	SX261-G-3	133	84	42	938		109	SX62	332	75	51	885	1		
40	H-24	177	71	50	906		110	SX62	112	87	30	665	1		
41	ST19	135	91	82	780		111	SX261-C-6	175	72	62	935	1		
42	SX261-G-3	143	79	40	709		112	ST9	155	71	41	646	1		
43	C-15	40	102	62	1,698		113	SK243	138	69	58	828	1		
44	SX261	133	62	30	409		114	SX261-C-6	161	79	60	938	1		
45	SX261-E-5-3Ⅱ	150	82	53	975		115	SX261-G-3	151	63	49	669	1		
46	ST19	129	64	44	620		117	SX62	217	81	50	1,203	1		
47	SK243	144	78	65	782		117	SX261-B-5	135	69	56	715	1		
48	ST9EP7	106	87	50	581		118	SX261-F-4	148	98	74	1,208	1		
49	SK243	125	72	49	477		119	ST19	184	88	62	848	1		
50	ST9	179	79	64	1,021		120	ST134	175	97	58	1,413	1		
51	SX261-B-6	138	87	52	1,018		121	SX261-E-4-8Ⅱ	152	67	51	703	1		
52	SX261	142	90	41	681		122	SX261-E-4-8Ⅱ	97	69	28	214	1		
53	SX261	131	97	53	876		96	SK101	112	81	54	803	1		
54	SX261-F-2	105	73	48	508		124	SK88	182	111	50	1,513	1		
55	SX261-C-5	126	38	37	341		125	SX261-C-6	136	84	53	850	1		
56	SX261-C-5	178	83	47	803		126	SK65	148	86	86	1,034	1		
57	SP259	200	80	58	1,023		127	SK65	139	82	41	589	1		
58	SX261	167	73	45	867		128	SK88	175	78	46	763	1		
59	SX261-D-4	134	78	53	838		129	ST177	104	72	42	488	1		
60	SX261-C-5	145	86	69	1,148		130	SX261-D-5	154	72	63	54	734	1	
61	SX261-C-5	183	82	48	1,000		131	X-0	93	66	48	398	1		
62	SX261-F-2	141	78	61	848		132	SX261-E-4-8Ⅱ	190	82	59	1,397	1		
63	SX261	183	60	38	280		133	ST19	193	85	40	788	1		
64	SX261-B-6	162	102	62	1,323		134	Ⅱ-II	112	93	60	883	1		
65	SX261	139	102	77	1,250		135	SX261-G-3	122	100	46	843	1		
66	ST9EP5	141	94	93	895		136	Ⅱ-II	123	81	89	897	1		
67	SX261	167	80	89	1,136		137	ST19	123	61	40	374	1		
68	SX261	185	105	42	1,072		138	ST19	197	99	73	1,080	1		
69	SX261	155	82	59	1,044		139	SX261-E-4	199	85	50	657	1		
70	SX261-G-2	148	88	45	890		140	SX261-E-5	118	80	57	990	1		

表10 磨石属性表(2)

No.	出土区	大きさ(mm)			重量(g)	分類	附録	No.	出土区	大きさ(mm)			重量(g)	分類	附録
		長さ	幅	厚						長さ	幅	厚			
141	SP196	100	94	66	897		218	211	SX261-D-5	111	84	56	910	1	
142	ST19	164	79	61	1,199		219	212	SX261-G-3	102	81	56	601	1	
143	ST19	111	61	56	513		213	SX261-D-5	102	77	47	545	1		
144	ST19	118	80	37	692		214	SX261-E-2	105	96	59	1,090	1		
145	ST19	215	94	71	1,383		215	SX261-C-6	125	94	59	660	1		
146	ST19	107	95	62	962		216	SX261-F-4	127	104	70	1,222	1		
147	ST19	116	97	55	886		217	SK266	170	80	80	2,030	1		
148	SK266	121	92	70	1,058		218	SK271	110	88	61	847	1		
149	SX261-G-3	180	81	51	731		219	SK223	131	94	65	1,149	1		
150	SX261-E-4-3Ⅱ	143	97	58	1,189		220	SX261-B-6	114	101	54	837	1		
151	SX261-G-3	197	102	51	771		221	SX261-B-6	118	82	54	811	1		
152	SX261-G-3	119	96	57	840		222	SX261-B-4	152	75	55	660	1		
153	SX261-G-3	95	85	55	575		223	SK223	140	97	70	1,238	1		
154	SX261-G-3	110	97	54	716		224	SK223	130	79	51	493	1		
155	ST19	101	81	45	639		225	SK238	90	82	63	647	1		
156	SX261-G-3	101	81	58	785		226	SK223	131	97	54	996	1		
157	SX261-G-2	136	100	63	1,121		227	SK222	144	105	55	953	1		
158	SX261-G-2	127	89	45	738		228	SX261-B-6	128	102	63	1,140	1		
159	SX261-G-3	104	81	57	697		229	SX261-B-6	98	87	49	598	1		
160	SX261-G-3	125	95	54	913		230	SX62	143	67	48	647	1		
161	SX261-G-3	89	74	45	339		231	SX261-B-6	124	79	56	819	1		
162	SX261-G-3	104	81	65	790		232	SX62	110	88	60	882	1		
163	SX261-G-3	111	82	46	622		233	SX62	160	71	40	788	1		
164	SX261-G-3	118	95	56	932		234	SX261-B-6	136	78	54	834	1		
165	SX261-G-3	119	100	76	1,320		235	SX261-B-3	98	88	65	845	1		
166	SX261-G-3	128	81	53	769		236	ST19	94	81	60	639	1		
167	SX261-E-3	125	97	30	495		237	SX261-G-3	117	110	60	859	1		
168	ST19	107	97	38	653		238	SX261-G-3	115	84	63	845	1		
169	SK217	122	84	63	804		239	SX261-G-3	88	88	67	612	1		
170	ST19	118	111	65	1,184		240	SX261-G-3	123	89	45	710	1		
171	SX261-F-3	110	110	58	1,001		241	SX261-G-3	98	79	44	485	1		
172	SK217	140	89	69	1,205		242	SK102	83	84	63	646	1		
173	ST19	111	91	66	887		243	SX261-G-3	117	99	65	1,105	1		
174	SK219	122	102	68	1,1										

表11 磨石属性表(3)

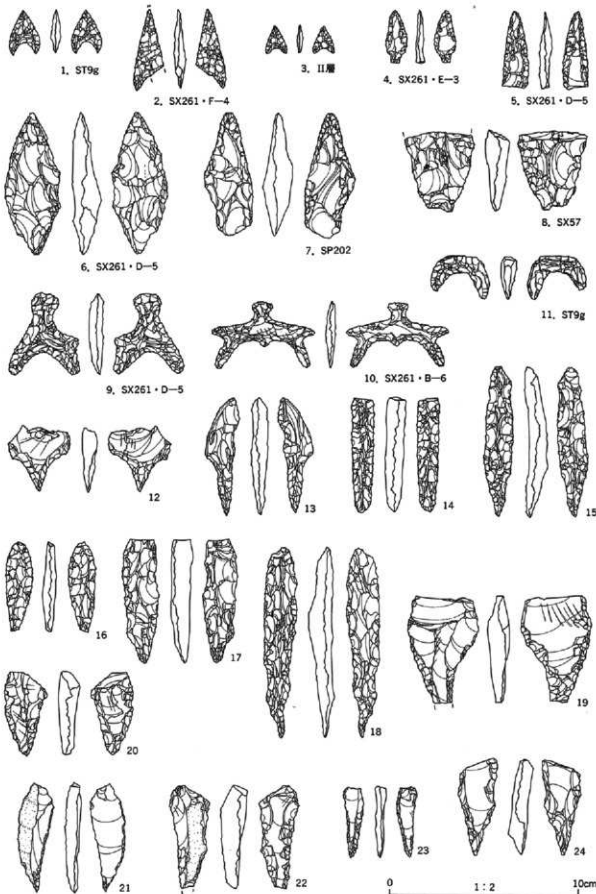
No.	出土区	大きき(mm)				No.	出土区	大きき(mm)				
		長さ	幅	厚さ	重量(g)			長さ	幅	厚さ	重量(g)	
281	SX261-F-3	119	95	49	798	351	SX261-E-3-4-6層	90	69	50	393	II
282	ST19	107	82	59	782	352	SX261-F-3	123	106	25	474	II
283	ST19	125	96	70	1,281	353	SX261-F-3	136	89	36	318	II
284	ST19	141	108	54	1,237	354	SX261-E-3-4-6層	114	101	47	620	II
285	ST19	113	80	54	686	355	SX261-E-3-4-6層	83	77	47	412	II
286	SX261-E-4	119	94	48	791	356	SX261-E-3-4-6層	109	68	50	490	II
287	SX261-E-4	119	93	49	775	357	SX261-E-3-4-6層	100	68	58	475	II
288	SX261-E-4	123	102	59	1,034	358	SX261-E-3-4-6層	113	58	58	699	II
289	ST19	117	85	64	819	359	SX261-F-3	113	85	46	656	II
290	ST19	114	103	61	1,089	360	SX261-D-3	66	55	33	185	II
291	ST19	117	93	49	782	361	SX261-E-3-4-6層	83	61	46	483	II
292	ST19	110	98	68	915	362	SX261-E-3-4-6層	101	71	51	494	II
293	SX261-E-4	123	89	61	806	363	SX261-F-3	119	112	49	880	II
294	ST19	131	88	68	888	364	SX261-F-3	116	88	38	484	II
295	ST19	103	66	48	547	365	SX261-E-4	98	70	50	487	II
296	SX261-D-3	106	82	47	503	366	SX261-E-4	104	77	47	391	II
297	SX261-E-4	117	115	51	1,006	367	SX261-F-3	122	109	18	445	II
298	SX261-D-4	169	75	49	824	368	SX261-E-3	115	100	62	714	II
299	SX261-D-4	146	114	65	1,449	369	SX261-G-3	97	65	65	846	II
300	SX261-E-4	176	84	40	749	370	H-24	78	69	30	235	II
301	SX261-E-4	94	85	69	676	371	H-24	88	69	35	152	II
302	SX261-E-4	67	67	69	293	372	SX261-D-6	73	62	47	303	II
303	SX261-E-4	125	87	52	835	373	SX261-D-4	125	89	58	897	II
304	SX261-D-4	114	105	58	857	374	SX261-E-4	112	86	64	623	II
305	SX261-D-5	114	65	35	400	375	SX261-E-3-18層	102	80	45	532	II
306	SX261-E-4	121	89	59	888	376	SX261-E-4	115	96	53	845	II
307	SX261	110	83	47	624	377	SX261-E-4	116	105	59	999	II
308	SX261-F-4	124	105	87	1,951	378	SX261-E-4	159	96	57	905	II
309	SX261-E-4	124	92	51	897	379	H-24	82	80	47	405	II
310	SX261-E-5	125	95	69	945	380	H-24	79	77	50	397	II
311	SX261	61	55	47	200	381	SX261-E-4	116	86	33	444	II
312	SX261-E-4	132	77	56	753	382	SX261-E-4	124	71	51	551	II
313	SX261	95	78	44	410	383	SX261-D-6	124	96	56	931	II
314	SX261-E-4	67	69	64	389	384	SX261-F-2	90	66	38	316	II
315	SX261-E-4	110	98	56	812	385	SX261-G-2	98	74	48	352	II
316	SX261-E-4	99	80	57	633	386	SX261-D-5	100	92	54	669	II
317	SX261-E-4	120	110	49	850	387	SX261-D-6	97	78	56	579	II
318	SX261-D-4	139	85	49	1,108	388	H-24	84	82	49	459	II
319	SX261-D-4	93	93	71	815	389	ST19	103	85	54	731	II
320	SX261-E-4	116	107	71	1,107	390	SX261-D-E-4	110	92	48	740	II
321	SX261-E-4	116	89	53	689	391	SX261-F-5	90	81	48	563	II
322	SX261-D-5	122	79	53	765	392	ST19	114	91	51	800	II
323	SX261-E-4	115	103	61	869	393	SX261-E-5	86	80	49	502	II
324	SX261-E-3	133	98	58	1,945	394	ST19	117	78	34	503	II
325	SX261-E-3	108	93	62	830	395	SX261-D-5	107	97	56	823	II
326	ST184	102	81	56	582	396	SX261-D-4	92	87	60	667	II
327	SX261-G-3	144	99	53	867	397	SX261-E-4層	175	84	48	957	II
328	SX261-E-3	101	80	52	648	398	ST19	122	85	47	851	II
329	ST19	132	86	48	758	399	SX261-D-5	67	57	55	272	II
330	SX261-H-2	103	93	51	686	400	SX261-D-5	61	55	54	191	II
331	SX261-G-2	139	100	63	957	401	SX261-E-4	113	81	50	748	II
332	ST184	69	61	55	277	402	ST19	115	76	54	762	II
333	SX261-G-2	114	110	53	987	403	ST19	121	92	59	872	II
334	ST19E58	91	75	48	452	404	ST19	147	90	60	948	II
335	ST184	94	73	48	383	405	ST19	127	92	61	1,027	II
336	SX261-G-2	110	88	69	810	406	SX261-F-3	65	49	58	233	II
337	X-O	107	94	57	721	407	ST19	120	91	66	983	II
338	SX261-G-2	96	80	80	686	408	SX261-H-3	91	78	48	328	II
339	SX261-G-2	146	136	55	1,757	409	ST19	118	109	59	1,089	II
340	SX261-G-2	114	97	72	1,031	410	SX261-E-4層	123	115	67	1,490	II
341	SX261-H-2	117	83	61	739	411	ST19	102	96	56	893	II
342	SX261-F-3	89	72	48	408	412	ST19E57	93	51	56	625	II
343	SX261-F-3	119	83	45	679	413	ST19	157	78	52	861	II
344	SX261-F-3	125	97	51	891	414	SX261	110	88	59	799	II
345	SX261-E-3-4-6層	83	68	35	971	415	ST19	117	93	51	856	II
346	SX261-E-3-4-6層	116	81	53	725	416	ST19	88	82	40	404	II
347	SX261-D-5	107	94	54	786	417	SK256	259	136	68	3,472	II
348	SK65	112	85	57	681	418	SK256	165	95	50	826	II
349	SX261-E-3-4-6層	115	85	52	939	419	ST19	79	75	51	386	II
350	SX261-F-3	125	99	55	953	420	SX261-D-5	111	83	49	612	II

表12 磨石属性表(4)

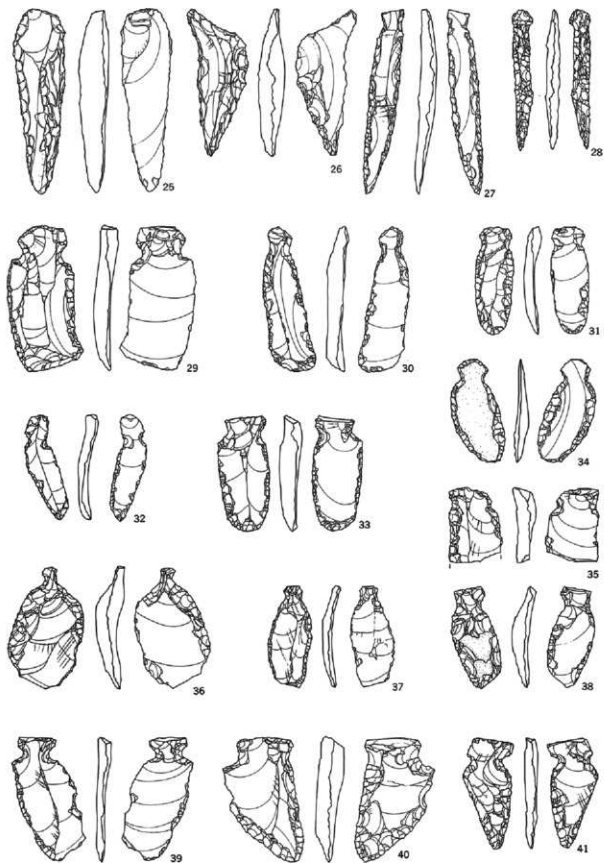
No.	出土区	大きき(mm)				No.	出土区	大きき(mm)				
		長さ	幅	厚さ	重量(g)			長さ	幅	厚さ	重量(g)	
401	ST19	120	92	53	838	465	SK256	168	83	50	696	II
402	SX261	116	101	55	924	466	SK256	106	89	48	622	II
403	ST19	125	67	45	531	467	SX261-F-2	132	88	44	798	II
404	SX261	103	81	46	573	468	SX261-F-2	123	111	35	1,133	II
405	ST19	203	97	48	1,125	469	SK105	112	102	61	922	II
406	ST19E57	117	95	58	865	470	SK105	104	103	47	513	II
407	SX261-D-5	125	91	58	940	471	SX261-F-2	164	78	50	594	II
408	ST19	123	91	55	837	472	SK256	122	93	63	1,001	II
409	ST19	122	80	50	758	473	SK256	110	102	38	802	II
430	SX261-H-3	115	91	64	909	474	SX261	165	90	53	762	II
431	SX261-G-3	107	92	75	1,062	475	SK256	120	81	54	695	II
432	SX261-F-2	126	59	74	473	476	SX261-F-2	126	94	73	926	II
433	SX261-G-3	111	98	55	830	477	SX261	137	77	60	912	II
434	SX261-H-3	132	84	60	949	478	SK65	151	77	55	673	II
435	SX261-H-3	83	74	55	452	479	SX261-E-2	125	96	61	831	II
436	SX261-G-3	100	94	58	690	480	SX261	117	75	55	696	II
437	SK243	131	120	71	1,470	481	ST184	104	63	59	513	II
438	SX261-E-4	145	91	45	688	482	SK257	113	81	67	918	II
439	SX261-G-3	89	83	48	538	483	SK255	75	70	58	362	II
440	SX261-G-3	103	90	64	820	484	SX261-E-2	92	77	65	662	II
441	SK259	129	99	65	1,251	485	SX261	104	69	52	486	II
442	SX261-H-3	95	75	45	481	486	ST19	129	90	61	962	II
443	SK259	140	88	47	849	487	SX261-E-5	100	78	61	628	II
444	SX261-G-3	127	105	64	1,208	488	SX261	96	84	56	657	II
445	SK259	128	100	43	899	489	SX261-E-3	96	77	43	467	II
446	SK243	147	96	66	1,331	490	SX261-E-2	129	108	67	1,211	II
447	SX261-G-3	78	65	41	251	491	SX261	110	83	65	933	II
448	SX261-G-3	59	52	44	159	492	SX261-G-3	118	100	60	968	II
449	SX261-F-2	134	104	52	650	493	SX261-F-2	124	96	55	782	II
450	SX261-G-3	128	87	59	780	494	SX261	127	72	56	508	II
451	SX261-G-3	208	97	65	955	495	SX261-G-3	117	105	67	1,062	II
452	SX261-F-3	138	87	60	953	496	SX261-E-2	66	56	57	277	II
453	SX261-F-3	122	91	47	757	497	SK255	132	92	59	1,051	II
454	SX261-F-3	106	88	54	724	498	SX261	118	95	58	940	II
455	SX261-F-3	128	88	57	1,065	499	SX261-E-4	144	65	1,269	II	
456	SX261-G-3	130	85	64	960	500	ST19	113	86	60	801	II
457	SX261	129	91	56	1,068	501	SX261-G-3	135	114	66	1,013	II
458	SX261-F-3	85	76	69	616	502	SX261-G-3	109	85	68	943	II
459	SX261-F-3	109	101	60	893	503	SX261-G-2					

表14 凹石属性表(2)

No.	出土区	大きさ (mm)		厚さ (mm)	分属	No.	出土区	大きさ (mm)		厚さ (mm)	分属	No.	出土区	大きさ (mm)		厚さ (mm)	分属
		長さ	幅					長さ	幅					長さ	幅		
47	II層	111	86	44	G38	I	109	SX261-D-5	111	92	35	S96	II				
48	SX261-E-4	132	77	77	I	110	SX261-E-4	118	63	50	I	111	92	35	S96	II	
49	ST9	129	102	71	I, 271	I	111	ST34	131	94	56	S90	II				
50	SX261-D-5	116	84	50	725	I	112	SK9	108	99	49	734	II				
51	ST9E40	103	90	60	I	113	SK1	123	81	61	546	II					
52	II層	155	55	37	S27	I	114	SX261-G-3	107	92	44	S80	II				
53	SX261	144	64	42	S75	I	115	SK61	123	103	57	1,024	II				
54	ST9c	104	102	51	790	I	116	SK109F6	113	85	60	S57	II				
55	SX261-D-4	104	95	49	497	I	117	ST9	106	71	45	494	II				
56	SK65	98	89	54	703	I	118	SX261-G-4	114	102	49	830	II				
57	SX261-C-D-5	127	103	83	1,448	I	119	SX261-G-3	103	103	59	829	II				
58	F-5	108	91	52	709	I	120	SX261-E-4	108	85	78	1,010	II				
59	F-5	108	92	46	564	I	121	ST9	110	94	53	788	II				
60	SK243	98	86	53	591	I	122	SX261-G-3	104	87	45	471	II				
61	SX261-D-4	108	91	43	84	I	123	SX261-G-4	106	89	54	768	II				
62	SX261-G-3	112	92	57	876	I	124	SX261-G-3	112	90	48	636	II				
63	SK257	127	103	50	878	I	125	SX261-G-3	160	54	49	465	II				
64	SK243	109	94	56	836	I	126	SX261-E-4	118	101	53	867	II				
65	X-O	108	78	46	610	I	127	SX261-C-6	103	99	46	538	II				
66	ST9EK14	111	93	64	897	I	128	ST9	125	163	62	1,045	II				
67	SX261-D-5	123	84	58	881	I	129	SX261-E-3	104	85	60	785	II				
68	SX261-D-E-4	125	104	51	1,022	I	130	SX261-E-4	109	81	50	840	II				
69	ST9EP38	91	87	55	572	I	131	SX261-D-5	126	87	58	917	II				
70	ST9c	106	83	51	666	I	132	SX261-E-4	115	89	52	780	II				
71	SP202	109	86	56	648	II	227	SX261-B-6	96	82	51	513	II				
72	SX261-H-3	109	80	39	434	II	228	134-H-54	96	80	53	971	II				
73	SK149	110	87	59	739	II	229	138-SX261-C-6	103	80	54	660	II				
74	SX261-C-6	109	86	53	773	II	230	138-SX261-G-2	115	91	49	885	II				
75	I-25	119	102	51	694	II	231	SX261-E-3	106	83	42	829	II				
76	SK217	120	72	33	446	II	232	138-SX261-E-3-18層	106	83	50	840	II				
77	SP259	122	88	47	677	II	233	138-SX261-D-4	82	61	38	225	II				
78	ST9	120	97	58	902	II	234	140-SX261	111	86	47	415	II				
79	SX261-G-3	121	93	52	745	II	235	141-SX261-D-4	107	91	55	778	II				
80	SX261-B-6	128	59	24	276	II	236	142-SX261-E-5	120	96	57	856	II				
81	ST9	125	83	50	738	II	237	143-SX261-E-3-2層	113	83	50	619	II				
82	SX261	129	96	54	912	II	144	SX261-E-4	137	93	59	901	II				
83	ST9	123	77	53	681	II	145	SX261	136	62	35	605	II				
84	SK35	97	75	45	478	II	146	SX261-G-2	111	84	59	772	II				
85	SK99	94	81	57	351	II	147	SX261-E-4	104	84	57	802	II				
86	SK223	125	77	46	612	II	148	SX261-D-4	103	85	26	541	II				
87	ST9	108	90	52	723	II	149	ST9c	110	86	61	912	II				
88	SK72	151	86	39	697	II	150	SX261-F-2	142	88	56	983	II				
89	ST9	154	91	51	1,101	II	151	ST9	101	89	45	863	II				
90	SK222	108	87	31	397	II	152	SX261	94	72	64	566	II				
91	SK243	111	85	36	471	II	153	SX261-D-4	94	92	56	669	II				
92	SK149	109	87	54	879	II	154	SX261-C-5	140	80	62	1,106	II				
93	ST9	121	88	42	489	II	155	SX261-H-3	97	92	47	455	II				
94	ST9	133	89	56	1,015	II	156	SX261-D-5	118	111	54	1,050	II				
95	SP43	100	92	57	746	II	157	ST9c	111	82	52	626	II				
96	SK62	104	101	52	781	II	158	SX261-D-4	115	62	41	568	II				
97	SX261-G-3	110	96	60	861	II	159	SX261-F-3	98	78	45	842	II				
98	ST9	127	106	56	886	II	160	SX261-F-3	122	106	52	970	II				
99	SK177	162	86	48	376	II	161	SX261-C-D-5	105	89	38	614	II				
100	ST34	121	59	26	253	II	162	ST9	127	93	54	938	II				
101	SK82	120	100	43	691	II	163	SX261-D-5	114	93	51	787	II				
102	SK197	161	74	32	561	II	164	SX261	142	63	26	710	II				
103	SX261-E-4	102	80	55	680	II	165	ST9c	127	76	34	483	II				
104	SX261-G-3	121	95	58	882	II	166	SX261-D-5	115	74	56	696	II				
105	ST9EP27	121	89	53	739	II	167	SX261-E-4	150	60	44	497	III				
106	SX261-E-4	113	99	54	865	II	168	SX261-D-5	122	94	37	672	III				
107	SK119	83	79	38	356	II	169	SX261-G-2	191	47	39	388	III				
108	SX261-D-5	120	77	59	770	II	170	SX261-D-5	126	63	48	379	III				

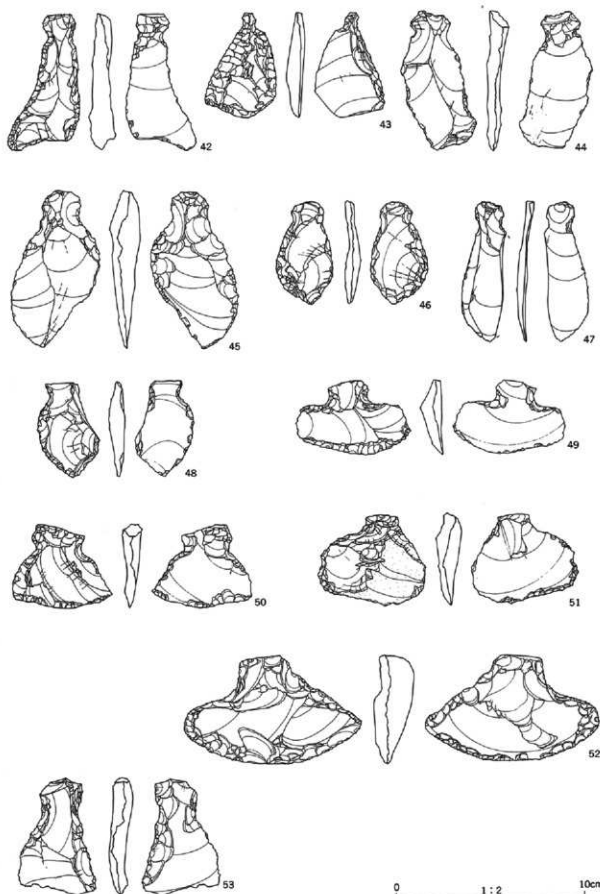


第79図 石器美濃回 石鏃・異形石器・尖頭器・石鏃



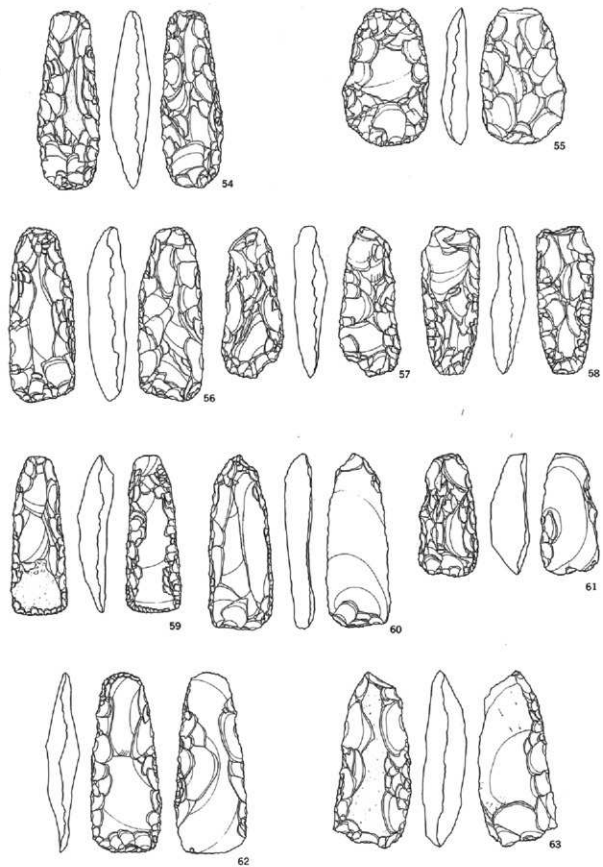
0 1:2 10cm

第80図 石器実測図 石鏃・石匙



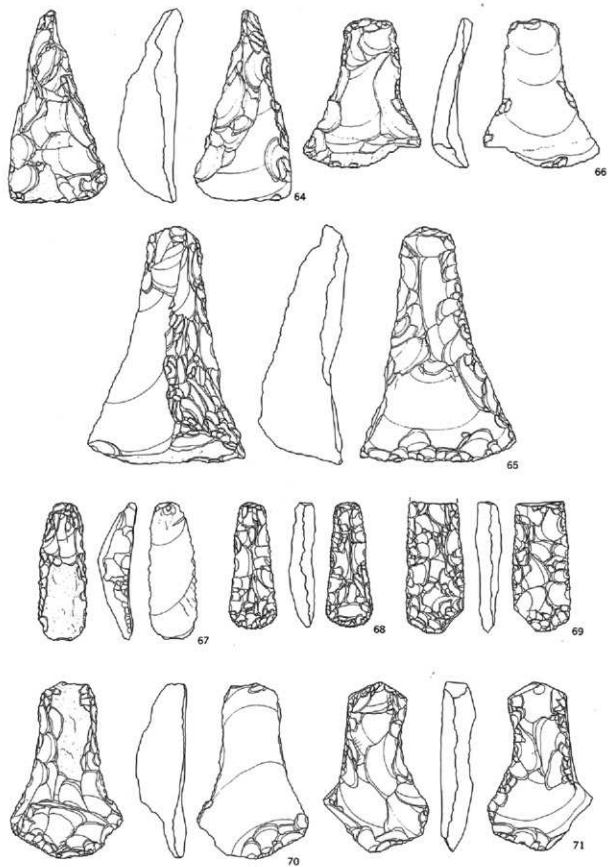
0 1:2 10cm

第81図 石器実測図 石匙



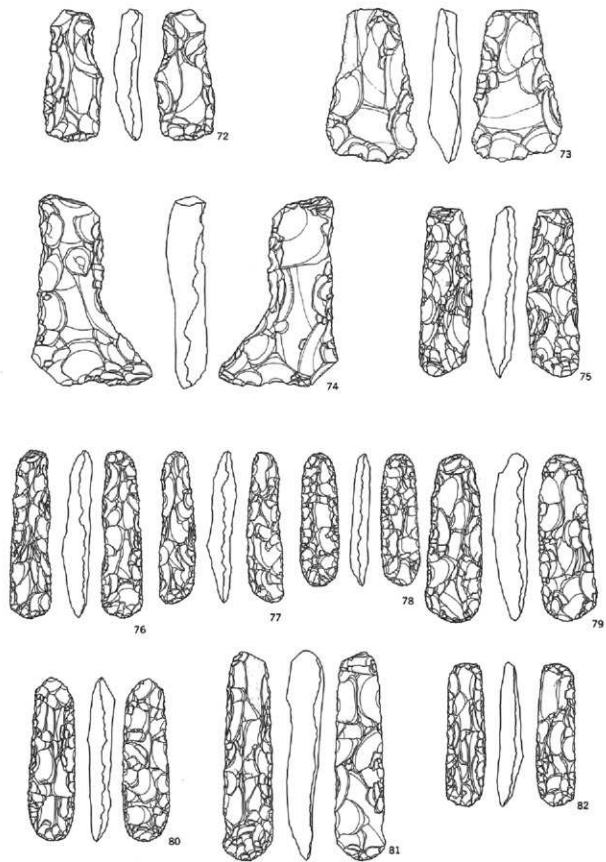
0 1:2 10cm

第82図 石器実測図 石筥(1)



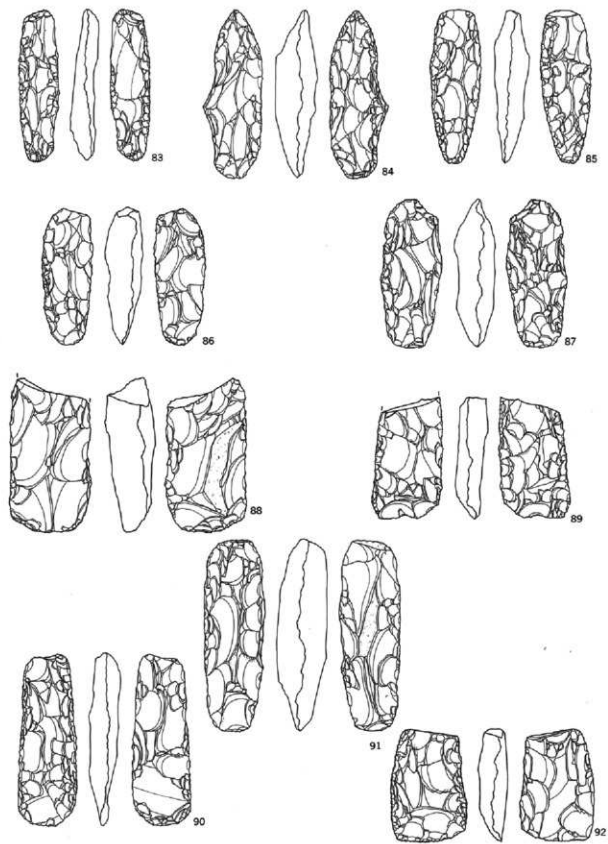
0 1:2 10cm

第83図 石器実測図 石筥(2)



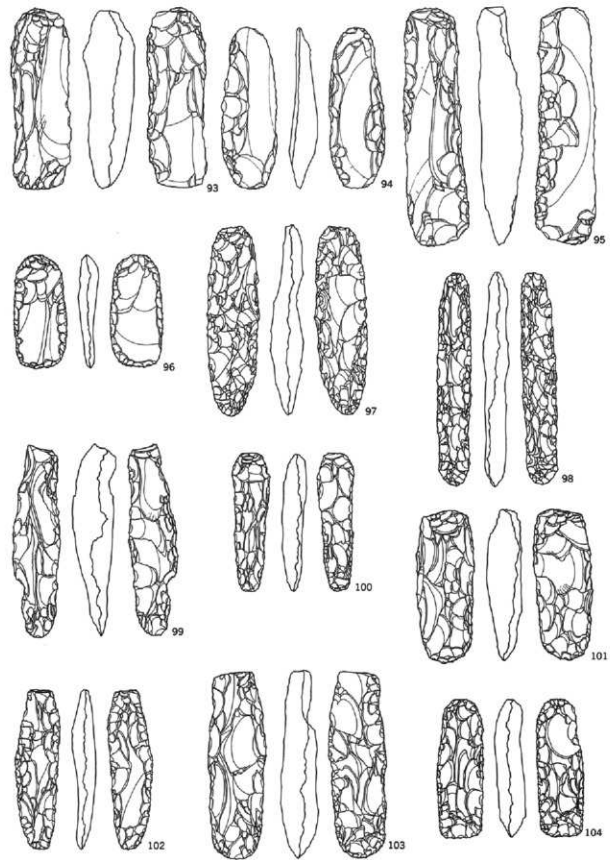
0 1:2 10cm

第84図 石器実測図 石筈(3)

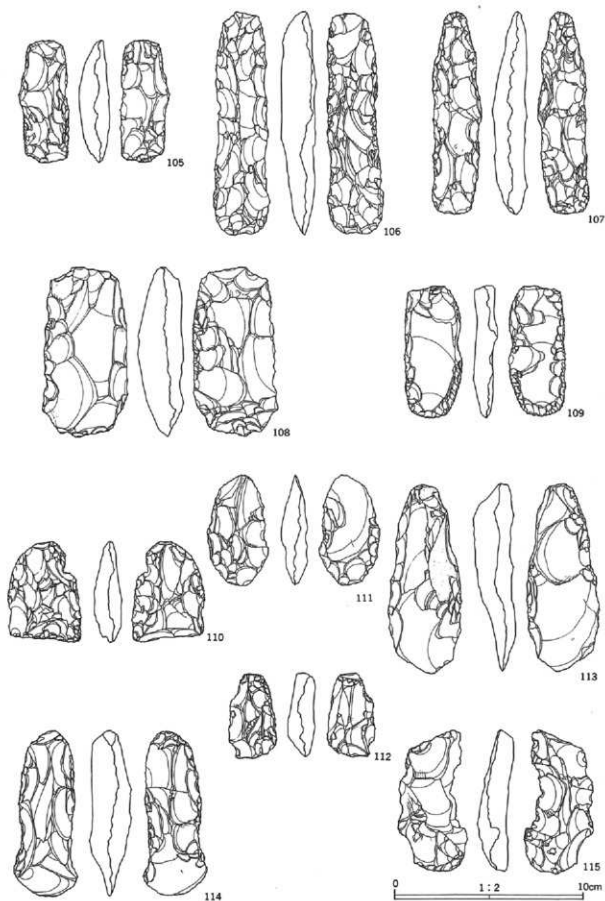


0 1:2 10cm

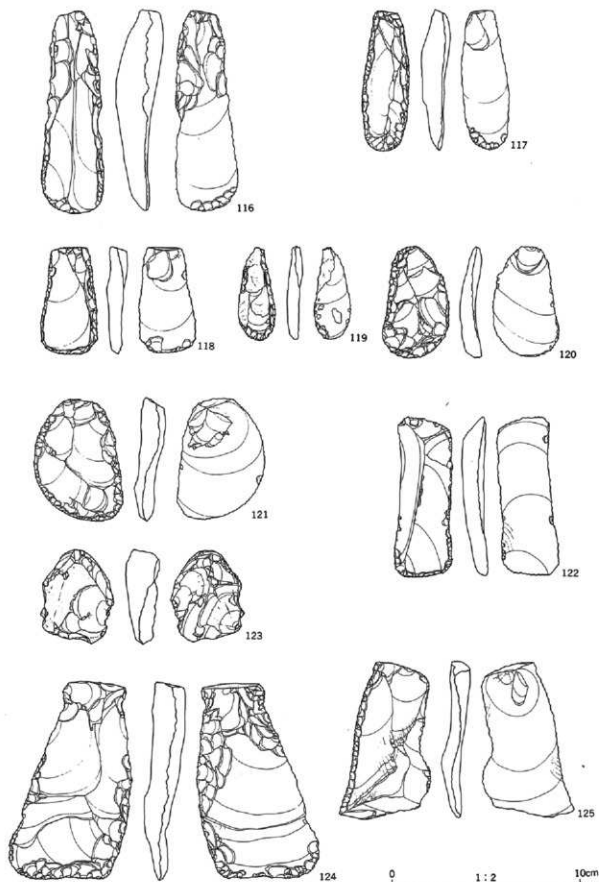
第85図 石器実測図 石筈(4)



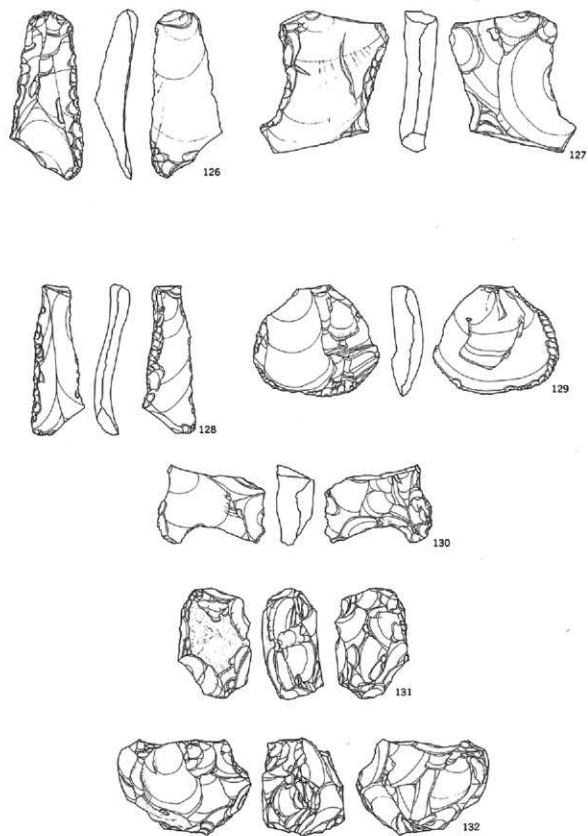
第86図 石器実測図 石距(5)



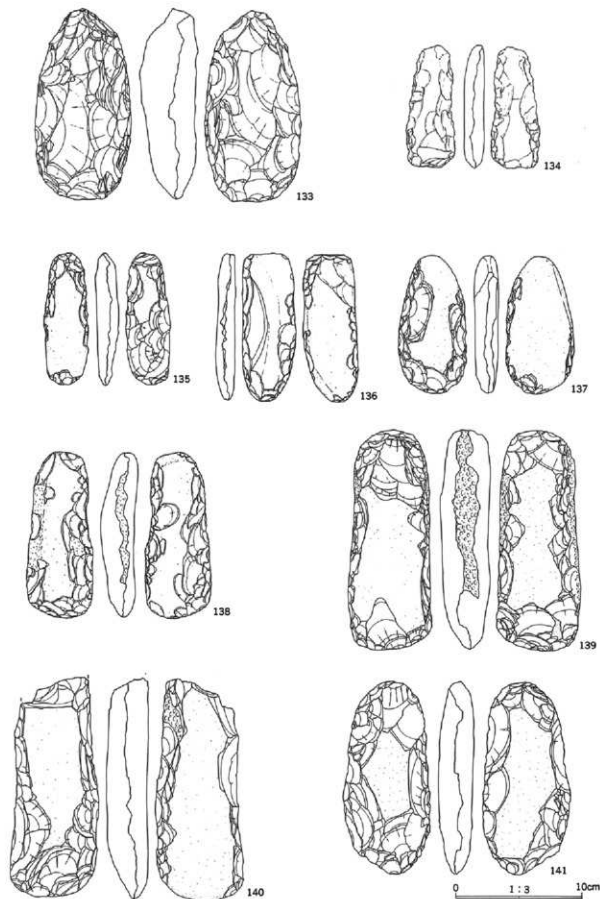
第87図 石器実測図 石距(6)



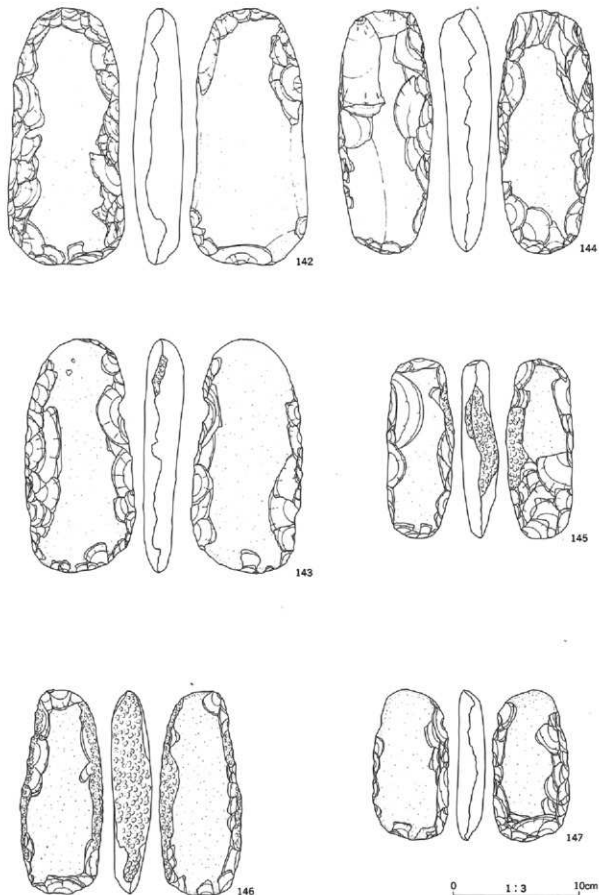
第88図 石器実測図 掻器・削器



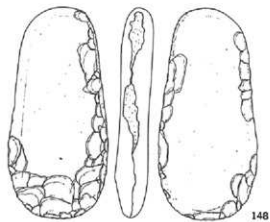
第89図 石器実測図 削器・二次調整ある刮片・石核



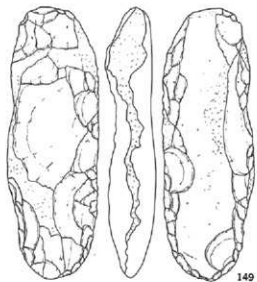
第90図 石器実測図 打製石斧(1)



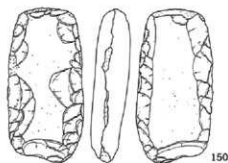
第91図 石器実測図 打製石斧(2)



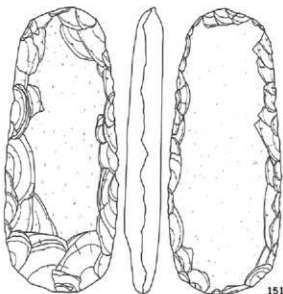
148



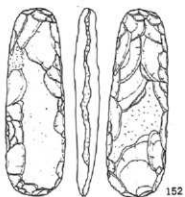
149



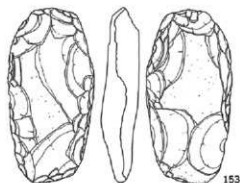
150



151



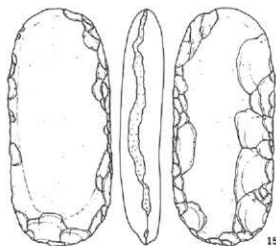
152



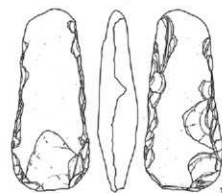
153

0 1:3 10cm

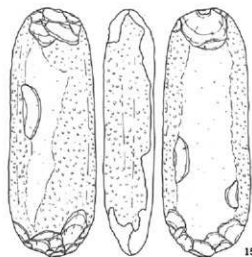
第92図 石器実測図 打製石斧(3)



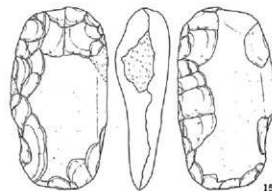
154



155



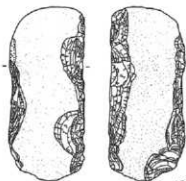
156



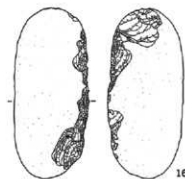
157



158



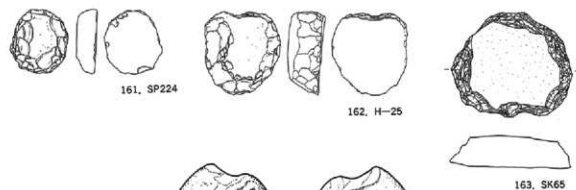
159



160

0 1:3 10cm

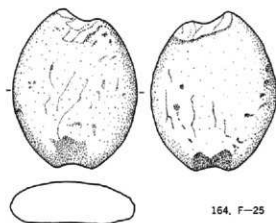
第93図 石器実測図 打製石斧・偏平礫石器



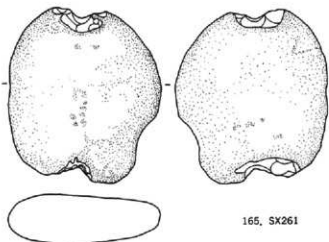
161. SP224

162. H-25

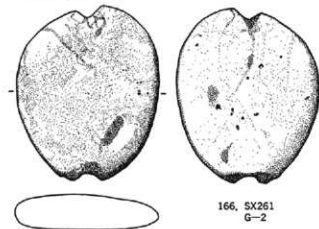
163. SK65



164. F-25



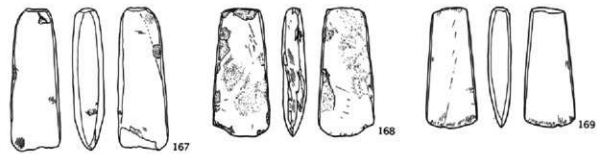
165. SX261



166. SX261
G-2

0 1:3 10cm

第94図 石器実測図 円盤状礫石器・石錘



167

168

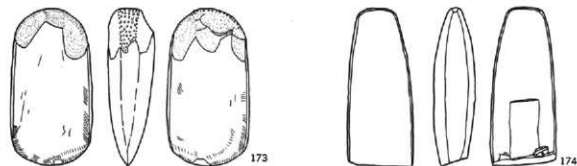
169



170

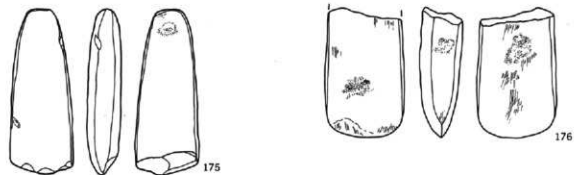
171

172



173

174

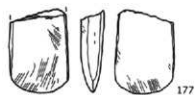


175

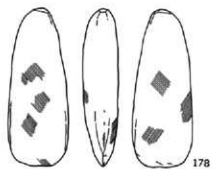
176

0 1:3 10cm

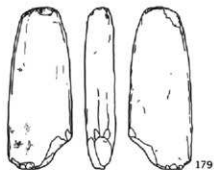
第95図 石器実測図 磨製石斧(1)



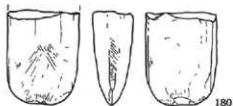
177



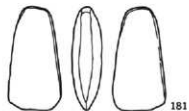
178



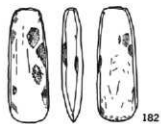
179



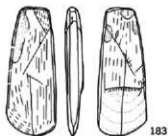
180



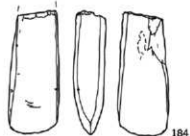
181



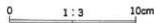
182



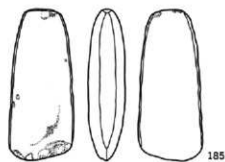
183



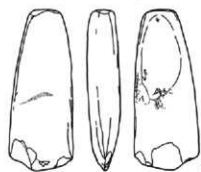
184



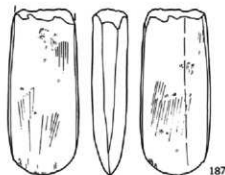
第96図 石器実測図 磨製石斧(2)



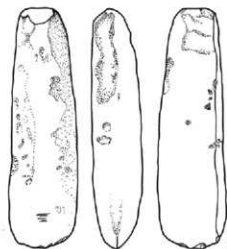
185



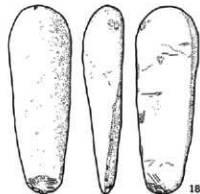
186



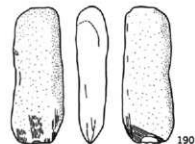
187



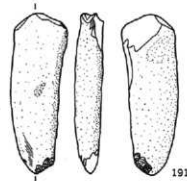
188



189



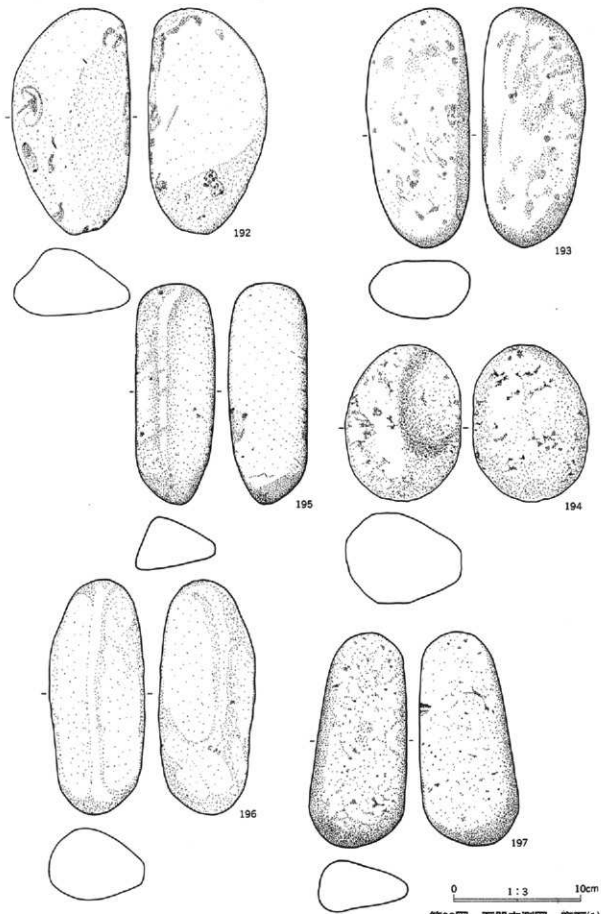
190



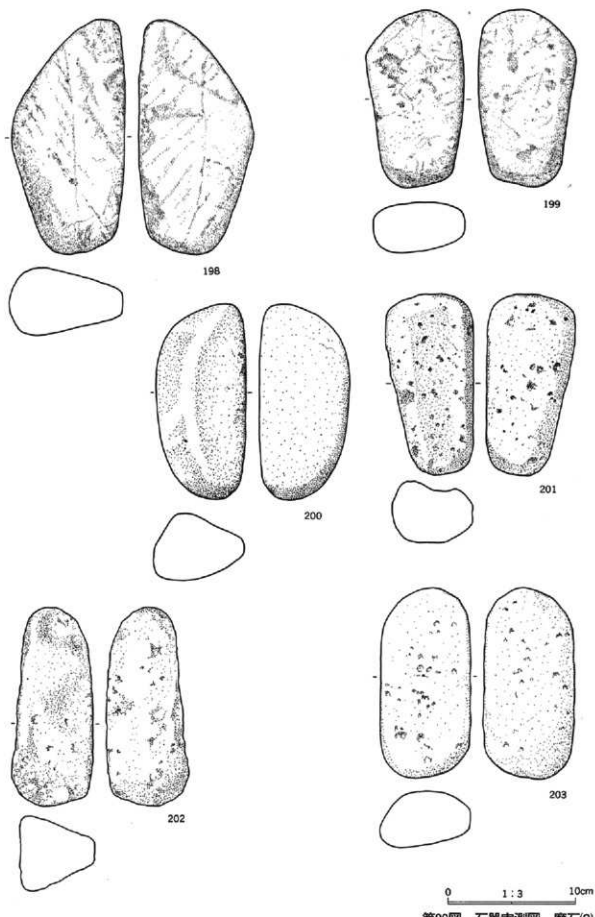
191



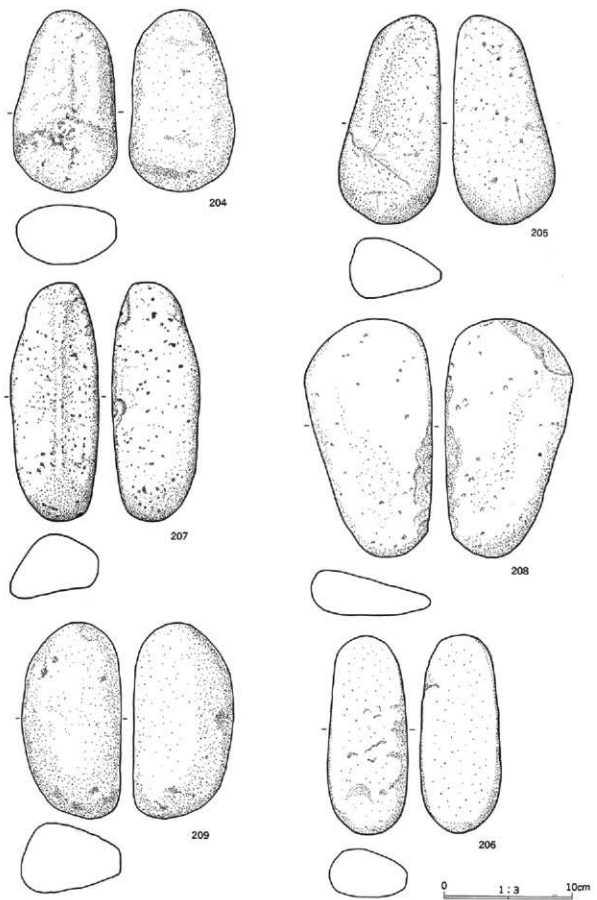
第97図 石器実測図 磨製石斧(3)



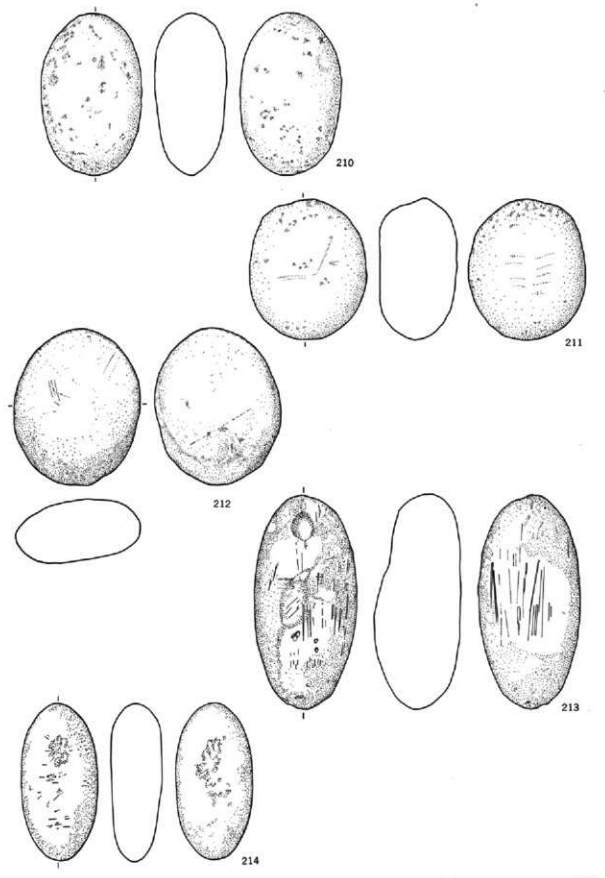
第98図 石器実測図 磨石(1)



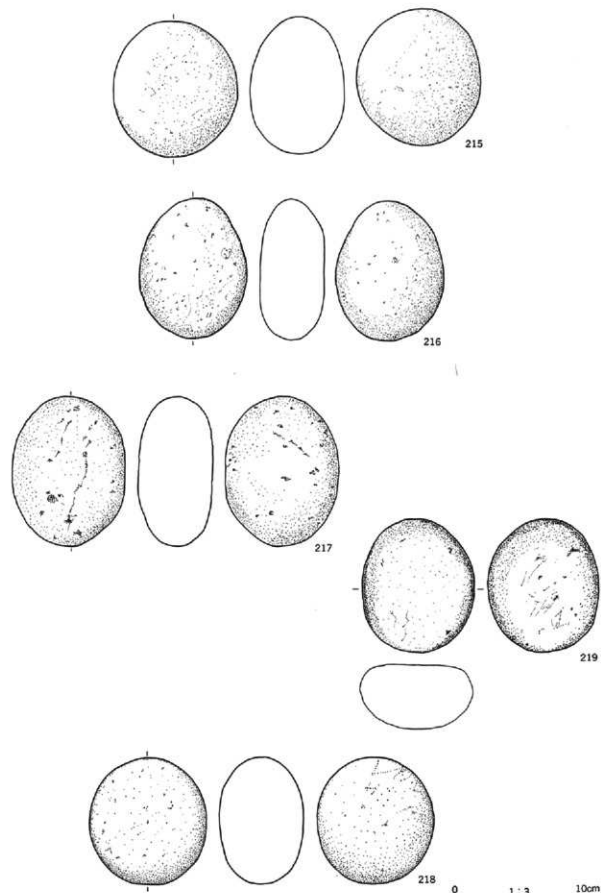
第99図 石器実測図 磨石(2)



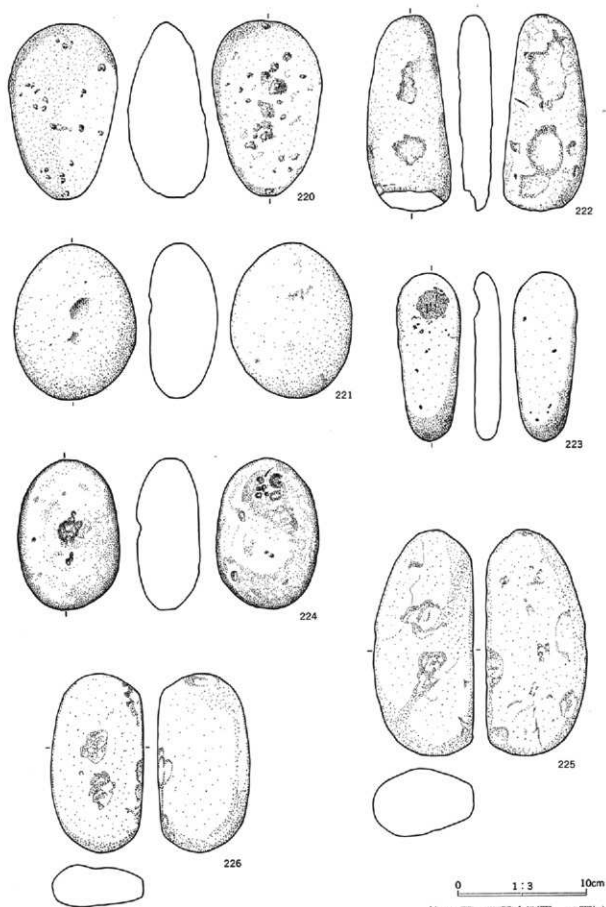
第100図 石器実測図 磨石(3)



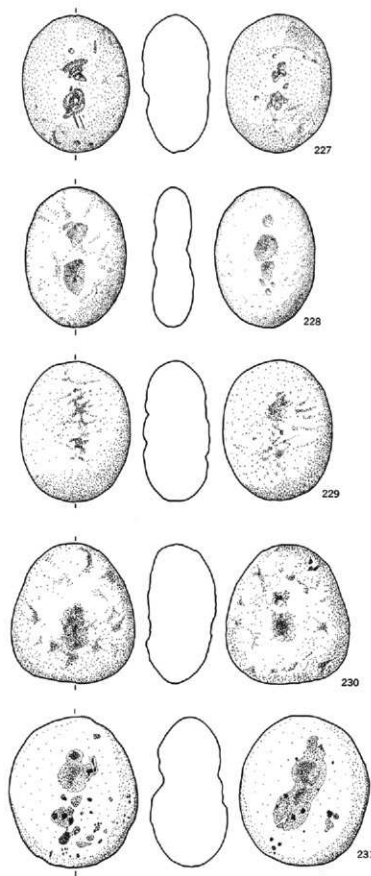
第101図 石器実測図 磨石(4)



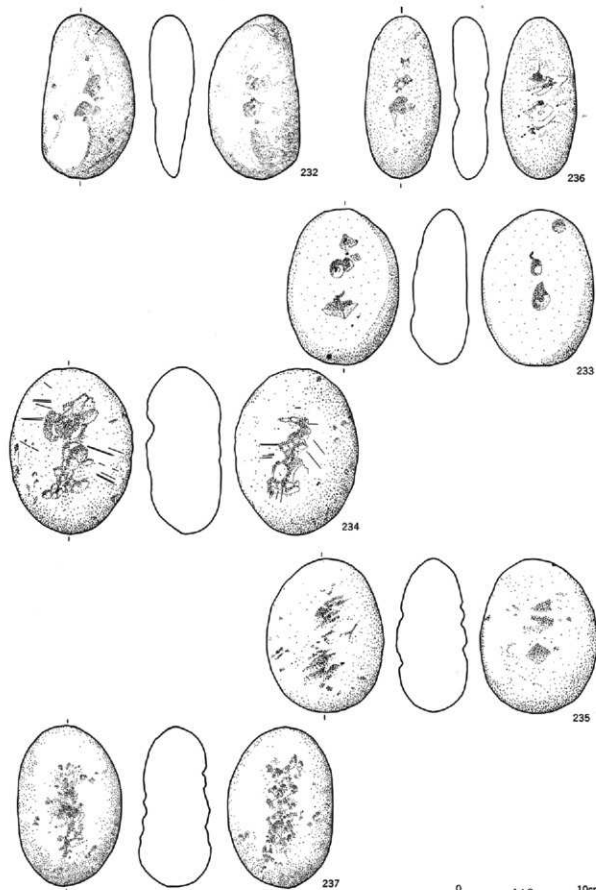
第102図 石器実測図 磨石(5)



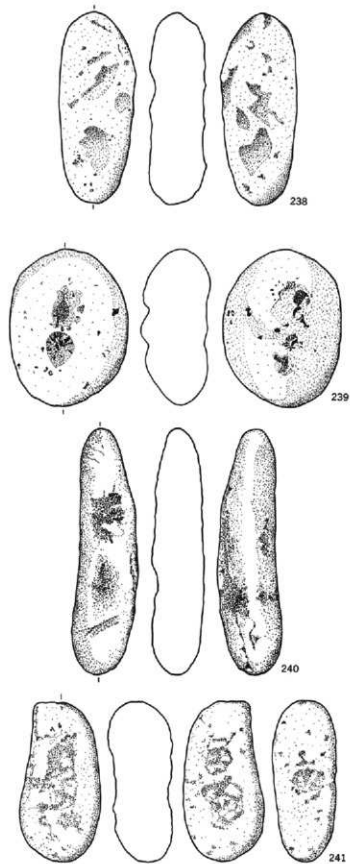
第103図 石器実測図 凹石(1)



第104図 石器実測図 凹石(2)

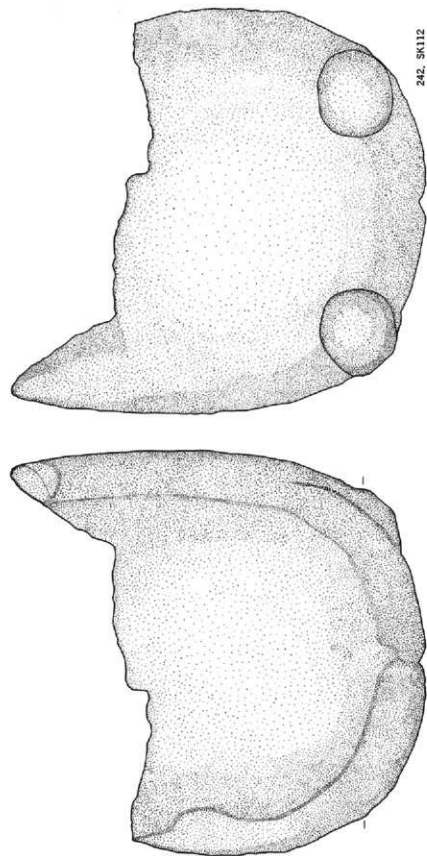


第105図 石器実測図 凹石(3)



0 1:3 10cm

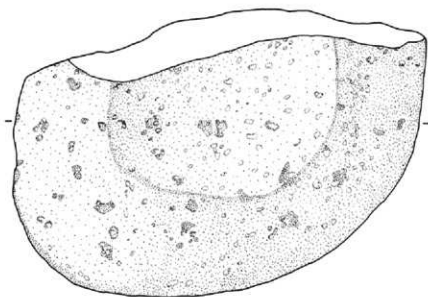
第106図 石器実測図 凹石(4)



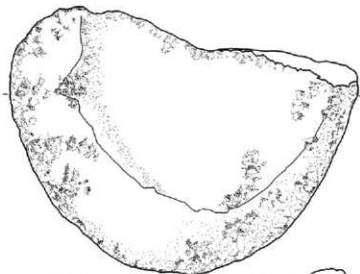
242. SK112

0 1:3 10cm

第107図 石器実測図 石皿(1)



243, SX261・B-6

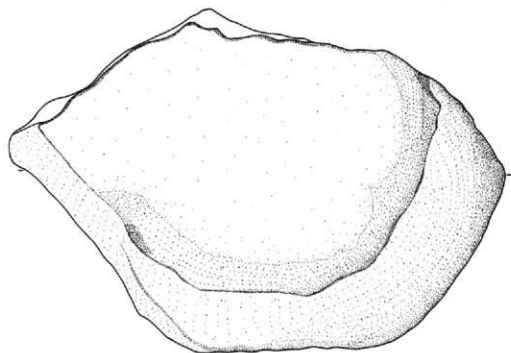


244, ST9

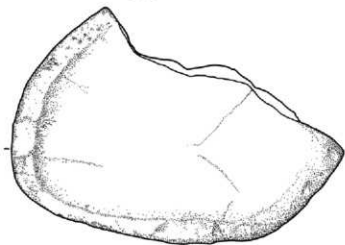
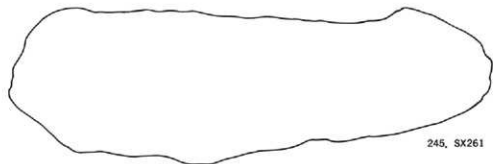


0 1:3 10cm

第108図 石器実測図 石皿(2)



245, SX261

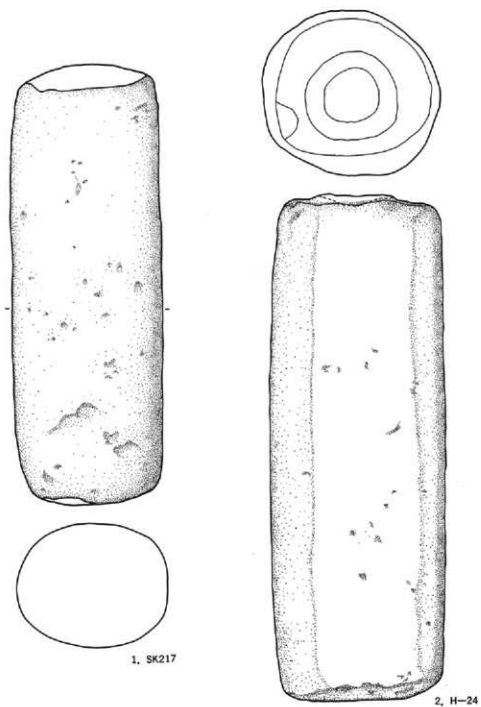


246, SX261・G-2



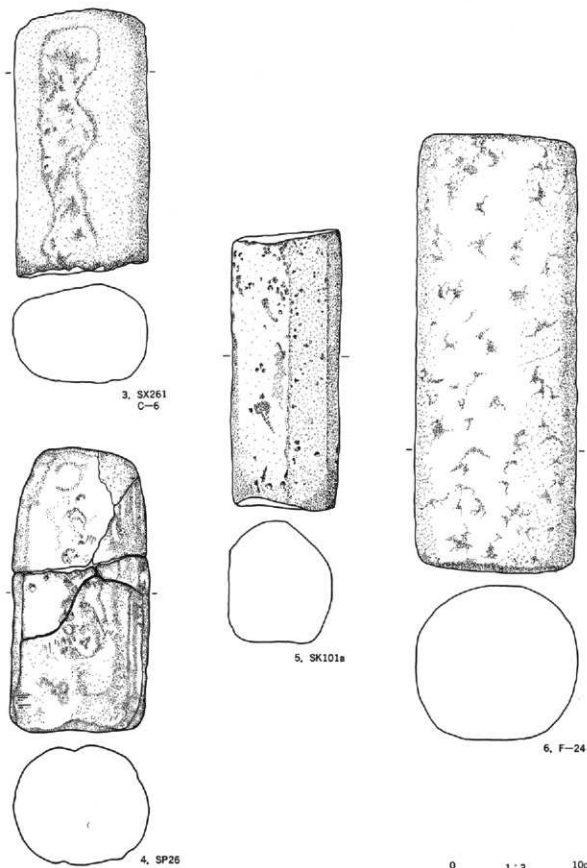
0 1:3 10cm

第109図 石器実測図 石皿(3)



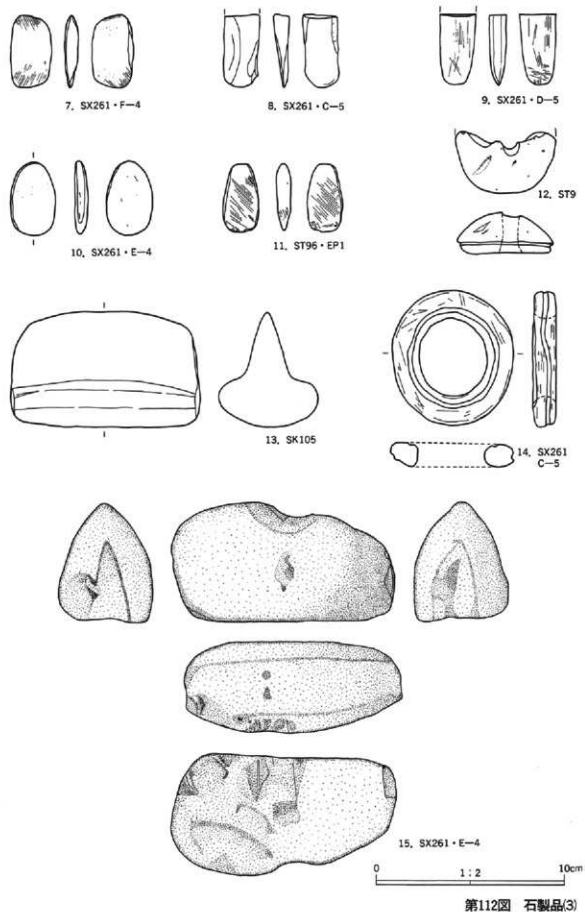
0 1:3 10cm

第110図 石製品(1)



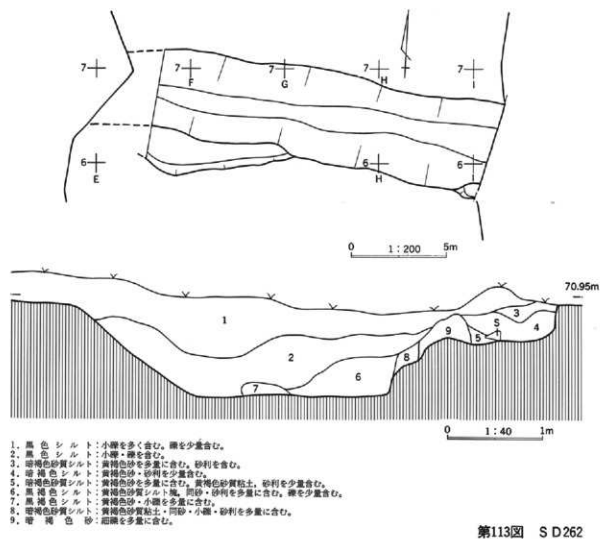
0 1:3 10cm

第111図 石製品(2)



7 中・近世の遺構と遺物

西ノ前遺跡のある舌状段丘部分は地元の人々から「ウチヤシキ」と呼びならわされていた土地であり、調査区内に中・近世の屋敷跡が存在することは調査開始前から予想されていた。しかし、この時期の遺構が縄文時代の遺構集中区域の中に重なって存在すること、堆積土の性質に差がないこと、遺構内出土遺物がSX56(第3図I・J-19区)から得られた陶器破片1点と極端に少ないことなどから、当該期の遺構については構造的側面から類推せざるを得なかった。なお遺物は他に磁器破片1点と北宋銭(熙寧元寶)が1点出土したにとどまる。SD262(第113図)はE~I-6~8区内で幅約5m、長さ18mにわたって検出された。この堀跡は周囲より一段低い水田面として現況でもその存在を伺い知ることができ、舌状段丘基部に完全に横断する。確認面からの深さは1~1.5mを測り西に向かって深くなる。SD32(第3図)はF~K-13~20区内で検出された。F~K-20区内では東西方向に直進してF-20区内でほぼ直角に曲がり約40m直進して所在不明となる。幅約1m、検出面からの深さは50cm前後となる。SD262と直行した位置関係にあり、重複したすべての遺構よりも新しい。



VI 調査のまとめ

一般国道13号尾花沢新庄道路改築工事にともなう平成4年度の西ノ前遺跡の緊急発掘調査の結果を要約するときのようになる。

- 1) 西ノ前遺跡は山形県最上郡舟形町大字舟形字西ノ前に所在し、小国川左岸に舌状に張り出した標高約72mの河岸段丘上に立地する。遺跡の面積は約10,500m²で、今回の発掘調査はその西半部分約4,450m²を対象として実施した。その結果、縄文時代中期前葉から中葉にかけての集落跡と生活に不用となった道具を廃棄したと考えられる沢状の落ち込み(SX261)の存在が明らかになった。出土遺物はSX261を中心に、縄文土器を主体として約900種が出土した。
- 2) 検出された遺構は竪穴住居跡9棟、プラスチック土壌60基を含む200基以上の土壌、無数のピット群などである。これらは調査区北の集落域に密集して検出された。これらの分布にはある程度の規格性が看取されるが先に県教委が調査を実施した村山市西海湖遺跡(大木8b式主体)での検出例ほど顕著ではない。各遺構からは大木7b~8b式の土器が出土し、遺構毎にある程度の時期的なまとまりがある。なお舌状段丘縁辺は集落廃絶後にかかりの侵食を受け、特に段丘西側付け根付近では住居域が崩壊してしまった可能性が高い。
- 3) 竪穴住居跡は長辺10m前後、短辺2.5~3mの長方形プランとなるものが多く検出された。特にST9住居跡群、ST96は長軸方向を集落の中心にとった求心性の認められる配置となっている。この配置が存続するのは大木8a式の段階までであり、大木8b式期の所産となるST34はその規制をまったく受けけない位置に構築されている。住居跡はSX261の南でも2棟が検出された。これらはその出土遺物から北の集落域と重なる大木8a式期に比定されるものであり、このことは集落の範囲が調査区外西方の段丘面に広がる可能性を示唆するものであった。なお北の集落域の各住居跡は柱穴の重複が著しく主柱穴の組み合わせもほとんど捉えることができない状態であった。これは1棟の住居がかなり長期にわたって使用されたことを物語るが、ST9dでは柱穴の状況は同様でも炉等の屋内施設が検出されず、あるいは建物としての機能が他の住居とは異なっているとも考えられる。
- 4) プラスチック土壌は口径1~1.5m、底径1.4~1.6m、確認面からの深さ1.5~1.8mのものが多く検出された。深さ2mを越える大形の土壌も数基検出された。これらはすべてSX261以北の集落のほぼ全域に分布するが、縁辺に近づくほど分布が密になる傾向がみられ、一部は住居域にもはいるこんである。特に調査区北端付け近への集落が顕著であり土壌同士の重複もしばしば見受けられた。これらのなかで遺構間の新旧関係が把握できたのは、107~108、112~109、101b~101a~101c(旧→新)の3例である。なお108と112も重複するが新旧関係は判然としない。整理段階では遺構間の出土土器の接合例はなかった。

- 5) SX261出土の遺物は層位的なまとまりがなく、各時期のものが混在する状況がうかがえた。トレンチ調査の結果では最下層から大木8a式の土器が出土した。このことは、この落ち込みへの土砂の堆積が大木8a式期から急速になり大木8b式期にはほとんど埋没した状況を伝えるものである。
- 6) 縄文土器はSX261では大木7a式を最古として大木8b式にいたる時期のものが出土した。その主体となるのは大木7b~8a式にかけてである。集落では各遺構から大木7b~8b式期のものが出土したが、大木8a式期の土器を出土した遺構が圧倒的に多かった。このように出土した土器の時期毎の出現比率には集落とSX261との間に若干の相違がある。これは未調査区域での集落のありかたが影響しているものと思われる。このほかSX261からは搬入品とみられる北陸系の土器が数点出土しており注目される。
- 7) 石器は狩猟具である石鏃、尖頭器が非常に少なく、磨石、凹石、石皿などの植物質食糧の加工に関連するとみられる石器が大量に出土するという当該期の拠点集落の出土傾向に沿ったものであった。また本遺跡からは打製石斧、燧石石器などの燧石材の打製石器が多く出土した。これらは円筒土器文化にともなうものとして北東北での報告事例が多い石器である。山形県内でも各遺跡から若干ずつの報告例があるものの、数量的にまとまって出土したのは今回が初めてであろう。
- 8) 土偶は数量的にまとまって出土した。ほとんどが破損した状態での出土である。完形に復元された大形のものでは高さ45cmを測るが、推定復元高で15~25cmクラスとなるものももっとも多い。形態は一部の板状となるものを除けば、大ききにかかわらず基本形は同じである。文様構成は変化に富むが、沈文であるいは結節沈文主体に施文され、脚部前後の横位集合沈線や背中の凹線など規格性をもっている。これは最上町水木田遺跡、尾花沢市原の内A遺跡の出土例にも共通してみられる特徴である。所属時期は大木7b~8a式期の範囲と考えられるが、今後より詳細な分析が必要であろう。

参考文献

- | | | |
|-----------------|---------------------------|----------------------------|
| 佐々木洋治・佐藤正俊・横戸昭二 | 1979年「西ノ前遺跡発掘調査報告書」 | 山形県埋蔵文化財調査報告書第16集 |
| 佐藤正一 | 1981年「原の内A遺跡発掘調査報告書」 | 山形県埋蔵文化財調査報告書第36集 |
| 長橋 至・中島 寛 | 1981年「隠い川A遺跡発掘調査報告書」 | 山形県埋蔵文化財調査報告書第37集 |
| 阿部明彦 | 1982年「第4章 縄文時代 中期」 | 『村山市史 別巻1 原跡・古代編』p.272~388 |
| 佐藤正俊・長橋 至 | 1983年「原の内A遺跡第2次発掘調査報告書」 | 山形県埋蔵文化財調査報告書第71集 |
| 阿部明彦・佐々木洋治・佐藤正俊 | 1984年「水木田遺跡発掘調査報告書」 | 山形県埋蔵文化財調査報告書第75集 |
| 山形県教育委員会 | 1987年「分布調査報告書(14)」 | 山形県埋蔵文化財調査報告書第110集 |
| 渋谷孝雄・黒坂龍人 | 1988年「改道遺跡第3・4次緊急発掘調査報告書」 | 山形県埋蔵文化財調査報告書第120集 |
| 安部 実・月山隆弘 | 1988年「原の内A遺跡第3次発掘調査報告書」 | 山形県埋蔵文化財調査報告書第132集 |
| 山形県教育委員会 | 1989年「分布調査報告書(19)」 | 山形県埋蔵文化財調査報告書第171集 |
| 黒坂龍人 | 1992年「山形県村山市西海湖遺跡」 | 『日本考古学年報 43』 p.423~427 |
| 佐々木洋治・黒坂龍人 | 1993年「山形県西ノ前遺跡出土の大形土器」 | 『考古学雑誌』79巻1号 p.65~88 |

報告書抄録

ふりがな	にしのまえいせきはつくつちょうさほうこくしょ							
書名	西ノ前遺跡発掘調査報告書							
副書名								
巻次								
シリーズ名	山形県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第1集							
編集著者	黒坂雅人							
編集機関	財団法人 山形県埋蔵文化財センター							
所在地	〒999-31 山形県上山市弁天二丁目15番1号 TEL. 0236-72-5301							
発行月日	西暦 1994年3月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
西ノ前	山形県最上郡舟形町番形字西ノ前	6363	昭和61年度登録	38度41分20秒	140度18分55秒	19920608～19921006	4,450	一般国道13号尾花沢新庄道路改築工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
西ノ前	集落跡	縄文時代	竪穴住居 9棟 プラスチック状土壌 60基	縄文土器 石器 土偶 石棒	縄文時代中期初頭から中葉にかけての集落跡。鹿藪場所に使われた沢状の落ち込みから多量の縄文土器、土偶を出土。			

図

版



遺跡近景 (北から)



調査前全景 (南から)



前期調査区トレンチ調査状況 (北から)



後期調査区トレンチ調査状況 (南から)



S X 261・C-5 区 遺物出土状況 (西から)



S X 261・C-6 区 遺物出土状況 (南から)

図版 4



S X 261・F-2区 遺物出土状況 (南から)



S X 261・R P 275出土状況 (東から)

図版 5



S X 261・R P 181・182出土状況 (東から)



S X 261・R P 193出土状況 (西から)

図版 6



S X 261・E区トレンチ土層断面 (南から)



S X 261・E区トレンチ土層断面 (北から)

図版 7



S X 261全景 (西から)



S X 261全景 (東から)



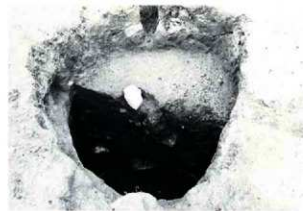
ST 1 (北から)



ST 260 (東から)



SK 107 (東から)



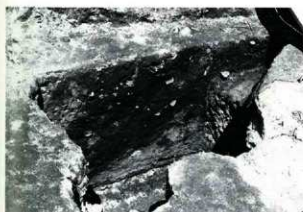
SK 107土層断面 (南から)



SK 101 (南から)



SK 116土層断面 (南西から)



SK 8土層断面 (南から)



SK 65土層断面 (南東から)



SK 240作業状況 (東から)



I-24区 石棒出土状況 (南東から)

図版10



SK 52遺物出土状況 (東から)



SK 169遺物出土状況 (南から)

図版11



ST 9住居跡群全景 (北から)



ST 9 (西から)

図版12

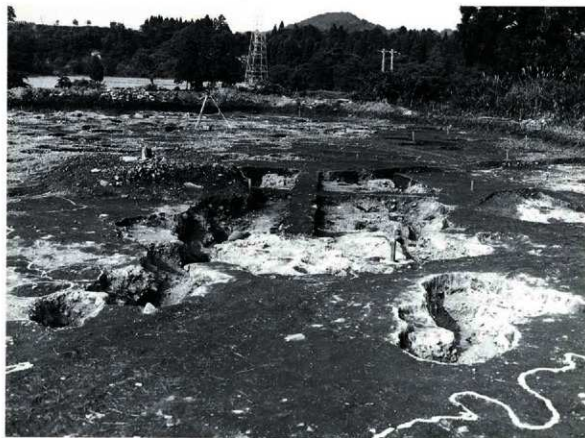


ST9B (東から)



ST9BEL15・16 (東から)

図版13



ST34 (南から)



ST34 (北から)

図版14



S T 96 (北から)



S T 96 (南から)

図版15



S D 262 (南西から)



S D 262土層断面 (西から)



S D32 (南から)



調査区全景 (南から)



169



107



176



51



縄文土器 2 (1/3)



縄文土器 3 (1/2)



101

縄文土器 4 (1/3)



133

縄文土器 5 (1/3)



縄文土器 6 (1/3)



縄文土器 7 (1/3)



縄文土器 8 (1/3)



縄文土器 9 (1/3)



縄文土器10 (1/3)



縄文土器11 (1/4)



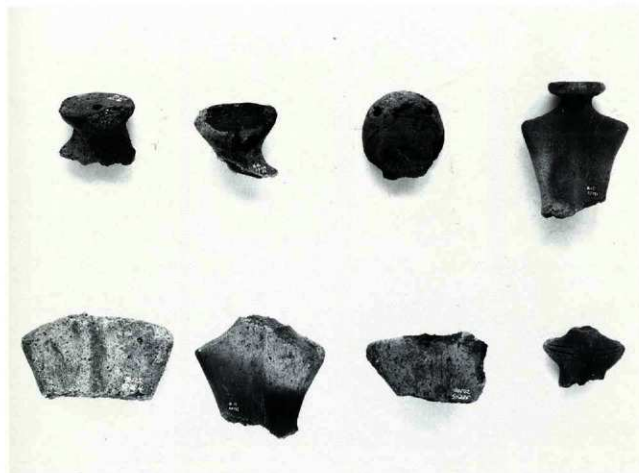
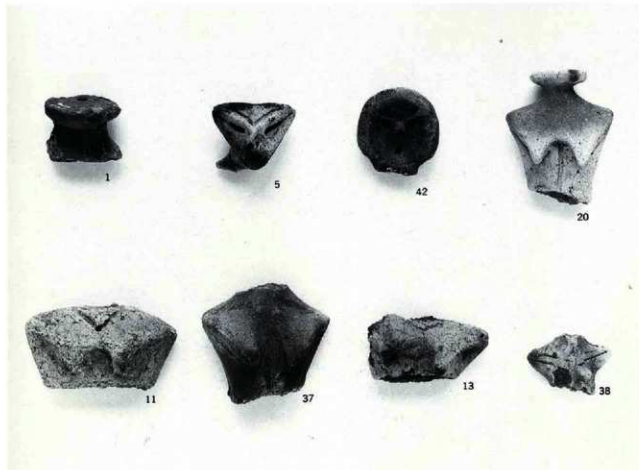
縄文土器12 (1/2)



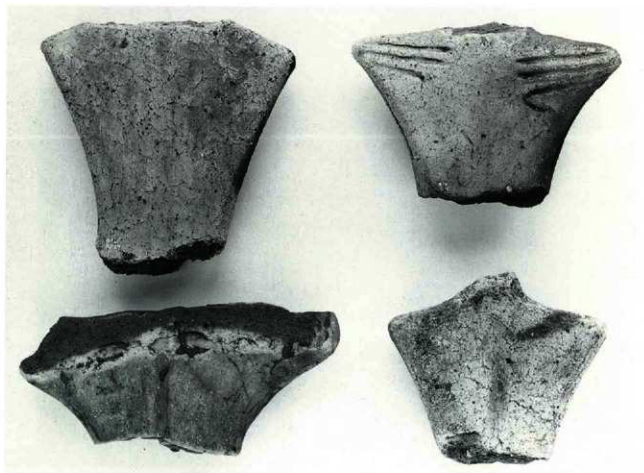
縄文土器13 (1/3)



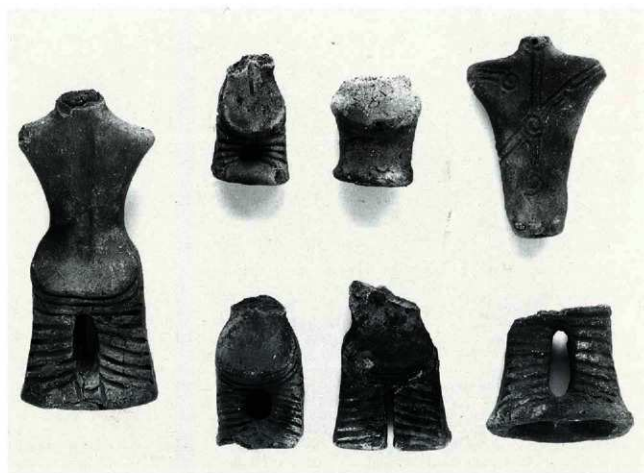
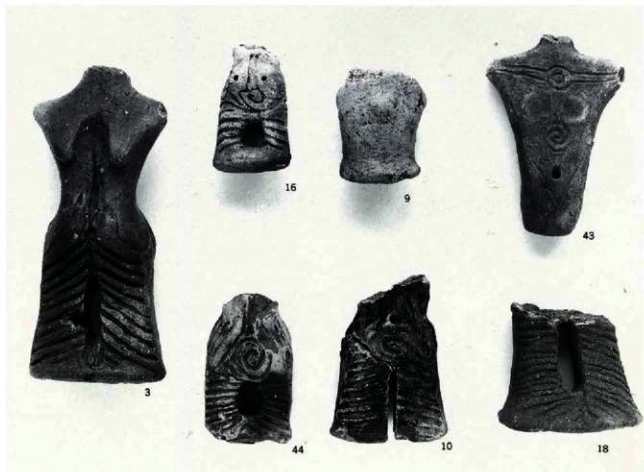
縄文土器14 (1/3)



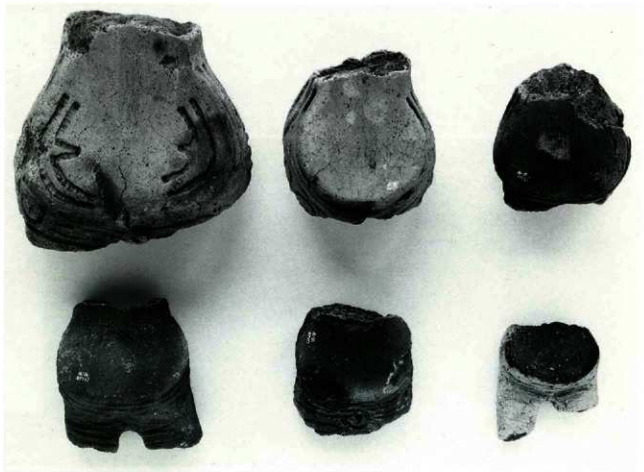
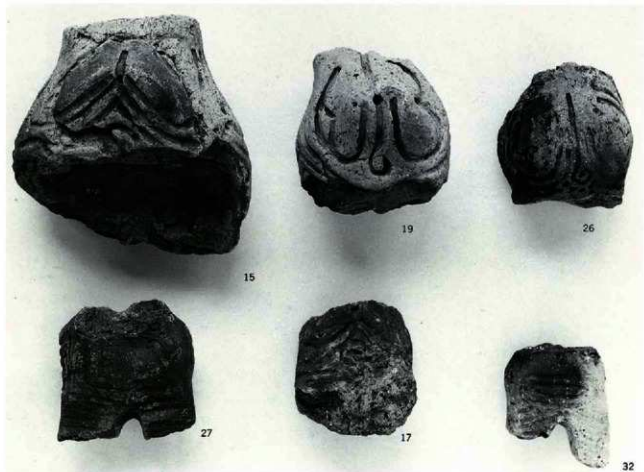
土偶1 (1/2)



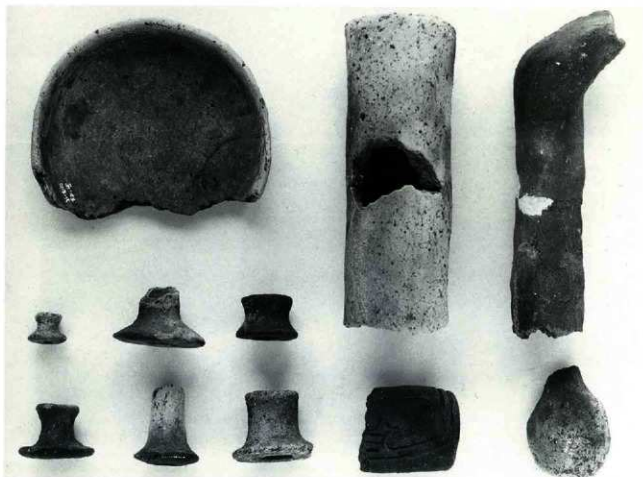
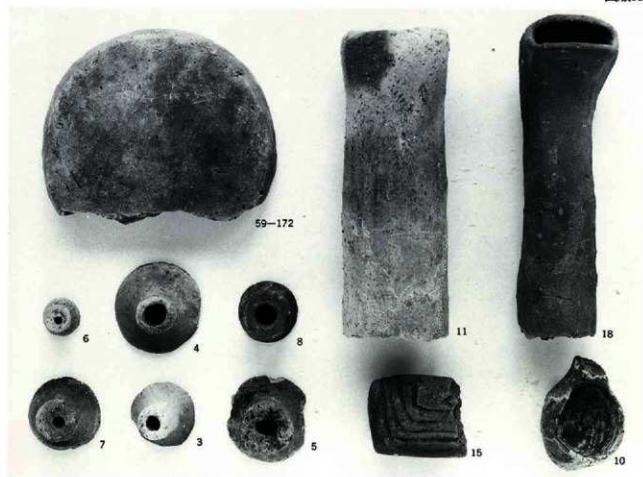
土偶2 (1/2)



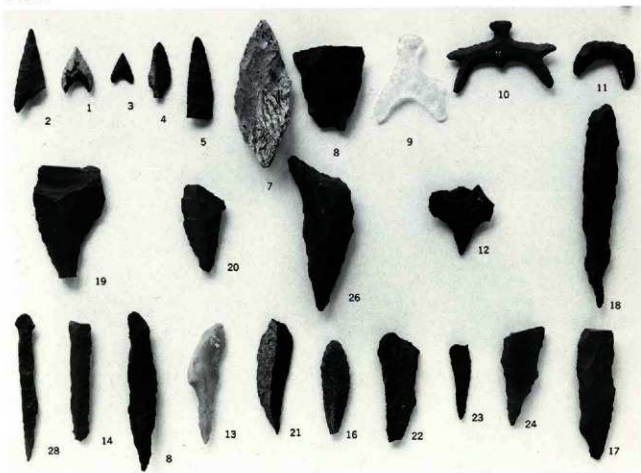
土偶3 (1/2)



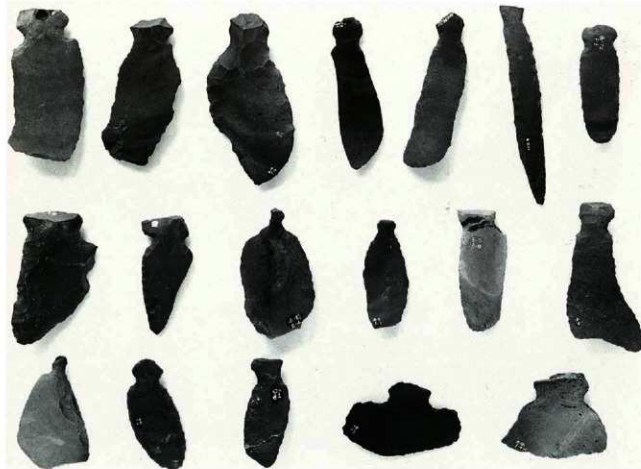
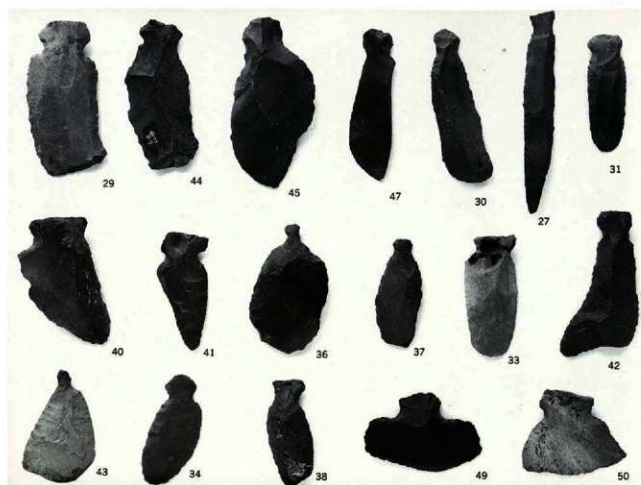
土偶 4 (1/2)



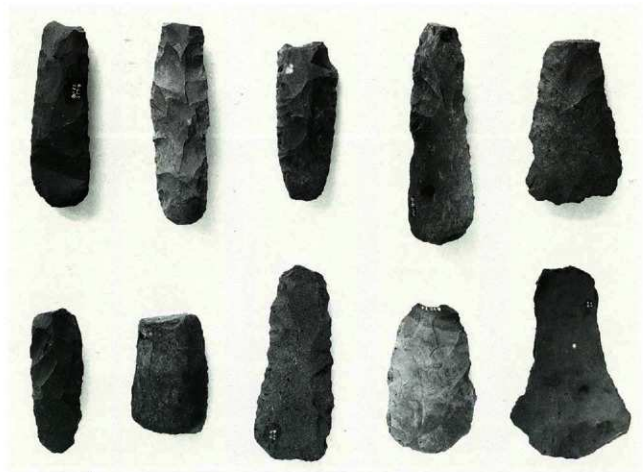
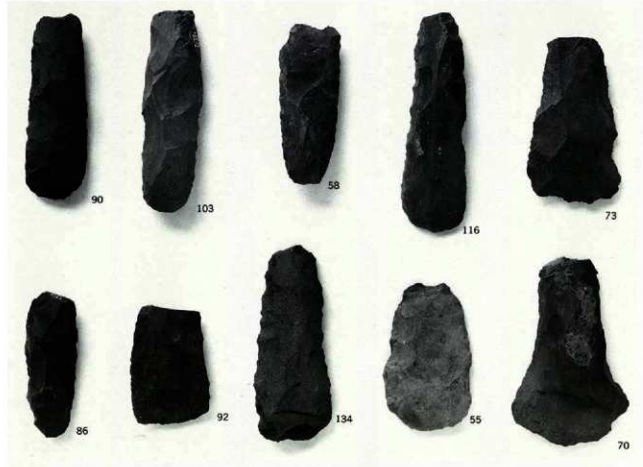
土製品 (1/2)



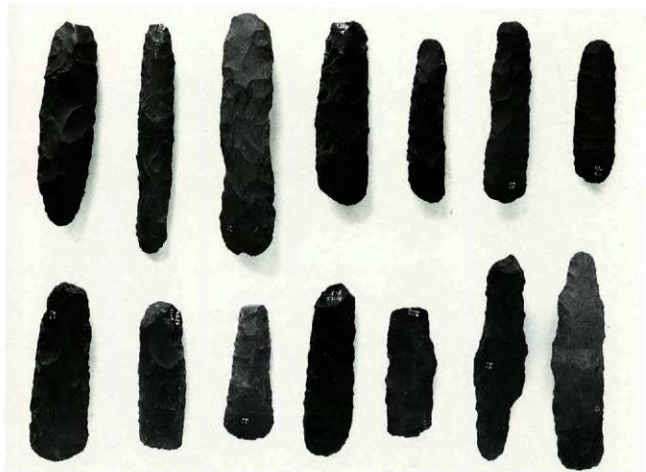
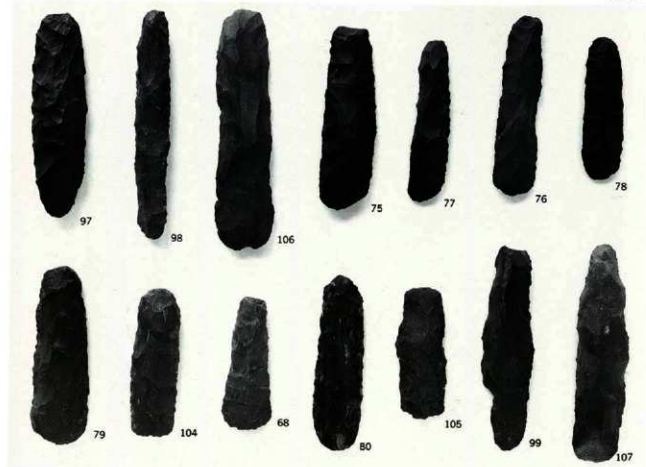
石鏃・石槍・石鏃 (1/2)



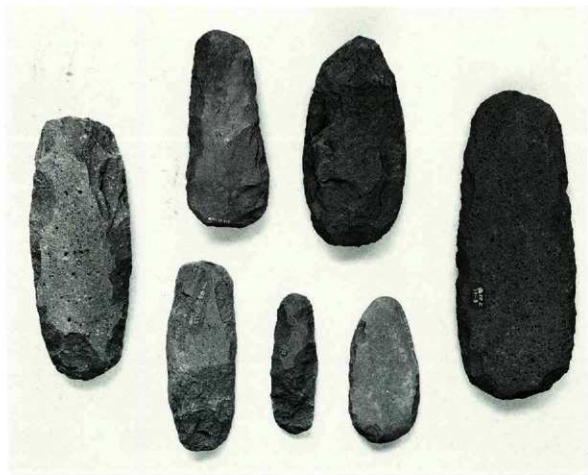
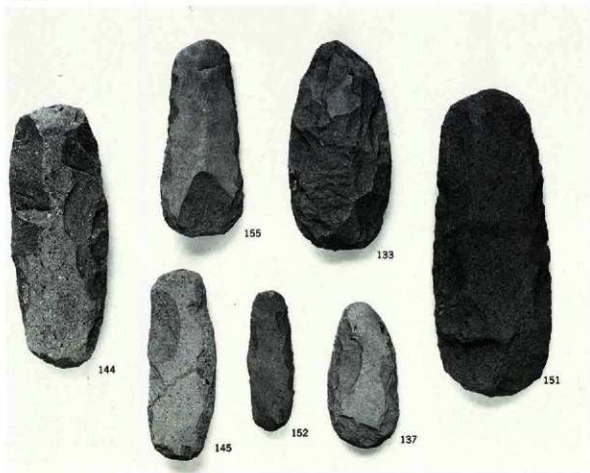
石鏃 (1/2)



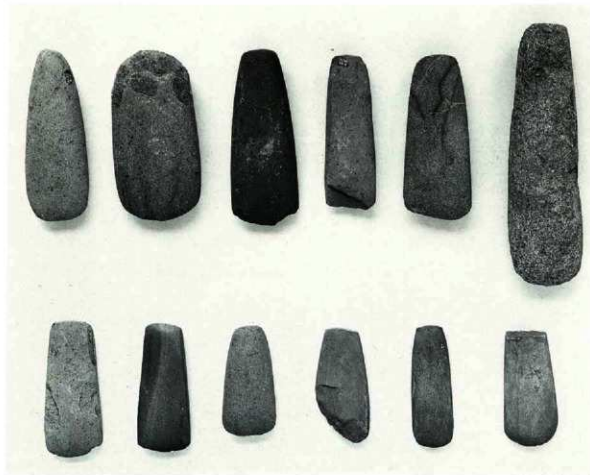
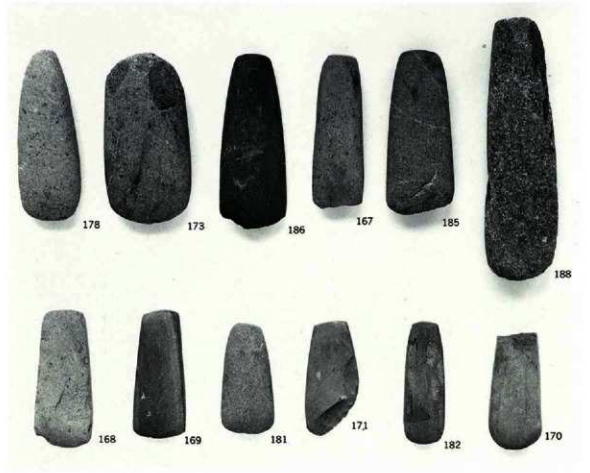
石箭·箭头 (1/2)



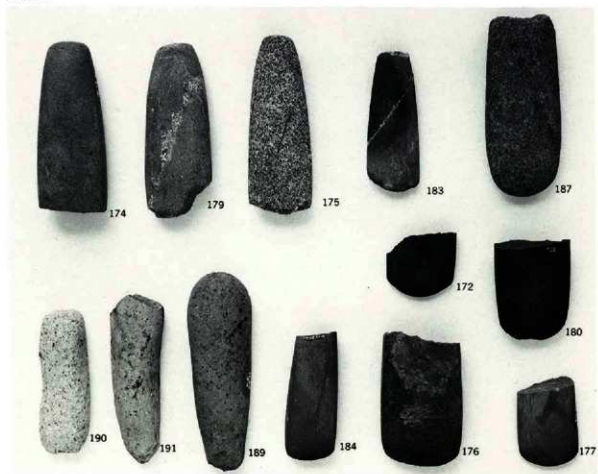
石箭 (1/2)



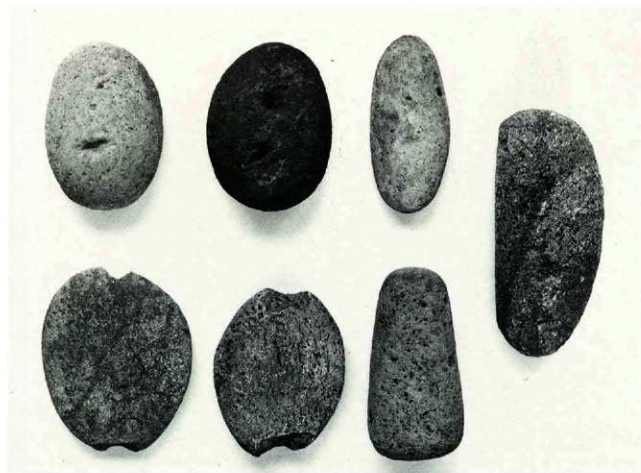
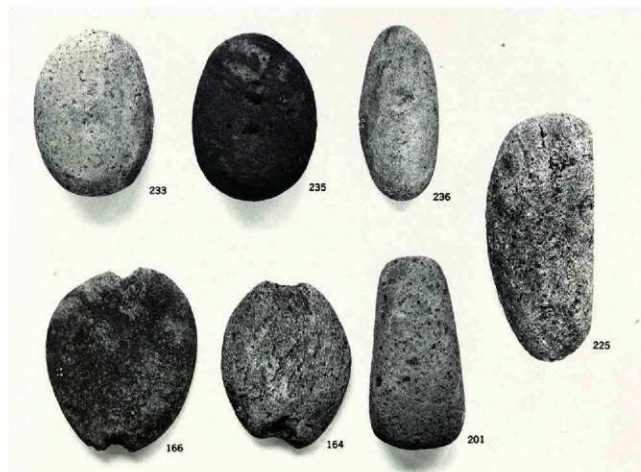
打製石斧 (1/3)



磨製石斧 1 (1/3)

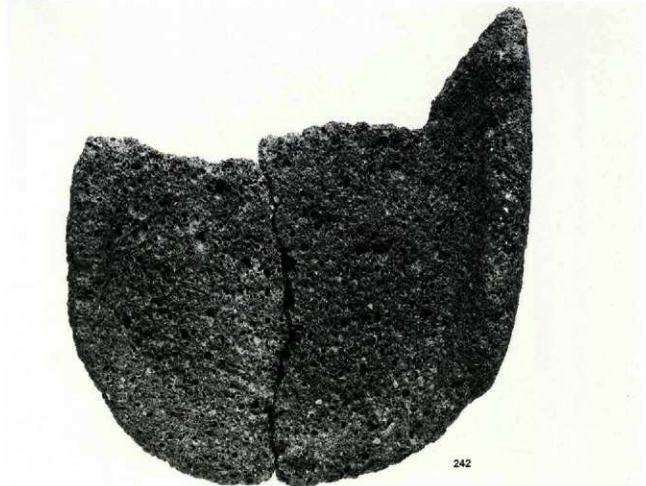


磨製石斧 2 (1/3)



磨石・凹石・石鏟 (1/3)

图版44

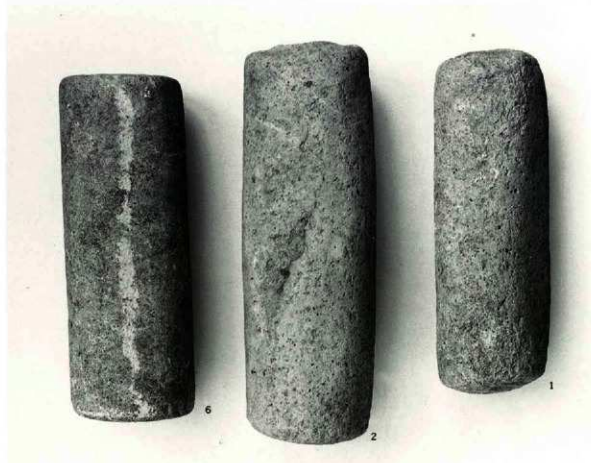


242

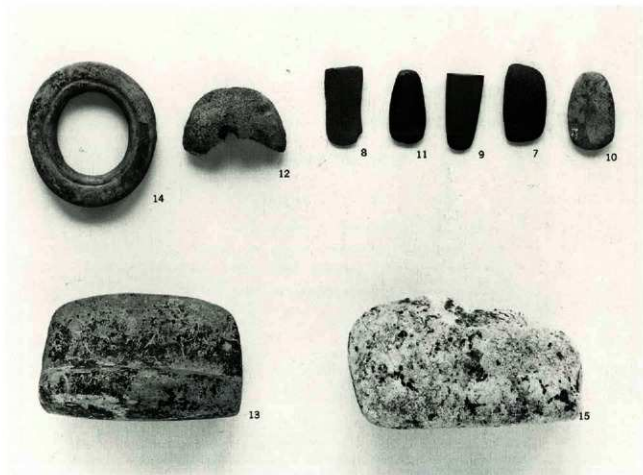


石皿 (幅32cm)

图版45



石棒 (1/4)



石製品・小形磨製石斧 (1/2)

山形県埋蔵文化財センター調査報告書第1集

西ノ前遺跡発掘調査報告書

1994年3月25日 発行

発行 財団法人 山形県埋蔵文化財センター

〒999-31 山形県上市市弁天二丁目15番1号

電話 0236-72-5301

印刷 樹大風印刷

094 - 129